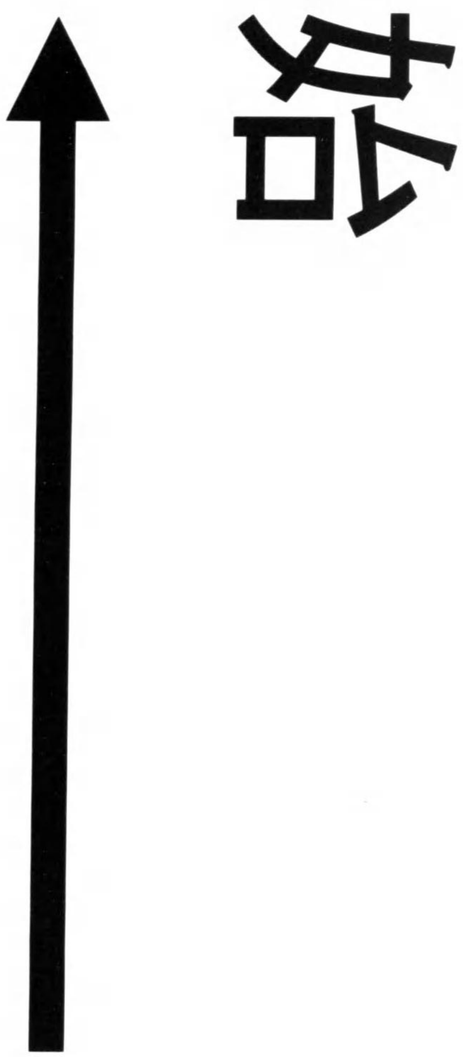
263. 6-219
1200501355191
2636
219



611

札幌市教育會編纂

# 北海道鄕土地理教授要義

北海出版社藏版

263.6-219

# 自序

昨年十二月、北海道廳訓令第五十九號を以て發令になりました「北海道廳地理教授要目」は、本道教育史上に一線を劃すべき重要なものですが、之が教授細目編纂資料として世上に流布せらるゝもの少く、且つ之の刊行年月も區々たる爲、改訂を要すべき點も多々ある樣考へられます。

依つて本會は、本年三月とりあへず「北海道鄉土研究講習會」を開き、一には要目制定の趣旨を普及徹底せしめ、二には教授細目編纂資料を提供し、三には現在並びに將來に於ける本道研究の指針を得ることに努めました。

然るに、右講習會は、時恰も學年末多忙の折に會し、且つ期間も短時日のため、充分に所期の目的を達し得ざるの憾がありました。且つ其の後當時の出席講習會員並びに出席得ざりし各地方學校より、之が講習錄の上梓を希望さるること日々多きを加へましたので、本會は右講習事項の中、先づ直接要目實施に關係あるものを編纂して、この急需に應ずべく考へましたところ、講師諸氏亦、本會の意のあるところを御快諾の

上、講習要項を一層の御推稿を加へられ、殆んど新稿に等しい研究を御寄稿下さいましたことは、本會の深く感謝に堪えぬ次第であります。

幸にして、本書が新定「北海道郷土地理教授要目」研究を促進し、明日の北海道建設に一新紀元を劃することを得ば、本會の最も欣幸とするところであります。

昭和八年十月

札幌市教育會

# 目次


北海道郷土地理教授要項に就いて……（一―八）
北海道廳視學　福井茂三郎

北海道地理研究……（一―七二）
札幌市視學　伊坂員維
札幌師範學校教諭　鳥居禮三

要領北海道史……（一―四五）
北海道史編纂長　牧野信之助

北海道郷土地理教授細目並びに教授資料……（一―二二）
札幌市教育會編纂部

附錄　北海道廳訓令第五十九號……（一―一六）

# 北海道鄕土地理教授要項に就いて

北海道廳視學　福井茂三郎

# 北海道郷土地理教授要項に就いて

老先輩曰く「此の頃郷土教育なぞと口八釜しく騒ぎ立てゝ居るのはどうしたことか。そんなことは今頃始つたことではない。自分は既に明治三十年頃郷土教育の必要を認めて着々計畫し實施して居つたものだ。」相當に鼻息の荒いものがある。若し老先輩の言の如く當時既に現在の所謂郷土教育思潮に目覺めて實施せられたのであれば全く敬意を表せざるを得ない。だが然し當時の所謂郷土教育なるものは、郷土資料を蒐集して置いて一般的教材取扱中郷土に關係ある事項を採つて之を具體化し得る場合に於て、直觀化を圖るといふの程度であつて、云はゞ一般教材の直觀化・具體化・簡易化が主要目的であり、從つて教授上の方法論的位置にあつたものである――勿論郷土資料の蒐集といふ外形的方面には今と變りはないが――ところが現在の郷土教育なるものは斯樣な方法論より一歩脱脚して、兒童の勤勞を重んじ勞作を尊んで郷土の開發進展、換言すれば行詰つた郷土の局面打開を以て任ずる、善良有爲なる公民の教養をなさんとするものであつて、此の立場に立つときは勢ひ郷土其のものを各方面から理會せしめることにつとめなければならぬことになる。之を大きな立場から考へれば郷土に對する熱愛の純情、其の純情を發展せしめて以て祖國愛を涵養せんとするものであつて、徒らに空理空論を弄び內實空虛なる言語上の論理的歸結として愛國心を教養せんとするの弊を矯めんとする

もので誠に快心に堪えぬ次第である。

所謂教育思潮といふ點から學術的に觀察すれば、鄉土教育てふ此の思潮は餘りに複合的であり非分析であり通俗的であつて、思潮としての價値を疑はれるかも知れぬ。卽ち公民教育・作業教育・勤勞教育・體驗に立つ教育・意志の教育等々、其等の何れをもとつて、其の中に包藏せしめ混成したかの觀があると共に、主知的・抽象的偏向を避け主情意的具體的であるが然し、それだけ教育の實際指針としては有意義であり有價値のものであると考へる。自分には從來の幾多の教育思潮の歸納的歸着點であるかの如く考へられ、一層此の態度に立つた教育を祈念しなければならぬと考へられる。

佐上現北海道廳長官御赴任以來屢々本道小中等學校に於ける教育是ともいふべき訓示指示を與へられて居る。卽ち本道教育の要諦は、自ら本道の拓殖に任じ其の開發進展を庶幾する善良有爲なる道民を養成することを述べられ、教育を以て道治の根本として本道教育の大道を闡明せられたことは、吾人斯道に從ふものゝ洵に感謝欣快に堪えないことである。

本道は其の地我が國の東北端に位し、地理上特殊の形體を有し、廣袤實に九萬方粁、海に山に天然の資源頗る豐饒であつて、蓋し本邦に於ける人口問題、食糧問題解決に對し特段の使命を持つた土地である。開拓着手以來六十年を閲すると雖も尙開拓の前途洋々たるものがあると共に、幾多の難關が横つてゐる。過去に於て逸速く移住して、伐木に開墾に整地に灌漑に、四六時中血と汗ににじんで開拓に任じた我等の父祖の此の大事業を完成へまで運ぶことは、何といつても現北海道民の双肩に荷はせられた任務でなくてはならぬ。

斯く考へるときは所謂鄉土教育の思潮は我が北海道に於ては當に拓殖教育てふ特殊相を以つて顯現すべきものであり長官の示された此の教育方針は現代教育思潮にピタリとあつた具象的方針であることが領かれるのである。

昨年十二月北海道廳訓令第五十九號を以て「北海道鄉土地理教授要項」が發布せられ、北海道地理に關し、本道小學校に於ては特に多くの時間を割いて十分な教育を施すべきことになつた。勿論此の要項の實施は知的に北海道地理を一層詳細に取扱ふといふことに見えるかも知れぬが、其の根本精神とするところは、以上說き來つた鄉土教育拓殖教育にあるのであつて、實務者は此の點を色彩濃厚に心中に描いて教授に任ぜられんことを望むものである。

何も地理科のみが鄉土教育を獨占すべきものではない。修身も讀方も圖畫も書方も共に打つて一丸となつて、此の目的に猛進すべきものである。此の意味で自分は鄉土科の特設といふことには不本意を感ずるものである。勿論鄉土科を特設して、鄉土に關する各般の事項を系統的に取扱ふことが悪いといふのではない。だが兎角斯くの如きものを特設すると他の教科に於ては鄉土的色彩が放擲せられて顧みられぬ結果となり易いのを虞れるのである。

乍然、地理科に於ける鄉土の取扱といふ事は何といつても鄉土教育の中心とならなければならぬものである。此の意味からして今回特に此の要項が訓令として發布せられた次第だと信ずる。然らば從來の地理科に於ける鄉土の地理及北海道地理の取扱は、實際どの樣なものであつたか。一二の例外は別として大體次々に列擧する樣なものであつた樣に觀て居る。

兒童在住地方面に關する取扱は殆んど之を行はず、尋常五年の始めに於て直ちに大日本帝國の總說をなし、次で關東地方・奥羽地方と進むの狀況である。地理科の如き、未見の地方に關し學ばんとするものは、どうしても確たる基礎觀念を獲得し、之を以て他を想像するのでなければ、到底十分な効果を收め難い。況して其の後全學年を通じて殆んど鄉

土の取扱をなさなかつた學校も相當に多いと見られる。之よりも一歩進んで地理入門當初に於て在住地々方の取扱をなすものも相當あつた樣であるが、實際教授細目を見ると多くて六時間、少なくて二時間、果してこんなことで地理的基礎概念を與へ、且つ其の地方の一通りの地理に通曉せしめることが出來るものか頗る疑問である。又尋常五年以後に於ける地理教材の夥多なるを憂慮し、已むなく尋常四年以下に於て、國語其他にて授けたる事項の整理として鄉土地理に關する事項を尋四第三學期に於て取扱つてゐたところもある。此のことは個人的意見からすれば誠に我が意を得たことゝ思ふけれども、如何せん現行法規は之を許さぬのであつて、已むなく國語科の名に隱れて地理教育を行つたといふ姿である。

次には尋四第三學期又は尋五當初に於て、鄉土地理を教授したとの理由を以て、其の後に於て高等科卒業迄鄉土の取扱をなさぬ狀況であつた。一體地理學習方法のモットーとして「鄉土に出發し鄉土に歸る。」といふことは、教育實務者の全部が異口同音に唱へることであり乍ら、實際は之を行はぬといふ始末は、理論と實際とが餘りに離れて居ることを痛感させられる。外國地理は本邦の國勢を明瞭ならしめんが爲に授くるものであるからには、本邦取扱後外國地理を授け、更に我國に戻つて內外兩國を比較考察させるといふ地理教科書の編纂は、蓋し此のモットーに依つたものであるに拘らず、鄉土地理に關しては斯くの如き取扱を缺くといふことが腑に落ちぬのである。宜しく尋常六年に於て我國の全部を授け終つた後は、更に北海道に歸り、居住地々方に歸つて眺めさせるべきでなからうか。

一體尋常五年の當初取扱ふところの鄉土地理なるものは、一は鄉土其のものゝ教授を目的として居るけれども、他面既に述べた如く地理的基本概念を與へんとする地理科の豫備的取扱に過ぎない。しかも此の時代に於て取扱ふ材料は、何といつても其の程度が極めて大さつぱで低いものでなければならぬからして、これだけの教授を以てして鄉土地理畢れりとなすは隔靴搔痒の感が深い。

更に高等科に於て外國より日本に歸つた其の際に於ては、三度本道及鄉土に還つて、世界と本道・世界と鄉土といふ點に着眼せしめ、惹いて鄉土發展の目標、鄉土其のものゝ使命を自覺せしめなければならぬと思ふ。斯樣な點の考量は何といつても從來甚だ曖昧なうちに葬られて居つたではなからうか。

更に又、自治體の機構といふ方面に就いては、それは修身科に讓り讀方科に讓り、又は上級學校の仕事に委ねてしまつて居つたかの感がある。假りに修身又は讀方に於て取扱ふとも、殆んど一般的抽象的の事柄にのみ走つて、自分の市町村といふものを當面の對象としない取扱が多いことは特に遺憾な事柄である。斯樣なことを地理科が分任すべきや否やの論議は暫く預りとするも、自治體の機構、各種組合の機構等を除外して鄉土の文化を覘ふといふことは殆んど不可能事に屬するといつてよい。殊に自治體の財政に關する事柄などは公民教養上特に詳細なる取扱をなし度いと思ふ。

鄉土より出發して一氣に關東地方の教授に入ることは、敢て不可なりとは思はぬ。敢て困難なことゝは思はぬ。乍然之れも北海道民養成といふ意味からして、一應漠然ながら北海道を概觀させた上、府縣の教授に入るのが何と考へても順當な進み方と思はれる。勿論此の取扱は、後に一層詳細に教授することを豫件として意味のあることである。

教科書は尋六に於て北海道地理を教授することに配列してゐるが、本道に於ける教育として此の配列が適當であるか否かは一考を要することゝ思ふ。既に尋五の當初に於て一應本道を概觀せしめてある以上、寧ろ全國の地理を學習せしめた後に於て北海道を授け、地理的位置の上より、交通關係上より、產業關係の上より將又文化關係の上より、北海道

其のものを中心とし、他を之に結び付け、以て本道の地位を適確に把握せしめ度いものと思ふ。何も九州地方に次いで北海道を取扱はなければならぬといふことはないと思ふ。

尋六に於ける本道地理教材の深さに就いては十分に考究しなければならぬ。昭和五年地理教科書の本道に關する部分を精讀したとき、其の記載事實が餘りに古い時代のことであり、現在の北海道の面影を躍如たらしめるのに甚だしく遺憾の點あるを思ひ、至急に之を改訂しなければならぬと考へた。改訂の研究方法として、先づ便宜札師の先生及札幌市内小學校地理教科主任の先生にお集りを願つたのであつたが、其の席上多くの方々の意見として「之れも挿入しなければならぬ。」「あれも加へたい。」「これは斯ういふ意味で是非とも。」といつたことが非常に多く材料の取捨に迷つたのであつた。然し之等の意見は誠に然るべきことであつて、どうしても眞正に北海道を理解せしめようとするには、それだけの材料が必要なのである。殊に北海道民の養成に直接任ぜられて居る先生方の御意見であるから尙更のことである。若し其れだけの材料を文部省に提出して直ちに採擇になれば、本道の爲め誠に仕合せなことであるが、何といつても國定教科書である。他府縣と權衡を失して本道のみ特に詳細に記述せられる筈はない。遺憾ながら採擇せられるであらうといふ豫想の範圍内に止めて昭和六年度使用の教科書から改正して貰つたのであつた。

即ち此の會議の話にも表はれて居るが如く、國定教科書は夫々の地方に偏せず、全國何れも大體同一程度の詳さに記述せられて居るのであつて、若しも北海道に於て北海道地理を教授せんとするには、著しく其の程度が淺過ぎることを痛感するのである。教科書に表はれて居る事項は、全國何れの地方の兒童と雖も學習する事項であつて、北海道民養成の上からしては、あんな一般的基本的なもののみであつては到底滿足出來ぬのである。北海道鄉土地理教授要項は此の見地から其の取材が相當深入りして居ることゝ思ふ。

嘗て小學校教員檢定に於ける口頭試問に、「北海道第二期拓殖計畫の梗概を說明せよ。」といふ問題が出た。所が受驗者の殆んど全部が之に關し全然知識がないといつた狀態であつたことは何を物語るか。北海道の面積現住人口といつた問題に對しては立所に明答し得られるに拘らず、拓殖計畫の根本をなす本道の人口增加率、拓計に於ける二十年後の人口收容數といつたことは殆んど考へられてゐない。換言すれば發展し躍進しつゝある北海道を現在といふ平面で切斷した其の面上の影像は相當に調査研究せられて居るけれども、動的な發展狀況といふものは案外疎んぜられて居る。現在の產業狀態は說かれても今後の產業對策（頗る大問題ではあるが）といふものは考慮せられることが尠ない。勿論地理であるから靜的平面的な觀察で事足りるといつてしまへばそれ切りであるが、之では死んだ教育といふより外にない。本道は一千萬圓前後の地方費と二千數百萬圓の拓殖費との肥料のもとに生々發展しつゝある。（勿論二百七十の自治體の經費、各種銀行會社組合等の金融といつたものも當然絕大なる貢獻をなしつゝあるのであるが）北海道地理を說くに第一第二期の拓殖計畫をぬきにして出來るものではない。小學校の地理と雖も是非とも之を取入れなければならぬものと思料せられる。教授要項には多分に此の方面を取入れられてあることを見るのは喜ばしい。

教授要項に於ける教授事項が、餘りに詳細で規定の時間内に取扱ひ兼ねるといふことを聞いたことがある。或は多くの實務者が同樣な感想を持たれることかとも思ふが、之に就ては適宜取捨選擇して敢て差支へないことは訓令中に特にことわつてある通りである。都市に於ける教育、漁村に於ける教育、農山村に於ける教育、夫々の立場がある譯であつて、全道劃一の要求があるべきでない。更に又要項中に揭げられて居る一つ一つの項目にも捨てゝ差支へないものもあ

らうかと思ふ。折角生れ出でた要項であるからには、教育者の實施結果に基き、更に改正の上完璧に近いものに仕上げ度いものと思ふ。

地理科教授時間には一定の制限がある。斯くの如く多量の時間を郷土教育に充當すれば、他地方の教授が出來ぬといふ批評には極めて多數接して居る。尤もな意見ではあるが然し、同じ本邦各地の取扱と雖も、本道民といふ立場から自ら濃薄の差別があつて可然ものと思はれる。否無くてはならないのである。餘り關係の薄い他府縣の地理に色々と理窟をつけて細かな探究をするより――勿論事に依りけりではあるが――もつと自分達の生活に直接關係ある事項を精査した方がよい。日本の教育が兎角劃一に失するといふ批評は此の邊にあるのではなからうか。教科書の總頁數を一ヶ年間の週數で除し、毎週何頁宛授けるといつた樣な按分細目は、有つて無きに如かずといふことにもならう。從つて今後如何なる地方の如何なる部分を輕減するかといふことに就いて特段の研究を望んで息まぬ。

昭和七年秋旭川市に於いて開催せられた全道六市小學校協議會に「兒童在住市町村及北海道地理教授」に關し長官から諮問せられ其の答申があつた。道廳は此の案を更に北海道聯合教育會に移して研究を求めた。聯合教育會は委員會を開催すること數回、其の結果を報告した。道廳は更に廳内に小委員會を開いて協議に協議を重ねた結果、漸く成案を得て訓令の發布とまでなつたのである。從つて天降り的に發布せられたものでなく充分小學校側の意見は尊重せられて居る譯だ。全道教育實務者に依つて、一層具體的の研究を行ひ、地理教授否本道民養成に特段の努力あらんことを望んで息まぬ。

（昭和――八――六――三〇）

# 北海道地理研究

札幌市視學　伊坂員維
札幌師範學校教諭　鳥居禮三

# 北海道地理研究　目次


第一章　郷土地理の本質……（一）
第二章　北海道の地理區……（四）
第三章　北海道の地形……（七）
第四章　北海道の氣候……（一三）
第五章　北海道の產業……（二一）
第六章　北海道の交通……（五二）
第七章　郷土調査要項……（六一）


## 圖表目次


一、北海道の地理區……（六）
二、北海道の地形區……（一〇）
三、北海道の氣候區……（一五）
四、函館・壽都・札幌・根室の氣候……（一七）
五、森林分布圖……（二七）
六、鐵道交通圖……（四四）
七、驛遞分布圖……（五六）
八、沿岸航路……（五八）


# 第一章　郷土地理の本質

郷土地理は地理學の本質の上に基礎づけられたものであるから、郷土地理研究が新に叫ばれたと言つても別に新しい研究方法が存在するものでもなく、地理學の目的なり、本質が、そのまゝ郷土地理の目的本質に關與するものである。現在行はれてゐる郷土地理教育に於ては次の三相の見方がある樣に思ふ。即ち「郷土に關する地理教育」「郷土主義の地理教育」「地理教育の郷土化」の三つである。「郷土に關する地理教育」に於ては、兒童生徒に郷土の自然・人文及びその相關關係について教授し、彼等が直接關係する郷土を明かにすることを目的とする。

「郷土主義の地理教育」は郷土を認識することによつて、眞の郷土人としての郷土的生活の體驗者となり、而してかゝる郷土的體驗生活を通して有爲な國民を作り、更にそれを通して人間として優秀なものを作らんとするのである。

次の「地理教育の郷土化」は最も入り易い方法で、從來の地理教授細目をして幾分でも郷土と結びつけ、郷土に見られる直觀的材料によつて他地方の理解に便ならしめ、それによつて地理教授の効果を上げようと努めるものである。即ち日本地理、外國地理教授の手段として郷土の直觀的材料を擧げ、比較類推させるもので地理教授上必要なことである。しかし或程度を越えた場合には却つて滑稽に陷ることが多いし、又郷土地理の本質から考へた時にも贊成し難い部分がある。それは郷土地理教育の一手段として、或は道程としては意義があるが、單に郷土を結びつけた教授細目を作り、

これに滿足して鄉土地理教育が出來たと考へるやうでは誠に大きな錯誤と言はなければならない。

我々は地球上に生存する以上自然の制約を免れて生きることは出來ない。鄉土人は鄉土の環境を離れて生活することは不可能である。その環境によりよく適應して行く場合に、よりよき鄉土文化の發展を期待することが出來る。鄉土地理研究の對象は土地そのもののみではない。土地自然と人間活動の調和の上に現れる文化をも含む。故に鄉土の正しき認識を要求する鄉土地理に於ては、鄉土の自然事項と人文事項並びに自然・人文相互の關係を研究の主題としなければならない。そこに當該地域の鄉土的特質の認識を深め、地理的特徴を正確に把握することが出來、又自然・人文諸現象の關係を綜合的に認識する所に鄉土地理の學的基礎を生み出すのである。

鄉土といふ特定地域は各々その鄉土的特質を備へてゐる。他の地方と異つた特質（必ず異つたもののみとは限らず共通的なものも存するが）があつてこそ鄉土研究の意義も生れよう。そこでかゝる鄉土的特質といふものは何によつて作られるかといふことは重要な問題である。

鄉土の文化はその地域的特質（風土）とそこに住居し又居住する人口集團の働きによる所産であることは明かである。自然が產み出したものでもなく、人間の力で產み出されたものであるとは言ひ乍ら、その自然的環境と離れて創られるものでもない。相互の働きによつて產み出されるものである。即ち地表上の個々の場所の自然は相異る特性を有し、人間生活の仕方も亦場所に應じて相異するとせば、前者の不變性に對して後者が可變性である。兩者が相關聯して各地に統一的な場所的文化を形成することを考へ得られる。人は自然の子である。所詮自然の制約から脫することは出來ない、自然を征服し得たと考へることもそれは自然を利用し、自然に適應したに過ぎない。

地表面に於ける自然環境の相異に從つて、そこに現れる人文現象（文化）も亦必然的に異つた型になる。（環境の力の及ぶ限界を考へない場合には、原始環境論・素朴唯物論に陷り易い危險を持つ、人間は自然の子であると共に意志の力を持つてゐる。）それが結局その地域の鄉土的特質になるのであるから、鄉土的特質は立派な地域的實在であることに疑ひはない。この地方性を認識するのが地理學の特性であり、鄉土地理の意義の存する所以である。綿貫氏は「地方の最も純粹なものは鄉土であるから、全地球的見解を忘れないなれば鄉土を對象とする鄉土地理學は最も純粹な地理學である」と述べて居る。

然しこゝに注意すべきは、斯く鄉土といふ特定地域は鄉土的特質を有して居るとは言へ—鄉土に於て他の地方と異つた自然的環境並びに文化に於て特異性があるとは言へ—地表面の一部を占め、世界に於ける日本の一部を形成して居るものであつて、孤立して居るものでない。他の地域と密接不離の關係を持つ強い紐帶で結び付けられて居るから、その特異性を無條件にきめてかゝれば、それは地域に捉はれた非科學的のものとなるのである。

著しい鄉土の特質といふものを見出さうとするのはよいことではあるが、又一方廣く地人相關關係に於て國內共通、世界共通の性質ある點に眼を著けて、それも同時に見出すことに努めなくてはならない。若しさうでなかつたなれば地方的特異性であると思つたことも世界共通の一般的理法であることが屢々存し、そんな研究であれば學問的に價値のないものになつてしまふ。

鄉土の範圍を如何なる形式に取らうとも亦如何に狹く取らうとも、それは一國の一部であり、地球上の一部であるといふ形式內容を具備するものとせば其の意義を十分發揮することが出來る。これに反して若し鄉土の範圍を地球上の他

の地方から絶縁されて、恰も金城鐵壁に圍まれた地域のやうな意味のものと前提してこれを取扱へば、其結果は學的には獨斷となり、記述的になり、しかもいまわしい地方的根性を誘致するの弊を繰返すのみとなり、眞に望む所の目的は得て望むことは出來ない。而も鄉土研究それ自身の眞の意義を沒却して了ふことになるのである。

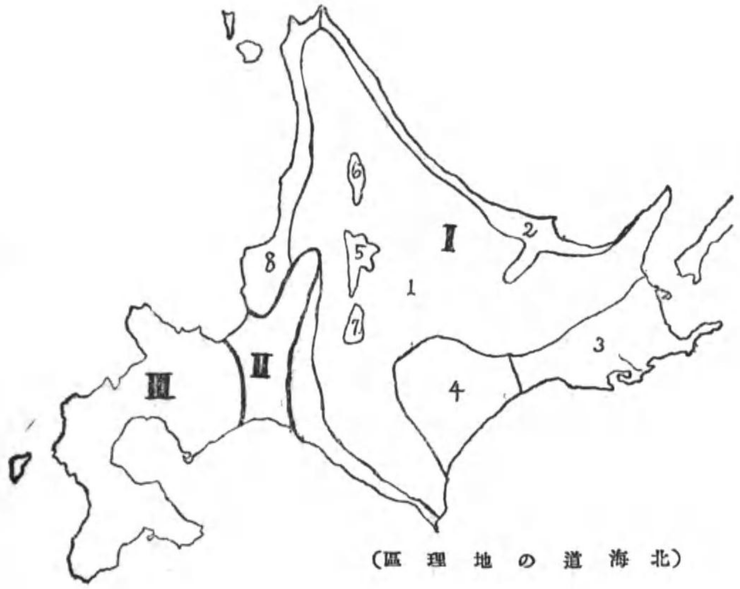
要するに鄉土といふ綜合體は決して他と孤立して存在するものでなく、又一面世界の縮圖でもなく、地方的に、國家的に、大陸的に、進んでは全世界的擴がりを持つ所の一大地域の中心核的地域であることを銘記して、この鄉土を對象とする鄉土研究が、單に細かく調査研究するのみでなく、眼界を擴くして他の地域のそれに關心を持つて進んで行かなければならない。卽ち我々の最も親しみ深い鄉土を地人相關關係の立場より研究體得し、更に鄉土愛と鄉土人としての自覺に進むと共に、その正しき地域的實在の認識を基準として國土と國民、世界と人類への實在的關係の認識に展開して行く所に鄉土地理の意義の深さと鄉土地理教育の使命を達成せらるゝものと考へられる。

# 第二章　北海道の地理區

地誌の研究は地理學の最高の研究であり、地理學の本體が地誌にあると考へられるに至つて近來地方地理—地誌—の研究が甚だ盛んであると共にその秀れた論文も少くない。而して地誌の研究は或る特定の樣式を持つた地域—地理區—を單位としてその地域を闡明するに他ならぬ。故に地理の最も中心となる地誌が地理區の研究にあるとすれば地理の本體は地理區を明かにすることに歸結する。

地球上に於ける我々人類活動の樣式は地方により異つて居ることは言ふ迄もない。これを支配する所の自然的環境も地方によりそれ〴〵特殊の樣式を具へてゐる。この自然的環境とその地の人類活動の樣式との間は因果相關密接不離の關係で緊く結びつけられてゐる。我々はそれら自然・人文の相違によつて地表面を幾つかの樣式に分類することが出來る。卽ち大きく地球表面全體に於ても、或は日本列島に於ても、又本道內に於ても或る地域地域によつて統一的集合體として各々特殊の樣式のあることは卽ち各々の地域はそれ〴〵の個性を具へてゐることを發見せらるるのである。この人類活動の樣式とそれを支配する自然的環境の樣式が一つに纏つてゐる地域を地理的地域となし、地理區或は地理的單元と稱する。故に大地理區を小地理區に分け、更にそれを細分して行くことも亦その反對の場合も可能なわけである。

北海道地方は一つの地理的單位として初等教育の際にも取扱はれてゐるが、本州は地方別により奧羽地方・關東地方・中部地方等(行政區ではない)に區分され、尙府縣別に教授されて居るが、この行政區と地理區とに如何なる關係があるかと考へるに、その區劃が同一のこともあるし異る場合も多い。行政的區分によることももとより意義の存することであるが、地理教授を一層有効にするには地理的區分によるべきで、假令兒童に地理區に就いて教授しないとしても、教師が地理區の觀念を持つて教授すべきの必要に就いては議論の餘地がない。大地理區より中地理區、小地理區と分け、尙詳細にする場合には細密な地理區單元によつて行けば如何に小地域を取扱ふとも、それは全體と部分との關係がそされ、學問的にも價値を持つて來るわけである。又小地理區より中地理區を、尙大地理區に、更に世界にまで及間の地理的理法を纏めて始めて地理學通論が成り立つものである。




（北海道の地理區）



扨て本道は行政的には七市十四支廳に區分居る。これを單位にして行くことも意義がある。體を一地理區として述べるとか或は北海道本島と千・との二區分にして行くとかの方法もある。併し更に細分した地理區を考慮することは前述の考へからして必要なことである。行政區劃に於ても地形等が相當考慮され、その區分の基本となつてゐる場合が少くないから地理區と行政區が同一の場合もある。例へば網走支廳の如きは北見海岸平野としての自然・人文に特殊な樣式を具へた一つの地理的單元をなしてゐるが、又反對に根室・釧路國支廳の如く地理的に同一樣式を持つて居つて二支廳に區分されてゐる所もある。

地理區々分に當つて兩地理區の境界が明かな場合と甚だ明瞭を缺き漸移の場合も多い。又學者によつて區分法が異ることがあるが、今は地理區研究の先驅者たる田中教授の區分法に從つて次に示すことにする。地形以下の諸章は大體次記の區分を考慮して記述を進めて行く考へである。

北海道
- I 胴體部
  - 1. 主體山地
  - 2. 北見平野
  - 3. 釧路根室平野
  - 4. 十勝平野
  - 5. 上川盆地
  - 6. 名寄盆地
  - 7. 富良野盆地
  - 8. 中央山地の西部周緣地
- II 中央低地（石狩川流域及勇拂低地）
- III 半島部（後志地塊以南—渡島半島）
- IV 千島列島

# 第三章　北海道の地形

北海道本島は單一の地形的地域をなしてゐるが、全體として決して等質の地形的性質に依つて特色づけられてゐるのではない。先づ胴體部には、本島の中央を南北に縱貫してゐる蝦夷山脈が北は宗谷岬より南襟裳岬に連なつてゐる。更に太平洋を繞る火環（千島火山脈）は東知床半島より北海道半島に入り東北—西南の走向を持して雁行狀に走りながら、中央分水山脈に會してゐる。德田博士の所謂「北日本會合」で兩者は本島の骨格を作り、その形態を決定し、且大分水嶺をなしてゐる。南、渡島半島部は津輕海峽を隔てゝ奧羽地方に連絡し、恰かも東北日本の如き特性を現はし、又那須

火山脈に屬する火山地域となつてゐる。この東西兩地塊の結合地帶に當る所には中央低地が石狩膽振の間に展開し、前記胴帶部と半島部の兩地塊を癒着して居る。

蝦夷山脈は北海道島の主體を構成し、石狩山地を中にして、北部は北見山脈、南部は日高山脈となつてゐる。北見山脈は最高峰天鹽岳に於て一五六五米に達し、其の他の地域には七五〇米より九五〇米程度の峰が多い。石狩山地では多くの峰は一八〇〇米を越え、主峰石狩岳が一九八〇米に及んでゐる。前者は比較的溫容な山形をなしてゐるが、後者は壯年期に開析された大起伏の山地が多い。南方の日高山脈は他の何れの山地よりもその高度の勝れてゐるのが特色である。最高峰は同山脈の略中央を占むる幌尻岳で二〇五二米の高度を示し、先年この附近で氷河侵蝕によるカールの遺跡が發見されてゐる。この他二〇〇〇米内外の峰々は鋸齒を刻んで高山性の雄大なる山容を現出して居る。東方十勝平野に面しては一五〇〇米を越ゆる高い急な崖を以て下り、この斷層崖の麓には山地より發する多くの急流によつて生じた複合扇狀地が極めてよく發達して居る。而して西方日高海岸へは比較的徐々に下降してゐる。

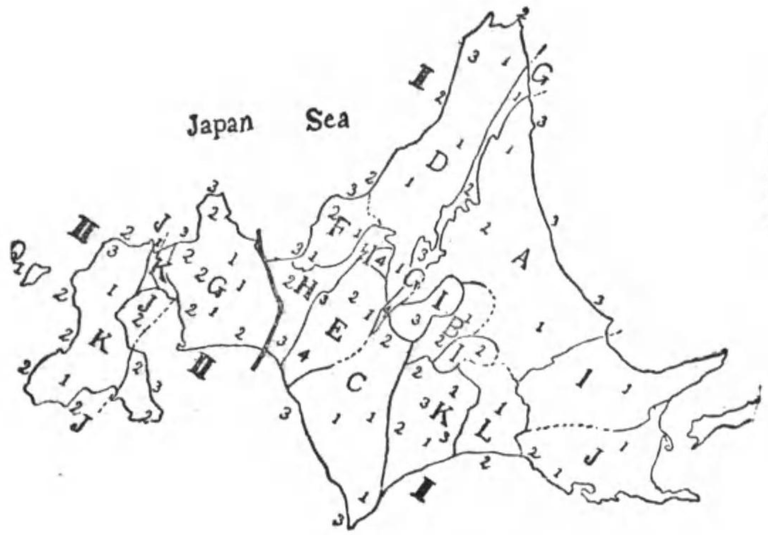
これら南北に連なる山脈は甚だしく交通の障害をなし、北の北見峠（八四七米）、南の狩勝峠（八五〇米、鐵道トンネル—五三三米）等の鞍部は僅に東西交通の要路となつてゐる。

千島火山脈には蝦夷山脈に相會する附近卽ち本島の略中央に位して大雪山火山群がある。主峰旭岳は本道の最高峰（二二九〇米）をなし、附近には十勝岳（二〇七七米）其の他二〇〇〇米を拔く高峰が多く連つて本道の屋根をなしてゐる。東方には完全な双子火山の形態を有して知られてゐる雄阿寒岳・雌阿寒岳を中心にして、附近には屈斜路・摩周のカルデラ湖溫泉等を有し、大雪火山群と共に國立公園に指定せられてゐる。

蝦夷山脈の西方には前山の形に於て天鹽・夕張の兩山脈が略平行して南北に走つてゐる。その間には一列の斷層盆地群を挾んでゐる。前山は主山脈に對して高度は劣つて居るが何れも北方より南方に高さを增してゐる。天鹽山脈の地形は東方の北見山脈に酷似し七八百米の峰が多い。山地の東緣は斷層崖によつて中央陷落地帶の縱谷盆地列に望んでゐる。天鹽山脈の南には空知川の峽谷を隔てて夕張山脈が略南北に走つてゐる。前者に比して高く、多くの峰は千三百米を越えてゐる。東方富良野盆地に對しては高い階級斷層崖を以て下つてゐるが西方への傾斜は徐々である。その端に於ては低い斷層崖によつて石狩膽振の低地に接して居る。

かく主山脈と前山との間に挾まれた陷落地帶には北より名寄盆地・上川盆地・富良野盆地の三盆地が並んでゐる。これら盆地の分水界は低く一通谷をなし、中央分水山地に源を發する天鹽川・石狩川・空知川によつて灌漑され、これら諸川は或は横谷を切り先行性流路を持して西方の山地を貫き西流して日本海に注ぐ。神居古潭の峽谷は石狩川の横谷に外ならない。天鹽山脈の西南方には增毛山地が聳え、その最高部は一三七六米の高度を有する熔岩台地である。西方日本海方面には高い海蝕崖を以て望み、東緣は斷層崖によつて斷ち切られ、東方夕張山脈との間に石狩地溝帶を挾んでゐる。北方天鹽川の下流流域には廣い沼澤地の發達がある。

胴體部の東部卽ち蝦夷山脈以東の地域は阿寒其の他の火山群によつて二分せられてゐる。北部の北見海岸平野には常呂川・湧別川等の短小なコンセクエントの河川が並列し、海成段丘を切つてオホーツク海に入る。沿岸は至る處砂嘴が發達しその內側には猿澗湖・能取湖等の潟がある。南部には千島火山脈の南麓に接して廣い區域に亘る根室・釧路の台地が發達してゐる。この海蝕台地は海岸より六〇粁の遠距離にまで及んで居り、台地面を侵蝕して出來た谷は多く濕地




（北海道の地形區）

となつてゐる。海岸は花咲半島から釧路に至る間は岩石海岸で厚岸灣はその著しいものである。十勝平野は三方山に圍まれた盆地狀の地域で、西方は日高山脈東緣の麓に發達した複合扇狀地をなし、北方は然別の火山群に限られ、東方は根室台地に續く小起伏の白糠の丘陵地がある。而して南東には約八十粁の幅を持つて開けてゐる、廣大な所謂十勝海岸平野は階段狀に南東太平洋に向つて緩斜し、十勝川はその中に更に谷底平野を作つて流れてゐる。

中央低地は胴帶部と半島部を癒合する低地帶で石狩川は增毛・夕張兩山地間の地溝帶を蛇行帶として多くの三日月沼を殘して自由蛇行し、下流には强力なアグラデーションによりて築かれた低平な沖積地を展開して狹義の石狩平野の名で呼ばれて居る。南方太平洋岸の平野は樽前火山の浮石層の堆積による低い台地で石狩平野とは僅に追分南方の極めて低い分水界によつて





境されてゐるに過ぎない。

半島部は中央低地西緣を以て境され、後志地塊以西の地域で津輕海峽によつて斷絕されてゐるが奥羽地方とは一連の陸地帶である。この地域は平野極めて少く大部分火山地域である。即ち此地域は强い横壓力を受けた結果地殼が潰裂して岩漿帶中に沈下し、その空隙又は割目に地下の岩漿が無秩序に、容易に、大規模に、且長期に亘つて地表に噴出した處と考へられてゐる（京大本間理學士說）。東北部にある廣大な火山性台地と西方の山地との間の陷落低地はその後に生じた雷電岳・ニセコアンヌプリ・蝦夷富士等の火山に埋められてゐる。支笏・洞爺のカルデラ湖及噴火灣の陷落凹地は火山活動の負の表現と見做されて居る。この地域は近年極めて火山活動が旺盛で樽前山・有珠岳・駒ヶ岳等噴火灣を繞る諸火山の猛烈な活動は世人の記憶に新しい所である。

千島列島は多くの火山列からなり、新知島以北を北千島と稱し、それより以南を南千島と呼ばれてゐる。雁行配列は規則正しく現れて居り、南千島に於て特に著しい。北千島に於ては活動の盛んな活火山に富み、標式的なカルデラ湖や火山錐が知られて居る。最近この方面の調査研究も漸く進んで來た。

最後に參考のために地形區分圖と共に渡邊光理學士の研究（地理學評論第七卷第十一號、昭和六年十一月）による北海道地形區分を一括して表示する。本文も渡邊氏の所論に負ふ所多きを以て此處に敬意を表す。

| Divisions I 北海道本部 | | | |
|---|---|---|---|
| Sections | Localities | Sections | Localities |
| A 北見山地 | 1.從順形山地<br>2.ウエンシリ地壘<br>3.海成段丘 | G 中央陷落地帶 | 1.頓別陷落地<br>2.名寄盆地<br>3.上川盆地<br>4.富良野盆地 |
| B 石狩山地 | 1.侵蝕遺物<br>2.開析平夷面 | H 石狩勇拂低地 | 1.石狩地溝帶<br>2.石狩低地<br>3.火山灰高地 |
| C 日高山地 | 1.壯年山地<br>2.從順形山地<br>3.海成段丘 | I 東部北海道火山地域 | 1.屈斜路火山群<br>2.然別火山群<br>3.十勝火山群<br>4.イルムケツプ |
| D 天塩山地 | 1.從順形山地<br>2.海成段丘<br>3.海濱低地 | J 根室高地 | 1.海蝕台地<br>2.谷中低地 |
| E 夕張山地 | 1.蘆別傾斜地塊<br>2.美唄傾斜地塊<br>3.南部小起伏地域 | K 十勝海岸平野 | 1.海岸平野<br>2.扇狀地<br>3.氾濫原 |
| F 增毛山地 | 1.壯年山地<br>2.增毛熔岩台地<br>3.海成段丘 | L 白糠丘陵 | 1.白糠丘陵<br>2.海成段丘 |

| Division II 東北日本 | | | |
|---|---|---|---|
| Sections | Localities | Sections | Localities |
| G 西部北海道火山地域 | 1.火山性台地<br>2.火山錐<br>3.海成段丘 | K 渡島山地 | 1.壯年山地<br>2.海成段丘<br>3.狩場山火山塊 |
| J 中央盆地列（北端の二盆地のみ北海道にあり） | 1.壽都灣<br>2.噴火灣 | Q 日本海島列（最北の一島のみ） | 1.奥尻島 |



# 第四章　北海道の氣候

北海道の氣候の地理學的研究に就いては東京文理科大學地理學教室の福井理學士の周到綿密な研究によつて大いに明かにされて來た。今同氏の本道に關係ある論文として次の三つの主要なるものを上げることが出來る。

一、北海道の氣候學的研究　地理學評論　第五卷　第九號（昭和四年九月）

二、根室地方の氣候と農業　地理學評論　第五卷　第十二號（昭和四年十二月）

三、日本の氣候區　地理學評論　第九卷　第一號—第四號（昭和八年一月—四月）

一にありては本道の氣候を幾多の資料によりて說明的に記述されたるを以て本道氣候の概念を得ることが出來る。二に於ては本道內の特殊地域として海霧の多い根室地方の氣候と農業との關係を明かにし、三に於てはその研究より日本全體に及び氏の創意による日本の氣候區を決定されてゐる。而して本章にありては始め本道の氣候の特徵について述べ次に氣候區の說明に及びたい。

本道は北方に位置するために我が國の南部地方に較べて氣溫は遙に低く、札幌と東京との年平均氣溫を比較すると六度乃至七度位の差がある。北海道の特色ある景觀もこの冷凉な氣溫による處が少くない。且つ本道は土地も廣く、地形も複雜であり、四面海を環し、寒暖兩海流の影響もあつて氣候の狀況も所によつて可なりの差違が發見される。津輕海

峡を隔てゝ本州と對してゐる半島部渡島檜山地方は却つて奥羽地方の氣候に近く、ぶな等の溫帶林であるが、北方或は東方に進むに從つて、とゞまつ・えぞまつ等の寒帶林に變るのも地方的に大きな氣候の相違を物語るものである。本道は後志地塊を境界にして二大區分され、更に東部は蝦夷山脈によつて東半部と西半部に分けられ、それらの間には氣溫・雨量・積雪等に著しい相違が見出される。

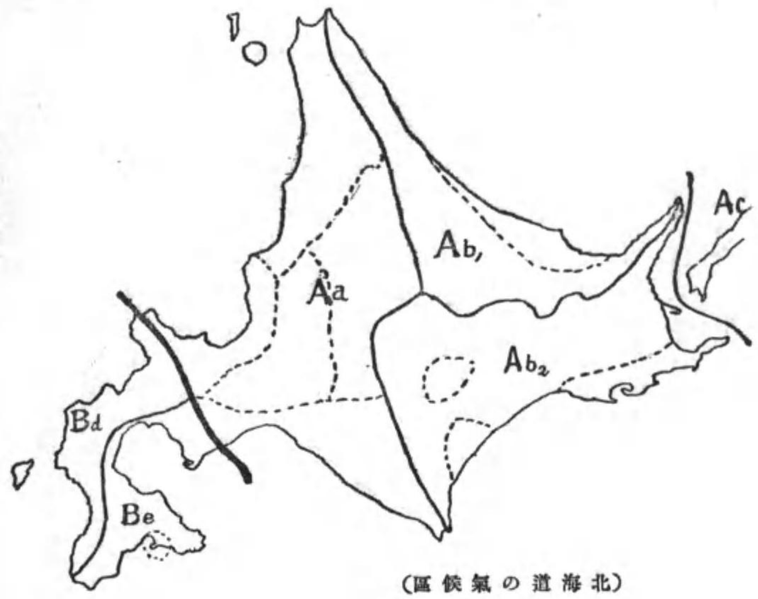
冬の等溫線は南部地方では略々緯度に並行して走るが、北部地方では海岸より内陸に向つて低溫となり、上川盆地・帶廣附近が極端なる低溫を示すのは内陸の影響である。

日本海岸が太平洋岸より比較的高溫である。且つ根室及び北見等のオホーツク海岸では冬期一般に凍結及流氷の襲來があるが日本海岸ではこれを見られない。これは對島暖流と親潮の關係によるのである。

夏の等溫線は大體海岸線に並行し、冬期と反對に内陸地方が高い。上川盆地はために米作の中心をなしてゐる。太平洋岸が著しく冷涼を示すのは夏期此の地方特有の海霧に原因するためで、根室地方の農業を著しく不振ならしめる。尚濃霧は海岸に沿ふて西方襟裳岬に達し、ために沿岸四粁の地帶は米作不能に陷らしめてゐる。根室、釧路に比し北方の北見地方は却つて高溫にして稍々大陸的特性を有してゐる。

降水量も我が國南部地方に比して遙に少く一〇〇〇粍以下の區域も可なり廣いが農業には差支へない。大體九月に極大、二月に極小を示してゐる。中央山脈の兩側で降水量分布が異り、西部は東部に比して一般に多量で且つ冬季著しく多いのは西北季節風に伴ふもので、從つて西半部に降雪積雪が大である。而し奥羽地方に比してその量は劣る。冬季東半部は晴天の日が多く、年降水量に於て北見地方は最も少い。






（北海道の氣候區）

次に北海道の氣候區につき前掲福井氏の區分によつてその概略を記すことにする。

- 北日本
  - (A) 北海道區
    - (Aa) 西北海道地方 —— 天鹽・小樽・札幌・上川・苫小牧附近
    - (Ab) 東北海道地方
      - (Ab1) 北見地區 —— 網走附近
      - (Ab2) 十勝根室地區 —— 花咲・帶廣・廣尾附近
    - (Ac) 千島地方
      - (Ac1) 北千島
      - (Ac2) 南千島
- 中部日本
  - (B) 南西北海道區
    - (Bd) 檜山地方
    - (Be) 渡島地方 —— 函館附近

註　福井學士は日本を三大區分して北日本、中部日本、南日本となし、北日本は樺太・千島・北海道（除渡島半島）中部日本は北海道南端部・本州・四國・九州・伊豆七島・朝鮮、南日本は琉球・臺灣・小笠原諸島とされた。

前表により本道の氣候區は後志地塊を境界として北海道區と南西北海道區に二大別され、更に北海道區は東北海道、西北海道、千島の三地方に分け、南西北海道區は檜山・渡島の二地方に分けられる。

**(A) 北海道區**—北海道區は氣温の配布及び降水量並びにその季節的配布の上に地理的差違を明かに認め、三箇の小氣候區に區別される。中央蝦夷山脈により二分された西半部は東半部より雨量多く、年一〇〇〇粍以上の地方が多いのに後者は一〇〇〇粍以下の地方が多い。又西半部は冬期雪量多く裏日本型に屬し、東半部は冬期雪少く、晴天多く、太平洋岸のタイプに屬してゐる。千島地方は年中變化少く雨量は一〇〇〇粍以上の地方多く且つその季節的配布は前二者が九月極大、二月極小なるに反して一年中に二回の極大(十一月、五月)と極小(六月、二月)を示してゐる。

**(Aa) 西北海道地方**—北海道本島の西半部中後志山塊から西を除いた部分で、東は北見日高山脈により境されてゐる。東北海道地方に比し夏期著しく高温で冬期稍低温である。前述の如く降水量は東北海道より多く特に冬期著しい。この地方は比較的面積大きく地形も錯錐してゐるため各地により多少氣候を異にしてゐるが大體次の五區になる。

**〔天塩附近〕** 北見山脈の西、天塩川の流域に始り此谷に沿つて名寄附近まで入り込むが、これより南では天塩山脈がその東境を、増毛山塊が南境を作つてゐる。冬季氣温は海岸より内陸に急に低下し、風强く、積雪は天塩川の谷及び其他日本海に面して開口した谷の奥地の地方が最も多く又其の期間も長い。

**〔小樽附近〕** 天塩附近の南方に續き小樽灣に沿ひ積丹岬に至る地域で小樽はその中心をなす。天塩附近と共通性が多いが冬期稍々温暖である。

**〔札幌附近〕** 石狩平野の中央部を占め北東部は石狩川の谷に沿つて瀧川附近に迄達し、南方は略追分—千歳の線に

（不心得者）

欠

又冬季北方より流氷が海岸近くまで達すること多く、ために附近の港灣が封鎖されることが珍しくない。

(Ab₂) **十勝根室地區**—北見地區の南方に位し、十勝・釧路・根室を含む廣大な地域である。北見地區との氣候的差違は前述の如くであるが、特に太平洋緣邊地方は夏季海霧の現象が著しいことにより特別區域をなしてゐる。十勝平野の中心をなす帶廣附近は他の地方と隔絶し、氣候が大陸的なことによつて一地域を作つてゐる。海岸地方は內陸とは氣候的に異り、溫和で、又東北海道中最も多雨な地方である。

**〔花咲附近〕** 花咲半島より釧路の西方に達する海岸低地で、濱中灣・厚岸灣等が灣入してゐる。夏季の海霧によりて最もよく特徵づけられ、氣溫は夏季却つて北方の網走附近よりも低く、略西樺太の眞岡附近に匹敵する。

**〔帶廣附近〕** 帶廣を中心として略盆地狀をなし、周圍は山地により圍まれ、唯十勝川の谷が東南の低地に開いてゐるに過ぎない。從つて冬季は寒さ酷しく、旭川と比較しても却つて低溫で北海道の寒極とも考へられる。然し夏季は相當高溫で、此地方が東北海道中局部的に著しく大陸的で上川盆地と共に氣候的に北海道の中心を作つてゐる。

**〔廣尾附近〕** 十勝川の下流地方より日高山脈の南端に到る太平洋に面した地方で、冬季は非常に溫和で、略西北海道の苫小牧地方に等しいが夏季は東方花咲附近と同樣に氣溫低く、從つて年較差は極めて小さい。降水量は四近の地方に比し甚だ多い。

(Ac) **千島地方**—北海道本島とは根室海峽・野付水道によつて分たれ、北東はカムチャツカ半島の南方にまで達する。北海道本島に比して降水量は秋・冬季に多く、又甚しく海洋的である。南西より北東に進むに從つて氣溫の年較差が減少し、最寒月(二月)の平均氣溫は大體北方程却つて暖くなるといふ奇現象を呈してゐる。然し千島海峽を越えて一



欠

歩カムチヤツカ半島に入れば事情は一變する。晩春より初夏にかけて北方より寒冷な水が流れて來るため氣溫の上昇は非常に徐々で又北海道の東南岸と同樣に夏季に海霧の現象が著しい。

千島地方は更に北東と南西の二つの準小氣候區に分けることが出來る。

(Ac₁) **北千島**・(Ac₂) **南千島**—北千島・南千島は氣溫が更に海洋的で最も寒い二月の氣溫は南より北が高い。夏は氣溫が低いから一年中の氣溫の變化は少い。海霧は中央の諸島に多く、オホーツク海より來る流氷は南千島の方が多い。南北千島の境界は未だ確實に決定されてゐないが恐らく得撫島と新知島との間にある樣に思はれる。

(B) **西南北海道區**——北海道本島中後志山塊以南の半島部の地域で日本海・內浦灣・津輕海峽に面してゐるので全地域に亘つて必ずしも一樣の氣候を示さず、特に日本海岸と東方の內浦灣岸との間に可なり大きな差を認めることが出來る。北海道區とは主として氣溫の差違によつて區別され、就中冬季に於て最も著しい。前者は一年中四ヶ月の平均氣溫が氷點以下であるのに對して本區は三ヶ月に止まるのである。又最寒の一月の平均氣溫は壽都は零下三・四度であるのに、札幌は零下六・四度である。併し降水量に於ては著しい差違を認め得ない。西南北海道は更に檜山地方と渡島地方の二小氣候區に分つことが出來る。

(Bd) **檜山地方**—日本海に面した地方で東方の渡島地方とは略東西海岸の分水嶺によつて代表される。唯壽都附近では地形上低地帶に沿つて黑松內町の南方附近に迄及ぶ。渡島地方に比べると冬季降水量多く、從つて降雪積雪が遙に勝れ、本州の西海岸と類似の特性を具へてゐる。卽ち此地方は津輕海峽を越えて本州の日本海岸區に接續するものと考へられる。更に檜山地方は北部を除いては渡島地方より稍高溫である。

(Be) **渡島地方**—此地方の特性は前述により大體明かであるが、南方津輕海峽に面した地方は他と稍異なり、函館附近の特殊地域を形成する。內浦灣岸及び日本海岸に比し稍低溫で夏季尙海霧の現象を見る。

# 第五章　北海道の產業

## 一、概　觀

昭和四年に於ける本道の總生產價額は五億四千八百萬圓であつたが、昭和五年には四億四千萬圓となり、前年に比して一億七百萬圓の減少を來した。これは打續く財界不況の影響を受けて一般物價の低落によるもので、更に昭和六年の生產總額は僅かに三億一千七百萬圓に大激減をなした。これも天候不順の結果、農產物の凶作に依る一時的現象であつて、十數年來にない低額を示すの悲境に陷つたのである。現在世界的經濟界不況の波動を受けたことと、天災に禍ひされて目下全產業不振の狀態にあるが、今後拓殖の進捗と共に經濟界回復するに到らば、本道產業の發展も期して待つべきものが多い。

本道開拓當時の產業は漁業を以て始り、從つて往年に於ける生產額は水產業が首位を占めてゐた。其の後開拓が漸く進展し、文化は海岸から次第に奧地に進み、人口增加と共に農業が著しく進步した。近年亦工業の勃興目覺しく工產・農產は水產を凌駕して第一位・二位を占め(昭和六・七年の農產額が水產額より稍減少をみせたのは一時的現象である)

共に本道の三大産業として最も重要のものである。

我々の生活が土地と離れて存在しないと云ふことは、我々の持つ現在の經濟文化が土地自然と密接不離の關係に於て結ばれてゐることを意味する。然らば現在の本道産業が如何なる地理的條件によつて規定せられてゐるか、と云ふと甚だ複雜多岐に渉つてゐる。即ち主なるものは本道の北方的位置と寒冷な氣候、大きな平野と廣い山地、長い海岸と海流等の條件を擧げることが出來る。而してこれら條件の全關性の中に現在の北海道文化が規定されてゐる。即ち北方的位置は文化の中心地たる東京からの距離が多く、又その經濟文化の中心地からの遠隔性と封鎖性のため、且つ經濟活動の前面は一方的な南面だけに向つて居るため自らの文化の發展性に多大の抑壓が加はる、その結果奥羽地方より一層植民地的色彩を與へてゐる。

降雨の少い寒い氣候は濃霧と流氷の襲來の原因となり作物及び海上交通に妨害を與へ、その廣い平野と共に麥類・豆類・馬鈴薯・亞麻・甜菜・牧草などの寒冷農作物を規定する。その外大規模な牧馬を可能ならしめてゐるのである。又本道の廣い山地は石狩炭田や幌別の硫黄その他の鑛産物を多く産し又白楊・蝦夷松・椴松・檜・樺などの用材・薪炭材・製紙原料鐵道枕木などを生産す。更にその廣い海岸は漁族の棲息場として鰊を主とし、鰮・鮭・鱈・鰈・鱒・カニ・昆布などの漁獲物を出す著しい機能を示してゐるのである。そしてこれら生産物は社會的分業の自然的基礎となつてそれ〴〵の地方に特有なる文化を發展せしめてゐる。勿論これら地理的條件は唯生産物、ひいて文化の發生に對して單なる手段となつてゐるに過ぎないのであつて、これが生産文化の發展性は北海道に居住する二八〇萬の人々の經濟意欲によつて決定されることは言ふまでもない。唯北海道の自然はそれが富源獲得に關する限りに於て北海道の人口に生産の種類を決定し、又牧益の相違を促し、その地方特有の環境に應じた地方的生産現象乃至文化現象が規定されて以て地方的文化發生に多大の影響を與へてゐるのである。

## 二、農　業

農業は本道拓殖の生命であり、その中樞をなして拓殖の進捗と共に其の發達も極めて顯著なるものがある。即ち耕地面積及農業戸數に於て比年增加を示し、生産額も經濟界の影響を受けて一張一弛ありと雖も、概して增加の傾向を呈してゐる。昭和六年末に於ける農業戸數十九萬二千戸に達し、全道戸數の三割八分を占め、耕地面積八十七萬一千餘町歩に及び生産額は毎年一億五千萬圓程度に昇つたが、昭和五年に於ては物價下落のため一億一千萬圓に減少し、昭和六年には天候不順による稀有の大凶作のため五千九百萬圓に激減し、續いて昭和七年再び未曾有の水害凶作に遭遇した。然れども平順なる氣候と經濟界の回復とはやがて共に往年の如き多額の生産額を擧ぐるに至るべきは疑ひを要しない。

本道の主要作物としては米・麥類・大小豆・菜豆・豌豆・蕎麥・馬鈴薯・玉蜀黍・甜菜・亞麻・薄荷・除蟲菊・玉葱・林檎である。それら農産物の市場出廻品の七〇%が道外移輸出品として全國的に甚だ重要な地位を占めてゐる。先づ第一に大小豆はその生産の七〇%を府縣に移出して、製菓・食糧・醸造並に製餡の原料として其の品質を賞美せられてゐる。又手亡、長鶉等の菜豆は府縣は勿論歐米に仕向けられ、京濱地方で消費される。赤豌豆・蕎麥は本道産品の殆ど獨占する所、青豌豆は英國市場に雄飛し、除蟲菊・薄荷は本邦は固より世界の主産地として自他共に相許され歐米に輸出せられ、其の聲價を博しつつある。馬鈴薯・玉葱は府縣並に南洋方面に迄進出し、其の他林檎・玉蜀黍・牧草等の特産

物を主とし、燕麥も「オートミル」として京濱地方に移出せられてゐる。更に工業原料としての農產物をみるに清酒・ビール・澱粉・製麻・製粉・製糖・牛酪・煉乳等は何れもその原料を農業界に仰いでゐる。

現在耕地面積八十七町歩は東北六縣の總耕地面積に近似し、更に本道に於ては約八十萬町歩の農耕適地を包有して居る關係上その拓殖は漸く半を超えたに過ぎない狀況である。經營面積に就いてみれば府縣にありては一戸當平均一町歩餘で、殊に中國、九州、近畿地方の如きは僅に七反歩內外に過ぎない。然るに本道農業に於ては畑作の經營面積は普通五町歩に近く、集約を要する水田經營にあつても一戸三町五反乃至五町歩を經營して遙かに府縣に勝つてゐる。

單位面積の收量は少いが大面積による粗放的經營は奧羽地方以上で、所謂大農法により家畜や機械を使用して規模が大きい。又耕地の壯大である點でも他府縣の規模の小さい耕作業とは比較にならず、北海道特有の景觀を現してゐる。人口一に就ての農產物價額は內地府縣の約四十圓に對して本道は實に五十五圓となつてゐる。これは岡山縣に次いでの高率であるが、廣く土地に對してはまだ高度化の集約經濟が行はれてゐないので、ここに北海道の農業には有望な將來が認められる。

**米**　拓地殖民の進展に伴つて本道は我が國に於ける米作地帶としての最北限界を劃し、その民族的氣候的特質に制約されて特異なる寒地米作を發達せしめてゐる。本道米作の濫觴は遠く松前藩時代にあつたが半島部の一部に限られ、水田は特殊的點在的であつて、米作が產業的成立を見るに至つたのは明治以後である。開拓使設置後米作發展の機運次第に熟し、明治初年渡島龜田地方には水田數百町歩が經營されてゐた。道廳時代に至りその米作奬勵に負ふて、本道米作が急激なる地域的躍進をなした。明治二十年頃は龜田を中心とする渡島地方が米作中心地であつたが、同三十年頃には札幌を中心とする石狩國が急激に發達し、明治二十五年旭川屯田兵として移住せるものが米作をなしたるを契機として自然的條件に惠まれた上川地方が一躍して大中心地を形成した。即ち本道米作は比較的良氣候地たる半島部の海岸地帶に始り、拓殖の中心移動と共に漸次內陸及東北部・胴帶部に適應しつゝ漸移し、石狩平野より上川盆地・十勝平野に伸び、明治末期の頃、留萌・名寄地方並に北見全地方に擴張せられ、其の後益々擴張され、非栽培地域は宗谷の一部及び釧路・根室地方にのみ限定されるに至つた。

收獲高は明治二十年には僅かに二萬石であつたのが、明治四十年には三十六萬石に昇り、大正十一年には百二十八萬石に達し、昭和三年には二百七十八萬石に、翌五年には二百八十八萬石に及び正に三百萬石の域に達せんとする盛況を示し、その飛躍の跡は實に驚くべきもので、米質も亦著しく改良せられ、更に自給自足の域より中央市場に販路を擴張せんとするに至つた。然るに昭和六年には稀有の天候不順に因る大凶作に遭遇し、百萬石程度に慘落するの悲況を呈した。將來道廳にては七百萬石の目標を置いて奬勵し、空知米・上川米或は北見米が市場に雄飛するを期待すること多大であるが、氣候早冷の爲め豐凶著しく、爲めに極端な米作偏重は農業經濟上危險を伴ふ虞れがある。

（北海道米作の地理學的研究に就ては川口丈夫氏の詳細なる論文が地理教育臨時增刊「鄉土の地理」に發表されて居る。參照を望む）

**麥類**　麥類は米產に比すれば大いに劣るが本道到る所生育し普遍型に屬する。大麥は其の大部分が麥酒釀造卽ちサッポロビールの原料に供せられ、裸麥は農家の主食物である。燕麥はその量我國第一で二百萬石を超え、朝鮮などの倍量を產する。卽ち本道の氣候によく適し、土地嫌も割合少く殊に泥炭地の適作物である。現在作付反別は十二萬三千町歩で畑作中第一位を占め又本道農產物中では米に亞いで第二位を占めてゐる。燕麥は主として馬糧に供せられ、軍馬の飼

料として需要激増したが、オートミルの製造も盛になりつゝある狀態で、單に牛馬の飼料とのみ考へられてゐたものが食用として新しい加工利用の途が開かれた。分布は石狩・空知・十勝・網走地方に多い。

**豆類**　本道は我國に於ける大豆の主産地にして、秋雨少く好天氣の十勝平野に最も多く檜山・空知・膽振がこれに次ぐ。小豆も朝鮮に次ぐ産額を有し、品質に於ては遙に優越し、生産の過半を移出して居る。青豌豆は本道の特産品で斷然我國第一の産を有し海外輸出を目的として栽培され、卽ち生産七十三萬俵(二割三分)府縣移出十五萬俵(二割一分)海外輸出五十五萬俵(五割六分)の割合にて、多くは世界有數の豌豆消費國である英國に仕向けられ、又北米の需要も尠くない。我國主要輸出品の一で、主産地は十勝・網走地方である。競爭品として和蘭産「マローフアット」があり、これは粒形・色澤共に優り、英國市場にて二割乃至七割の高値を示して居る。菜豆は隱元豆と稱せられ、品種は極めて多く、大福・中福・手亡・金時・長鶉・中長鶉・丸鶉・ビルマ等があり、最も多く栽培される地方は、十勝・後志・空知・網走地方である。而して本道は我國唯一の乾燥菜豆の特産地で、概して移輸出を目的として栽培され、府縣の需要は勿論米國・英國に其の需要多く、殊に大手亡、長鶉は生産額の大部分が海外輸出品でこれ又我國重要輸出品の一である。

**馬鈴薯**　朝鮮に次ぐ第二の産地で、生産分布上、西南日本の甘藷に對し甚だしく明かな對象を示してゐる。主要食料品として府縣に移出されるもの極めて多く、且つ澱粉製造の原料とする。栽培は本道至る處であるが、就中上川地方は全道の三分の一を占め、後志・網走がこれに次いでゐる。

**薄荷**　本道の特産品にして作付面積は一萬五千町歩、八十萬斤を生産し、本邦生産額の七・八〇%を占め、亦世界生産額の過半を占めて、その消長が世界市場に波及する處絶大である。生産地帶は氣候が腦分に影響する關係上、殆ど北見地方に限られ、本道産額の九〇%を占めてゐる。野付牛はその中心をなし、この地方は他地方との交通が不便であつて、作つた農作物も、他の地方へ輸送して販賣するには、駄馬の運賃が多くかゝるので薄荷を栽培した。薄荷油は重さは輕く、價が高く、他地方に出して利益が多かつたので栽培することが流行し、その後鐵道が開通し他地方との連絡がよくなつても、尙薄荷を多く栽培して居るのは、前からの地理的習慣性によるのであると云はれてゐる。然し前記の如き自然的條件により、決定されてゐることも認められる。薄荷精は英・米・佛・獨に輸出されて、世界市場に獨歩の地位を得てゐる。

**除蟲菊**　薄荷と同樣に本道の特産物で、世界大戰勃發と同時に、世界の原産國墺匈國が戰爭の渦中に入つたため、世界の需要は我國に殺到し、本道は先進の關西地方を凌駕して、本道のもつ特異性は嶄然として勁かす可からざる地歩を築くに至つた。氣溫の制約少く且つ山地によし、高台によし、傾斜地によい性質を持つて居るので、本道の如き地にはその土地利用作物として誠に重要なものである。盛夏七月の頃旭川を中心として、天鹽・石狩の國境から宗谷線に亘り、一は十勝山麓を繞つて富良野線或は北見國境に伸びる石北沿線を控へて、丘陵連る幾百の高原が茫々として白花の咲き溢れる果てしない狀景こそ名に負ふ本道除蟲菊の中心上川地方の盛觀である。其の他石狩・空知或は羊蹄山麓一帶の地域も本道の主要生産地帶となつてゐる。作付反別は一萬町歩を凌ぎ、生産高は我國の六〇%に當り、亦世界總産額の過半を占めてゐる。輸出は大部分乾花のまゝで八・九〇%は米國に仕向けられ、殺蟲粉は支那及び南洋に多く輸出される。

**甜菜**　本道の甜菜は我が國に於ける唯一の生産地帶として、甜菜糖は台灣の日蔗糖と並んで、本邦食料問題解決に處

する重き使命を有してゐる。現在清水・帯廣の二甜菜工場を中心として、道内各地に栽培され、全道九千町歩の作付反別から百八十萬圓の産額を擧げ、十勝・上川・北見には各々數千町歩の作付がある。明治十二年伊達紋鼈に工場が設けられたが、好果を見ずして放棄され、後北海道製糖會社の契約栽培等の奬勵と、道廳の補助奬勵のため、今や本道の新興作物として重きをなすに至つた。昨年、一昨年の凶作にも甜菜は平作を擧げ、又他作物との輪作の上にも効果を擧げ、且つ截頭部と製糖工場に於て糖分を滲出した根部殘滓とは家畜の飼料として價値多く、農家の福音とも稱する作物で、本道の重要作物として尙廣く栽培される必要がある。

**亞麻**　唯一の纖維作物で、本道の特産であり、本道獨自の工業原料である。その適地は溫帶北部稍々濕氣あるを要しロシアはその大産地で、本道の主産地は石狩・空知・上川・十勝に多く、これらは製麻會社との契約に依るものである。

**牧草**　牧草の栽培にも本道の風土は最も適し、獨自の發達をとげ、本道産の家畜の優秀なのも、一はこの品質良好の牧草を生産するに原因してゐる。牧草の乾燥、收獲に大農式の機械を使用し、北海道風景を現出する。産地は石狩平野に最も多く、日高にもあり、又濃霧のかゝる釧路・根室も牧草地帶として知られてゐる。

**蔬菜**　本道は又よく蔬菜の栽培に適し、就中、玉葱・甘藍・葱・人參・牛蒡・南瓜・西瓜・トマト・アスパラガスの栽培盛にして府縣移出も多く、殊に玉葱は品質優良で石狩平野が中心をなし海外輸出品として重要なものである。

**果實**　林檎・葡萄・櫻桃・梨等があり、特に苹果は北海道を代表する果物として多數府縣に移出され、風味佳良且つ貯藏に耐ゆるの特質を有し、余市附近はその中心をなし、札幌附近にも栽培盛である。

次に北海道農事試驗場より發表された「本道の風土と其の農業經營方法」の全文を載せる。これは本道各地の氣候・土質・地勢等の自然地理的環境を顧慮して、全道を十二の農業地帶に分類し、夫々に其の適當なる經營法を示したもので、地方に適した農業經營法をなす基礎資料として有意義なものであるばかりでなく、農業地理區に對しての示唆を受けることが多い。氣候風土の異なる處に同一形態の農業を行ふことは間違つてゐる。農業形態を定めて氣候風土をこれに適合せしめることは、今日の科學では不可能である。然しながら氣候風土に農業形態を適合せしめることは容易であり、且つ合理的である。その地の土地自然に調和適應した農業形態が生れてこそ始めて順調な發展が望まれる。自然と人間の關係並にその兩者の麗しい調和によつて現出される文化景觀に研究の重點を置く人文地理には、かゝる點に盡きせぬ興趣が存在する。

## 本道の風土と其の農業經營方法

本道は地域頗る廣濶にして地方により著しく風土を異にするを以て、勢ひ其の農業經營法も一樣なるを得ざるは言を待たざるところにして、地方風土に順應して適地適經營の主義に據るを主眼とせざるべからず、今本道の風土により其の農業の經營法を大別すれば次の如し。

本道に廣布する火山灰地及泥炭地等の特殊土壤地帶の如く普通土壤地帶に比し土壤の理化學的性狀に基き、特殊なる改良並に管理法を講ずるの要あるのみならず、地味亦一般に肥沃ならずして一般穀菽農業經營法によりては利益少なしとせられつゝある地帶及十勝・釧路・根室の海岸數里の間所謂濃霧地方の如く、普通作物の生育不良なる地帶並根室一圓北見の北部等に對しては主畜經營若くは相當家畜の飼

養を加味せる混同農業經營法によるを安全とすべく、又天鹽の北部、北見の南部、十勝の内陸、釧路南西部地方及噴火灣地方（虻田有珠郡を除く）の如く寒暑の差甚しく、加ふるに農期間短き地方若くは夏季濃霧の襲來を蒙り、作物の生育に遲延を來す憂ある地方等に於ては混同農業を主として、之に自家用米の生産を行ふ程度の田作を加味せしむるを可とすべく、其の風土良好なる地帶は田畑兼營を行はしむるも可なり。又農期間に於ける氣候比較的溫暖にして土地又肥沃なる地帶に對しては適度の家畜を加味せる田作又は畑作經營法か、其の他都市附近に於ては、蔬菜、果樹、園藝等の經營を營ましむるを以て有利なりと認む。而して更に北海道農事試驗場に於て區分せる本道十二農業地帶につき適當と認むる經營法を述ぶれば左の如し。

**（一）渡島國及膽振國有珠郡地方**

渡島國亀田・上磯・松前・檜山・爾志等の諸郡竝に膽振國有珠郡及虻田郡の一部等之に屬するものにして、本道中最も氣候溫和なる地方なり。

本地方に於ては家畜を加味せる田作又は畑作等の穀菽農業經營をなすを可とするも、比較的地味肥沃ならざる地域に於ては混同農業によるを可とすべし。

**（二）膽振國山越、幌別、白老及び渡島國茅部郡地方**

噴火灣に面せる渡島國茅部郡（森地方を除く）膽振國山越郡及虻田郡の一部竝に太平洋に面せる幌別、白老兩郡等を含める地方にして太平洋より吹來する東偏風の影響を受け夏季濃霧の襲ふこと多く、隨て氣溫低冷にして、日照少なく、土地は火山拋出物により覆はるる部分多き本地方に於ては主畜農業を主とし、土地肥沃なる平坦部に於ては混同農業を主として、水田は自家食糧の供給に止むる經營を可とすべし。

**（三）後志國沿海地方**

太櫓・瀧棚兩郡竝に島牧・壽都・歌棄・磯谷・岩内等の諸郡より積丹半島を周りて余市郡に至る沿海地方にして、瀧棚、壽都地方は噴火灣より吹來する東偏風の影響を蒙り風稍强きも其の他は氣候一般に溫和なり。

此地帶中東偏風の影響多く、濃霧の襲來する部分は主畜農業によるを安全とすべきも其の他の地方に於ては混同農業經營によるを適當と認む。又余市地方の苹果、岩内地方の葡萄の如く古くより名聲ある地方に對しては果樹園經營を以て有利なりとすべく、又山間郡地方にありては適量の養蠶を加味せる混同農業を營ましむるも可なり。

又此地帶中氣候の溫和なる低原部は適當の家畜を加味せる水田經營によるも可なり。

**（四）後方羊蹄山麓地方**

後方羊蹄山の周圍に位する地方にして海拔高く、本道中積雪最も多き地方にして又地形一般に傾斜し且つ土壤に强度の酸性を呈する箇所多き地方なり。

本地方に於ては混同農業を營むを可とすべく、而して平坦地に於ける水田の耕作は、自家用食糧の生産を行ふ程度に耕作するを以て安全とすべし。

**（五）石狩國沿海及天鹽國沿海南部地方**

石狩支廳管内の大部分及留萌支廳管内の南部之に屬す。兩支廳管内の氣候は多少異なる處ありと雖も概して適順なり。

本地方に於ける經營方法は稍家畜を加味せる田作若くは畑作等の主穀農業を以て適當とすべきも、丘阜地にして地質第四古層又は第三紀層に屬する地方は混同農業に據らしむるを可とす。

**（六）石狩、天鹽兩國内陸地方**

空知、上川兩支廳管内之に屬す。石狩國沿海及天鹽國南部地方に比すれば寒暑共に稍强きも夏季高溫にして土壤も亦一般に肥沃なり。

本地方に於ては稍家畜を加味せる田作又は畑作經營を適當とするも、畑作泥炭地は主畜農業を主とし、傾斜地は混同農業に據らしむるを可とせん。

又本地帶中天鹽國に屬する部分の水田經營には必ず畑作を兼營せしむるを安全とすべし。

**(七)日高國及膽振國勇拂郡地方**

日高支廳管内一圓及膽振支廳管内の一部勇拂郡地方之に屬す。氣候比較的温和なりと雖も土壌は火山拋出物より成り、一般に肥沃ならず。

本地方平坦地に於ては適量の家畜を加味せる田作、畑作農業經營を適當とすべきも、山間部及海岸地方に於ては混同農業を以て安全なりとすべし。冬季積雪少なくして氣候温和なると、土地一般に高燥なるとを以て馬の飼養に適す。

**(八)十勝國内陸地方**

十勝國内陸地方竝に之に近接せる釧路國足寄地方の一帶にして、寒暑共に烈しく而かも地形は所謂高丘地にして、其の土壌は概ね火山拋出物に由來せり。地味一般に肥沃ならず、然れども秋季の氣候良好なるを特徴とす。

本地方に對しては混同農業の經營法を以て最も安全とすべく、而かも土性及土壌の關係より耕作面積は相當廣きを要す。尚水田耕作に際しては田畑兼營とし場所によりては畑作經營に附隨せしめ、自家食糧生産程度に之を止めしむるを以て安全とすべし。

**(九)太平洋沿岸濃霧地方**

十勝・釧路・根室の三國に亘り太平洋沿岸より内陸に至る數里の地帶にして、夏季に於て海霧の襲來すること多く爲に氣温涼冷なり。

本地方は一般に子實を目的とする作物の栽培に適せざるも、飼料作物の生育良好にして、加ふるに冬季の氣候良好、積雪も亦少なきが故に主畜農業經營による可し。

**(一〇)根室、釧路兩國内陸地方**

根室及釧路兩國の太平洋に面せる濃霧地帶を除ける地方にして、海霧の襲來を受くること比較的少なきも、春季の氣候不順にして、且秋季比較的天候良好なるも冷氣早來の憂多し。

土壌は火山拋出物に由來し地味瘠薄なりとす。

本地方の氣候狀態前記の如くなるを以て一般に秋收作物の栽培は危險なりと雖も、麥類、馬鈴薯並に早熟の菽豆類の栽培に適せり。而して飼料作物の生育良好にして、加ふるに冬季積雪多からざるを以て畜産に適せり、隨て本地方に於ては主畜農業經營によるを適當とすべく一部土地肥沃なる所は混同農業經營によるも可ならん。

**(一一)網走地方**

北見國の南方大部分の地域にして本道中雨量最も少なく、且氣候比較的良好、地味も亦肥沃なるも春暖晩來、秋冷早來の缺點を有するを以て本地方に適する農業經營法は家畜を加味せる畑作によるべく、水田を耕作する場合に於ても必ず畑作兼營とすべく、沿海地方の如きは食糧自給の程度に止まらしむるを可とす。

**(一二)宗谷地方**

宗谷支廳管内留萌支廳管内の北部之に屬せり。此の地方は本道の最北部に位し氣候冷涼、地形は一般に傾斜地又は丘陵地をなし且廣大なる泥炭地を擁し、土壌は强烈なる酸性を呈する箇所多く地味肥沃ならず。

本地方に於ては主畜農業乃至混同農業を營ましむるを以て最も安全なりとすべし。

## 三、牧畜業

本道は平地面積に比較して人口密度稀薄で農業に對する勞力が不足して居り、その上降雨も少ないので牧畜が發達して居る。即ち廣大なる原野を有し、氣候の關係から牧草其の他飼糧の豊富なる點は牧畜業に對して大いなる天惠である。最近農業經營上範を丁抹に採り、地力維持を兼ねた所謂飼畜集約農業を奬勵する方針をとつてより本道畜産業は著しく發展して來た。本道の放牧適地は九十七萬町歩と目され、今後農業發達と耕地開發に伴つて第二期拓殖計劃完成し、農耕地百五十八萬町歩の開發を見るに於ては、農業經營上少くとも畜牛五十萬頭、馬匹四十二萬頭、豚十萬頭、緬羊三十萬頭の收容飼養をたし得るもので、曩に樹立した牛馬百萬頭計劃の實現されるに至らんことは難事に非ざるを認められる。

本道は農業勞力の不足な點から見て、丁抹型式の牧草を栽培する集約的牧畜に恰適するし、又根室・釧路地方の如く海霧多き地方或は十勝原野の一部の如き農林業に適せない地方は、北歐或は瑞西型式の粗放放牧地として適當して居る。

**馬**　馬は開拓使以來極力保護奬勵を加へた結果、漸次飼養頭數增加し、種類も改良せられたが、歐州大戰當時馬匹の道外移出が增加し、生産これに伴はぬため、一時漸減の傾向を示したが、戰後道外需要減少し、飼畜農業の奬勵、農家の自覺等に依つて近年再び增加を見るに至つた。昭和六年末馬匹數は二十八萬九千頭に及びこれを十年前の大正十一年に比較すると九萬四千頭の增加であり、昭和七年十月一日一齊調査の結果三十二萬七千頭の報告が發表せられた。日本の産馬は軍事上から見て百五十萬頭を維持しなければならないので、政府もために産馬奬勵に年々多額の費用を投じて居るが、各府縣の馬の頭數は現狀維持よりか寧ろ年々減少するので、本道年々の增加數を以て辛じてその數を支へて居る



狀態であるからその使命の重きを知ることが出來る。本道の馬の分布を見ると、十勝の九〇〇〇頭を筆頭に、網走の六六〇〇頭、釧路國の六〇〇〇頭、根室の四〇〇〇頭の順になり、東部北海道即ち蝦夷山脈以東に多いことは注目に價する。産馬地方では毎年春秋に各地に馬の市場が出來、その數百ヶ所に及んでゐる。馬の仔は三二〇〇〇頭以上で、賣上高は百二十萬圓に昇り、その中大樂毛の馬市は最も有名である。川上・白糠・十勝の三軍馬補充部支部が設置され、全國七ヶ所の中三ヶ所が本道に存在し、その面積も五萬七千町歩に亙るをみても軍事上から如何に本道産馬を重要視されて居るかが窺はれる。乘馬・輕輓馬の主なる産地は日高・渡島地方で、輕輓馬・重輓馬の主なる産地は十勝・釧路・根室・北見地方である。釧路國では、大正八年頃から篤志家が當地に適合せる小格重輓馬生産に萬難を排して努力研究の結果、成績も大いに見るべきものあり、昭和七年日本釧路種と命名される卓越せる性悍を有する優良馬を得るに成功した。

**牛**　昭和六年末に於ける頭數は四七〇〇〇頭を有するに過ぎず、馬匹に比して未だ發達しない。然し近年國民保健の見地から乳製品の需要を喚起し、一面別收入の增進によつて農家經濟を圓滑にさせる關係上、飼畜農業漸次增加と共に畜牛の趨勢に於て年々增加の傾向が著しい。肉牛・乳牛の中、主として乳牛であつて、その分布は石狩を中心として半島部に偏し、馬の分布と相反して居るのは西部地方の濕潤な氣候が水氣多き牧草を要する乳牛の飼養に適して居るからである。

**緬羊**　昭和六年末に於ける飼養頭數は五五〇〇頭に過ぎないが、全國第一位で且その增加の傾向も著しい。十勝の一〇二一頭が最高で、上川の七九九頭これに次ぎ、網走・膽振などこれに次いでゐる。これらは純農業地帶に大體農家の副業として飼養されてゐる。最も少いのは根室である。緬羊は本邦の氣候風土の關係上成功困難と唱へられてゐたが、

これら悲觀論を立派に裏切つて着々發展し、本邦及本道の農業狀態に卽して他の產物と聯絡融合し、外國にその例を見ない特殊な形態に於て發展しつゝあることは、土地に力强く根を下したことを立證して、今後に大いなる期待を持たれてゐる。特に近年農村婦女子の副業としてホームスパンの加工業が著しく盛になり、本道名產の一つにならんとして居ることは注目すべきことである。

## 四、林　業

拓殖の進展に伴ひ森林面積の減縮と蓄積材の減少は素よりまぬがれぬ所であるが、本道には猶全道面積の七割(六九・八%)に當る五百五十萬町歩の尨大なる森林面積を包擁し、而も其の多くは千古斧鉞の入らない鬱蒼たる天然林である。世界各國の中で國土の半以上が森林である國は、芬蘭と瑞典と日本の三ヶ國である。芬蘭の七三%を第一とし、我國は六三%で第二位の山林國となつてゐる。更に我國內地方別に森林歩合を見ると、樺太の八七・七%を最大とし、北海道は六九・八%を以て第三位となつて居る。芬蘭が輸出品の七割までを林產物によつて占めてゐると同じ樣な重要さを我々は本道の森林に於て是認することが出來る。

本道の森林面積はこれを所有上から御料林、國有林、大學演習林、其の他官有林、道有林、市町村有林、社寺有林、私有林と分たれるが、その中國有林最も多く、總面積の五三%を占め、私有林は一九%、御料林一四%、道有林一〇%等の割合である。森林面積の推移は最近殆ど變化なく、大正十四年の七百五萬町歩が、五年後の昭和四年七百六萬町歩になつて居る。而して樹種は六十餘種あつて、林相は針葉樹林、闊葉樹林及針闊混淆林の三種に大別される。針葉樹林は

(森林分布圖)

トドマツ、エゾマツを主とし、其の分布の狀態は西南半島部に少く、北東に進むに從ひ漸次增加し、今日整美せる林相を呈してゐるのは北見置戸・温根湯・斜里・網走・釧路・阿寒湖畔・屈斜路湖畔・根室温根塘・日高沙流川上流・膽振鵜川・千歲・石狩・石狩川上流・十勝音更川上流等である。

闊葉樹林は西南半島部を主とし、此の外釧路・根室・十勝其他各所に分布し、本道森林面積の過半を領有してゐるが同一樹種よりなる單純林は極めて稀で、雜然たる混淆林を爲すを常とする。然しハンノキ・カシハ・カバ・ドロ・ナラ・ブナ等は比較的群生し、局部的には純林に近いものがある。

針闊混淆林は針闊樹不規則に混生し、各地に分布するが、比較的本道中部以北に多い。

立木蓄積は針葉樹八億六千萬石、闊葉樹十五億六千萬石、合計二十三億二千萬石といふ豊富な天然資源を有つてゐる。而も針葉樹の大部分を占めるエゾマツ、トドマツは一般建築を初め土木・鑛業・製函・用材等に重用せられるのみ

ならず、人類文化の發展に伴つて消費の益々增加すべき洋紙及人造絹糸の原料であるパルプ用材として唯一の樹種であり、又闊葉樹にはナラ・シナ・タモ等を初め、材質優良にして建築・家具・器具・裝飾用材としては勿論、各般の工藝的用途に二十數種の有要樹種を抱擁して居ることは世界に於て他の森林國に類例のないことで、これは本道森林の價値を一層高むるものである。而して林産額は其の數に於て他産業に比し決して多いとは云はれぬが、然し一ヶ年の木材生産量は針葉樹用材六百萬石、闊葉樹三百萬石の巨額に達し、此の外に木炭五千萬貫、薪炭七百萬石等年々三千萬圓に近い生産を擧げ、而も其の伸張力は豊で、今日藏する二十三億萬石の材積と、林政其の宜しきを得て、輪伐更新以て盡きざる繁榮を期するは疑ひない所である。

**針葉樹**　本道森林に天然に生育する針葉樹はエゾマツ・トドマツ・アスナロ・五葉松・シコタンマツ・オンコの六種で、木材利用上最も重要なものはエゾマツ・トドマツである。エゾマツ・トドマツ材が一般建築土木鑛業用材として普く使用せられ、製函用材として、近來著しく需要を增加して來たが、之等用途は寧ろ附屬的で本質的用途は寧ろ紙及人造絹糸原料なるパルプ用材としての利用である。紙の消費量は文明の尺度であり、我國に於けるこれが原料木材の使用は、大正元年消費量百萬石に對し、昭和五年は八百四十二萬石で約八倍半の增加である。原木の九割八分は樺太及本道から供給せられ、而もパルプは生産不足で端典・諸威・米國・加奈陀方面より輸入して需要を滿して居る。近年人造絹糸工業の勃興は更に木材パルプの需要增加に拍車を加ふるに至つた。

**闊葉樹**　本道に生育する闊葉樹の種類は極めて多く、蓄積も針葉樹を遙に凌ぎ、十四億六千萬石と概算されて居る、その中數量の最も多いのはナラで、次にシナ・イタヤ・ダケカンバ・ブナの四種である。

北海道材が道外に移出せらるる樣になつたのは明治三十五・六年頃からで、その先頭を切つたものは闊葉樹林であつたセンの下駄棒、白楊のマッチ軸木、ナラの鐵道枕木であつた。當時鐵道枕木は毎年二百萬挺も朝鮮・支那・印度・アメリカ方面に輸出され、又センの下駄棒は東京邊の低廉な駒下駄の材として、白楊の軸木は丸太のまゝ、又はマッチの軸木に作つて神戸に移出せられ、其處で商品化されて、內地・支那・印度方面の需要に應じて居た。之等は現時中絶の有樣であるが、其後漸次本道闊葉樹材の眞價が認められ、ナラを初め各種木材が內外各地へ移輸出され、輸出額三十萬石、移出額百萬石を擧げ、遂に今日の隆盛を來したのである。

ナラは産地により材質に多少優劣があり、石狩・天鹽産が最も良好で、北見・膽振・日高ものが之に次ぎ、十勝・釧路産は劣る。需要は全闊葉樹の半を占め、家具並に裝飾材として英國を初め歐州各方面にジャパニーズオークとして歡迎せられてゐる。ナラに次ぐ用材としてはセン・カツラ・シナ・タモ・カバ類でブナ・カシワ・ホヽ・シコロ・イタヤ・アカダモ・ヤマナラシ等が更にそれに次いでゐる。何れも建築・船舶・車輛・家具・器具類に使用せらるるの他、各材固有の特長を促へ所謂適材が適所に使用せられてゐる。

## 五、鑛　業

昭和六年の鑛産額は三千五百萬圓にして、これを好況時代の大正八年の八千百萬圓に比すると半に滿たないのみならず、昭和五年に比しても一千萬圓の減少をなして居る。然し鑛産は工・農・水産に次いで本道の産業中で重要な地位を占めてゐる。

本道の鑛業發達は開拓使時代主として官業として開發した鑛業を、明治二十三年北海道炭鑛鐵道株式會社（北海道炭鑛汽船株式會社）の創立と共に、先づその大宗たる石炭業をこれに拂下した以降のことに屬し、他の鑛業もこれと共に漸次發達し、殊に歐州大戰當時異常の發達を遂げて今日に至つた。然し近年深刻な財界不況の反映は斯業に最も著しい不振の狀態を與へた。

本道鑛產は其の種類が極めて多く、其の主要なるものは金屬鑛物として鴻舞（北見）轟（後志）靜狩（膽振）鑛山等の金・銀・銅を始め、美利河・大江（後志）の滿俺、其の他クローム・鐵・砂金・水銀等で、非金屬鑛物は石炭・硫黃を最多として就中石狩炭田は夕張空知地方が大部分を占めて、本道鑛產額の大半を占め、硫黃は膽振・渡島・後志地方が主產地で本邦產額の半を占め、石油は石狩・膽振・宗谷・天鹽等に涌出し、產額は未だ多くないが將來を囑望されてゐる。

**石炭**　本道鑛業大宗で、その產額は鑛產總額の九割を占め、炭質の優秀と埋藏量の豐富なることに因つて、開發以來長足の發達をなして來た。現時に於ては斯界に於て夙に名を馳す九州炭田に亞ぐ產額であるが、その埋藏量に至つては四十億噸の巨數に達し、優に彼を凌駕して本道鑛業界に君臨して居る。而も未だ開發されぬ炭田も多く之れが開發に伴ひ、本道石炭鑛業の地位は更に著しき進展を加ふるは言を俟たぬ。現在石炭の主要產地は石狩・釧路炭田にして、殊に石狩炭田は空知川以南、空知・夕張二群に亘る含炭地及これに連る膽振の勇拂・千歲、石狩の樺戸地方を含む廣大なる地域で、本道炭田の中樞をなし、夕張・三菱美唄・三井砂川を始め主要炭鑛は殆どこの炭田に屬し、本道出炭額の大部分を占めてゐる。今後經濟界の回復につれて北海道炭界も立直り、將來大いに發展し、九州炭を凌ぐ樣になるのはたゞ時間の問題である。又この豐富なる燃料に刺戟され、將來本道が一大工業地として北九州工業地帶の繁榮を奪ふ時の來ることも大いに期待し得る。

**硫黃**　產額全國の三割餘を占め、從つて鑛山數も多く、幌別・登別（膽振）岩雄登・赤井川（後志）鹿部・惠山・熊泊・奥尻（渡島）雌阿寒・跡佐登（釧路）寶沼（千島）等がある。鑛床は大體二種に分ち、一は硫氣孔の作用によるもので、含硫黃瓦斯の昇華せるものが岩石中に滲入或は岩石を霉爛しこれと交代して鑛染狀をなすものと、硫氣孔より直接噴氣したものとの二つがある。前者は幌別・鹿部・岩雄登・惠山等にてこれを見、後者は登別がその適例である。

**石油**　本道石油鑛業は明治初年既に着手せられ、大正十三・四年頃より急速の發達をなし、近年益々增加の趨勢にある。現在稼行してゐるものは勇拂油田・宗谷油田・石狩油田に過ぎず、これらの油田は日本石油株式會社の經營に屬し、石油は全部輕川の製油所に送り、此所で精製されて道內各地及樺太方面へ販賣される。

**金銀**　金銀鑛業は早くから着手され、漸次降盛に赴き殊に最近に於ける金價暴騰のため、金銀山の試掘、採掘鑛數激增し著しく產額を擧げんとする趨勢にある。鴻舞金山は本島第一にして鯛生・串木野（九州）に次ぐ我國第三位で、雄武威（北見）轟（後志）來島（後志）靜狩（膽振）等も有名である。其の他北見の昭和・北ノ王・北隆及び天鹽の珊瑚鑛山等も亦大いに將來を囑目されてゐる。これらは主に安山岩、石英粗面岩質水成岩中の裂罅を充塡する石英脈をなして出づるものである。

**銅**　は國富（後志）幌別（膽振）鑛山に、**鐵**は倶知安鑛山（後志）が知られ、**滿俺**は後志地方に多く、**クローム**は日東鑛山（日高）最も著れてゐる。**砂金砂白金**は道內各地に產し北見技幸は最も聞えてゐる。

## 六、水　産　業

本道は四面環海で多角形の本島と、遠く蘇領カムチャツカに連る一千粁の間孤狀に並ぶ三十餘の島から成る千島列島との近海は、世界屈指の漁場として知られてゐる。南からの暖流(黑潮・對島海流)と北から來る寒流(親潮)とは本道を中心として繞り合ひ、この寒暖兩海流の相交錯する所は水溫の差のため對流を起し、海の上層に浮び上ることの少なかつた有効成分も浮き上り、間接に浮游生物の好飼料を供給するので各種の生物が密集し、從つて寒暖兩魚族もこの近海に群來するのである。且つ本道の沿岸には海底台地がよく發達して、これら魚群の食飼を得るにも又繁殖にも好適の地となつてゐる。ために本道はニューファウンドランド・ロフオデン島と共に世界三大漁區の第一と稱される豐漁帶である。

本道の水產業が如何に發達して居るかは、昭和四年に於ける四千五百萬圓の漁獲物と、五千五百萬圓の水產製造物との產額を見ても解かる。合計一億圓に達する水產物は、世界總漁獲高二十億圓の一七%を占めて斷然第一位にある我內地漁獲高の三分の一を占めてゐるのであつて、如何に本道の漁業が我國の漁業に對して、又世界の漁業に對して、重大な役割を演じてゐるかが解かるのである。

大正八年水產總額一億圓を突破してより連年一億圓內外であつたが、昭和六年には六千九百萬圓に激減した。その中漁獲高は二千五百萬圓を占め、更に沿岸漁と遠洋漁業とに區別してみると、沿岸漁業の主なるものは鮭・鱒・鰹・時不知・鰈類で漁獲高は六千五十萬圓である。而してこれと前年の昭和五年と比較すると、沿岸漁業は三百六十萬圓減額し、遠洋漁業に於ては十五萬圓の增加となつて居り沿岸漁業は減少し、遠洋漁業は增加となつて居る傾向が大體本道漁業の趨勢を示したものと考へてよい。養殖業は鯉・鰻・金魚・鱒・牡蠣・あさりなどで收獲高七百二十萬圓で養殖場は四百三十ヶ所ある。次に水產製造は三千四百萬圓で身欠鰊・數子・棒鱈・開鱈・明太・貝柱・魚粕・魚油等で對支輸出品として重要の地位を占めてゐる。

鰊　本道漁獲物の第一に擧げられるものは鰊で、其の豐凶は實に本道水產經濟界を左右するもので、北海の春未だ淺く殘雪の斑な頃、西海岸の網主及漁夫を始め全道を擧げて鰊の消息を待つ。三月末から產卵のため群をなし、海水を濁らしつゝ西北日本海岸に殺到し、これがため附近一帶は急に活氣付き、資金と勞力をこれに集中して男女が協力奔走する樣は、これ又北海道のみに見られる漁村風景である。昔は福山・江差・壽都・岩內などが鰊漁の中心で、わけて江差の如きは「江差の三月は江戶にもない」殷賑を呈してゐたが、最近ではその中心地が段々北方に移動して、今日では余市がその一大中心地となつてゐる。又北の增毛、留萌などにも鰊漁が盛に行はれてゐる。漁期は、春鰊が三月二十日前後から五月下旬乃至六月上旬までゞこの頃には渡り鳥の樣に奧羽・北陸の漁民が十萬人內外季節的の移住(出稼)をなし、春の鰊漁を序曲に、夏の昆布刈、秋冬にかけては鮭漁に從事するから一年間漁場から漁場へと渡り歩くものもある。(鰊漁期を終へて農村に入り水田耕作播種に從事するものもある)從つて各漁村の盛漁期には人口殆ど倍加して素晴しい北海漁場の賑はひを呈する。夏鰊は太平洋沿岸に漁獲され漁期は六月中旬から八月上旬迄である。

鮭　往時濫獲の結果、著しく漁獲の減少を示したが、最近各地に人工孵化を爲すもの多く、ために再び漁獲增加の傾向にある。本道各地に漁獲されるが、就中根室・千島方面に多く、石狩・北見・十勝はこれに亞いで居り、西別川・石狩川は名產地として代表されて居り、漁期九月より十二月迄で、鹽鮭最も多く、其の他は新卷・鮭罐詰又は燻製品とし、筋子は鹽藏、又は粕漬に製せられる。尙近時冷藏事業の發達と共に鮮魚として消費されるものも次第に多くなつた。

**鱒**　鮭と同じく近時漁獲高の減少を示してゐるが、人口孵化によつてその挽回に努めつゝある。全道各地に漁獲されるが、大部分は根室・千島である。鮭・鱒共に沿岸及沖合で漁獲され、主産地は北方未開の地に多く、南方開拓の進める地方に少いことは注意を惹く。鮭・鱒は北半球の特産で、然も北太平洋には種類も多く産出量も多い。北太平洋に於ける産額は一ヶ年十七億封度の大量生産で、此中シベリア（沿海州・カムチャツカ）四一・二%、アラスカ三〇・六%、カナダを含む北米大陸が二〇%、我が國は最下位の八・二%、即ち一億四千萬封度に過ぎない。然しカムチャツカ産額の五五%は日本人が出漁して獲るから北太平洋産額の三分の一を日本人が漁ることになり、世界で最も多く鮭・鱒を漁獲する人種である。

**鱈**　鱈も寒流に棲み、我國に於ては北陸地方を以て南限界とし本道は我國第一の多額地で、全道到る所其の棲息を見ぬはなく、沖合漁業中最も有利なものである。中でも産額の多いのは、利尻・禮文二島及根室・千島で之に亞ぐものは日高・天鹽・釧路地方である。千島方面では四、五月より八、九月迄にして其の他は十一月より翌年三月乃至五月迄である。棒鱈・開鱈・鹽藏鱈・鱈そばろ・鱈の子・搾粕及鱈油等に製せられ棒鱈・開鱈は對支輸出品である。

**鰮**　鰮の漁獲は最近の發達にして後志に最も多く檜山・膽振にも産す。明太魚として朝鮮仕向けが隆昌を來して居る。

**蟹**　本道産の蟹には毛蟹・花咲蟹・タラバ蟹等があるが、最も重要なものはタラバ蟹である。産地は國後島東岸及北見國東岸を主とし、此の外北千島・釧路・十勝沿岸にも産し、漁期は三月乃至六月及九、十月の二期で、北千島は五月より九月迄である。漁獲の殆ど全部は罐詰に製せられ歐米への輸出品として特に重要の地位を占めて居る。最近は蟹工船の出現により更にその聲價を高めた。

**昆布**　太平洋方面では三陸以北、日本海方面では青森以北及朝鮮沿岸にも産出するが、本州・朝鮮の産額は極めて少く、主に北海道・樺太に饒産する。昆布類の最近の産額は七千萬貫、四百八十萬圓に上り、長昆布・三石昆布・利尻昆布・眞昆布・細目昆布等があり、その種類に依り著しく分布が異つて居る。長昆布は寒流區域の外灣に分布し、釧路港外白糠より以北、根室・擇捉及占守に産するが、厚岸・根室が極めて多い。三石昆布は寒流に多少暖流の混淆する地方に分布して、釧路國白糠から以南、十勝・日高・膽振沿岸を經て室蘭及渡島地方に繁殖する。利尻昆布は暖流の末流、又はこれに多少の寒流を混淆する地方に分布し、後志・石狩・天鹽・北見沿岸を經て根室國後の西海岸に分布して居り、就中利尻禮文が主産地である。眞昆布は地形灣入する寒暖兩流混淆區域に分布し、室蘭近海から噴火灣を經て津輕海峽に入り、渡島木古内地方に産し就中尾札部及函館近海が主産地である。細目昆布は暖流の末流の洗ふ地方に分布し、渡島松前地方から後志・石狩を經て天鹽にも及んで居る。

**暖流魚**は寒流漁に比して種類少く、鰮・柔魚・鮪・鰹等である。其の北限界は日本海方面では積丹半島、太平洋方面では花咲半島で、前者は對島海流、後者は日本海流の北上に因由して居る。鰮・柔魚は日本海沿岸代表的漁族で鮪・鰹は表日本の代表魚族として、何れも我國の暖流魚の北上尖端となつてゐる。

**北千島及北洋漁業**　北千島は北緯五〇度以北に位し、函館より一千浬、根室より六百浬の距離にあり、幌筵・占守・阿頼度等を總稱するもので、占守島は僅か七浬を距てて蘇領勘察加に相對し居る。魚族海藻の豊富なるに拘らず其の位置餘りに北方に偏し、交通不便と氣候風土の關係上未だ充分なる發達を爲さず、僅かに鱈漁業の外、蟹漁業、帆立貝漁業等が着手されてゐるに過ぎない。鰊も七・八月頃相當濃群の游泳を認められてゐるが、北千島に於て最も有望なる漁業

は鮭鱒流網漁業である。即ち北千島は、鮭鱒漁業の殿堂たる勘察加の南端に位し、東西勘察加の河川に産卵場所を求めて太平洋より押寄せる鮭・鱒の群は是が非でも北千島の沖合及沿岸を通過せざるべからざる要衝に當るので、玆に沖取漁業の根據を据ゑ、之等鮭鱒通過の魚道を塞いで流網を投下することは技術的・經濟的兩方面から興味あることであると同時に、成功の必然性を信じられてゐる。近年蘇國に於ける第一次・第二次産業五ヶ年計畫完成の意氣は我邦北方漁業と相容れないものがあり、頻りに邦人漁業の壓迫を見、ために危殆に瀕しつゝある際、北千島に漁業根據地たるべき適當の設備をなすことは、北千島の開發のみならず、北洋に於ける從來の沿岸漁業より公海漁業に方向を轉じ、所謂沖取漁業を盛ならしめ、延いては日蘇兩國間の紛爭事件を解決し、且つ國防上より見ても北方に於ける我國の策源地として國際上重要なる地位を占むるものである。

## 重要水産物主産地及び漁業時期

| 種類 | 漁業時期 | 主要産地（支廳） | 備考 |
|---|---|---|---|
| 鯨 | 自三月下旬至六月上旬 | 後志　宗谷　留萌 | |
| 鮭鱒 | 自九月至十二月 | 根室　網走　宗谷　石狩　河西 | 太平洋方面の夏鱒は自六月中旬至八月上旬 |



| | | | |
|---|---|---|---|
| 鱈 | 千島方面自四月至九月<br>其の他自十一月至三月 | 根室　宗谷　浦河　留萌　釧路國 | |
| 鰊 | 自十二月至五月 | 後志　檜山　膽振 | |
| 鰯 | 六・七月及自十一月至一月 | 函館市及渡島　檜山　後志　留萌　浦河　釧路國 | |
| 鱒 | 日本海方面自十月至五月<br>太平洋方面自二月至八・九月 | 後志　石狩　留萌　宗谷　小樽市 | |
| 鮃 | 同 | 右 | |
| 鮪 | 自六月至十一月 | 釧路市　根室　後志　檜山　留萌　浦河　膽振 | |
| 鰯 | 自五月至十二月 | 後志　渡島　膽振 | |
| 鯖 | 自六月至十月 | 渡島　檜山　後志　留萌　宗谷　小樽市 | |
| 柔魚 | 自四月至十二月 | 渡島　檜山　後志　膽振　浦河　函館市　室蘭市 | |
| 章魚 | 自十一月至三月 | 浦河　釧路國 | |
| タラバ蟹 | 自三月至六月<br>自九月至十月 | 根室　網走　宗谷 | |
| 帆立貝 | 自七月至十月 | 根室　宗谷　留萌 | |
| 海鼠 | 自七月至九月 | 網走　宗谷　留萌　膽振　浦河　後志 | |
| 昆布 | 自七月至十月 | 根室　釧路國　浦河　渡島　留萌　宗谷　函館市　釧路市 | |

| | | |
|---|---|---|
| 銀杏草 | 自四月至八月 | 膽振　浦河　釧路國　根室 |
| 海蘿 | 自三月至六月 | 根室　釧路國　渡島　宗谷 |

## 七、工　業

本道の工産價額は昭和四年に於て一億八千七百萬圓の最高記錄を示し、總生産額の三分の一を占め、農産、水産額を凌駕して第一位にある。本道は海陸共に原料豊富であると共に、石炭と火山湖にかゝる水力發電による動力に惠まれて、各種加工業の勃興を來し、偶々歐洲大戰の勃發に際會し、經濟界は未曾有の好況を現出し、本道工業界も亦急激なる進展ぶりを示した。即ち戰前の大正三年の工産額二千八百萬圓は、大戰期間を挾んで大正八年には一躍一億六千四百萬圓に飛躍し、殆ど六倍に相當する巨額の生産を擧げ、遂に本道生産業の首位を占めるに至つた。

現在本道工業の代表的のものは製紙・製麻・製罐・製鐵・製粉・製糖・機械器具・船舶・電氣・セメント・肥料・ベニヤ板・薄荷(卸油)皮革製品・護謨製品・木製品・清酒・ビール・燒酎・醬油・煉乳・バター等の製造にして、農産・水産・林産等の原料による加工業がその殆どを占め、且つこれらの工場は多くは規模廣大で本道事業の重鎭たるのみでなく、全國的に重要なる地位を占めてゐるものも少くない。他府縣の如く家庭工業の類でなし、有力なる中央諸會社の進出せる點も、植民地型式である。而してこれら工場は分散的で工業地帶を形成せぬのも一特色である。それは加工業であるため地方的生産物に依存する所が多いからである。

本道東部の工業をみると野付牛を中心とする薄荷の産出や、帶廣に於けるベニヤ板の製作、或は甜菜栽培地域の十勝・網走に於ける製糖會社の精糖の産出や、旭川地方の清酒醸造などによつて代表せられる。又西部の工業に於ては、北の石狩平野では澱粉・ビール・乳製品・亞麻製品・小麥粉・醬油等の農産物による工業と、魚油・硬化油・肥料などの漁獲物による工業とが盛に行はれ、更に南の森林と炭坑と水力とに惠まれた膽振平野では夕張炭山や、支笏湖・洞爺湖の資源によつて製紙・製鐵・製鋼・カーバイト・過燐酸石灰などの化學工業が行はれてゐるのであつて、本道工業が東西ともにその地方生産物によつてその方向が決定されてゐるかを知り、又如何に地方工業がその地方の生産物に依存して起つて居るかを認めることが出來るのである。

府縣に於ては何處でも相當盛大に行はれてゐる綿絲紡績とか、織物とか、繭及び生絲とか、製茶とかの生産工業が全く北海道に行はれてゐないと言ふことは、その原因の一つを我々は確かに北海道の持つ固有の氣候や、地理的位置や、その他の自然の條件の中に求むることが出來るのである。

**パルプ及洋紙**　本道に於ける木材を原料とするパルプ及洋紙製造は、日露戰役直後に於ける我國印刷紙の激增に刺戟されて、富士製紙會社、王子製紙會社が、原料たるトドマツ・エゾマツの本道に豊富なるをみて富士は江別町に明治三十九年に、王子は苫小牧に明治四十年設置したのに始まる、次いで大正九年釧路郡鳥取村に新工場設置されてより昇天の勢を示し、今日の隆昌に至つた。日露戰後我國洋紙類の需要は大いに增加を告げ、本邦産のみでは到底供給し切れず、海外よりの輸入を俟つ實情であつた。而して輸入洋紙は格安で、殆ど殺到的旺盛を極め、本道製紙工場は當時經營上勘からぬ苦心をしたが、偶々歐洲大戰の勃發に際會し、外來洋紙の輸入杜絶と共に斯界は一躍活況に轉じ、生産能力

大いに擧がり、本邦需要の大部分は之を充し、餘剩を海外に仕向くるの隆盛を見るに至つた。其の後文化進展に伴ひ、洋紙の需要は益々增大し、今や生產價額二千八百萬圓を示し、關東地方と伯仲して我國洋紙總生產高の三割餘を占め、殊に新聞紙は本道產洋紙中其の九割を占め、而も我國新聞紙總生產高の七割五分に當つて居る。苫小牧工場は支笏發電所と膽振、日高の針葉樹を利用し(現在樺太より原料移入す)鳥取工場は阿寒、屈斜路の針葉樹と阿寒施別の電力を得、江別は火力發電で近時原料に困難を告げてゐる。本道內に於ける原料木材に關して懸念が無いでもないが、本道及樺太には尙多量の蓄積があり、森林政策よろしきを得ば輪伐更新、常に鬱蒼たる森林を保ち得、又一葦帶水を隔つる蘇領沿海州には無限の處女林があり、本道製紙業の將來は益々多繁永遠である。

**化學工業**　製紙業の他に、護謨工業あり、近時顯著なる發達を遂げ、府縣先進の地を凌駕する趨勢である。主要製造所は小樽の北海護謨工業合資會社、日本護謨工業所を筆頭に、函館、札幌にも工場がある。第三は人造肥料で函館に大日本人造肥料株式會社の工場があり、室蘭には日本製鋼所輪西工場の副產的硫酸アンモニアの生產があり、兩者は本道人造肥料界の代表的のものである。本道農業經營は年々集約的、合理的經營に進みつゝあり、一方耕地面積の擴張に依り、肥料の消費は逐年增加の傾向にある。次に取卸薄荷であるが、既述の如く本道は薄荷の特產地として世界に冠絕して居るが、惜しい事に未だ本道には精製工場無く、薄荷栽培地方の農家に於て副業的に薄荷油を蒸溜して取卸薄荷と爲すのみで、神戸・横濱に於て精製の上輸移出される現狀である。本道は氣候の關係上冷却工業に利點を多く有するからこの種の加工業は本道の新工業として出現を要すること急なるものがある。

**酒類**　淸酒は製紙業に次ぐ產額を擧げ、旭川を第一とし、札幌・名寄・士別等が多產地である。ビールは所謂サッポロビールの名によつて知られ、道產大麥を原料とし、大日本麥酒會社の經營になる札幌工場が唯一の生產地として、道內は勿論樺太にも可成りの移出を爲してゐる。

**製鐵・製鋼**　製鐵は日本製鋼所輪西工場が首位にして、兵器製造は日本製鋼所室蘭工場の一手に懸る。常時使用職工數二千名に達し、輪西工場の煉鐵の業と相俟つて、兵器の他、鐵道用車輛及機械並に農鑛業用機械器具等精巧を極めたものを製出して居る。造船は函館に函館船渠會社の大工場があり、製罐は小樽及び函館に工場を有し、海產罐詰業の發達と共に將來の活躍は期して待つべきものがある。

**甜菜糖**は本道の特色ある工產品で、帶廣、淸水の兩工場は本道事業界の重鎭にして、原料は主として十勝平野の甜菜より得、製糖量は年々增加の傾向にあるが、本道糖業奬勵計畫の全局より見るときは未だ初期の域にある。**小麥粉**製造工場は小樽にあり、**澱粉**は馬鈴薯を原料とし、農家の副業として簡易且つ有利なる點より大いに發展し、生產の過半は府縣に移出してゐる。**製麻**は本道特產の亞麻を原料とし、契約栽培の奬勵法を用ひ、栽培地附近に二十餘の製線所が設置され、帝國製麻會社札幌工場にて麻絲紡績・麻織物が行はれる。殊に麻織物は本邦の需要のみに止まらず、遠く海外に輸出して賞讃を博して居る。**セメント**は淺野セメント上磯工場があつて、背後に豊富にある石灰岩を原料とし、生產セメントの七割を本道內で消費し、他は奥羽・北陸・樺太に移出される。**ベニヤ板**は十勝止若の新田ベニヤ工場が知られ、その設備は本道の代表的工場として誇りの一つでもある。**其の他**前述の薄荷加工工業の外、除蟲菊加工工業、加里肥料工業、魚油加工工業、魚糧製造工業、毛織物工業及び工藝品工業としての陶磁器製造等の新工業の發達は大いに期待されてゐる。

# 第六章　北海道の交通

本道は四面環海とその位置的關係から交通史の最初は沿岸航路から始まつてゐる。德川幕府直轄時代既に沿岸の一部には本土との間に交通が開かれ、開拓使時代には官船や外國船を傭船し、漸次海上交通が發達してゐた。次いで陸上原始林を開いて道路を開鑿し、官設渡船場や橋梁を架し、驛遞所を置きて驛舍馬匹を備へ、內陸の交通も漸く開かれるに至つた。

古來蝦夷地に於ては、先住土人アイヌの間には道路なる特別の施設なく、唯海濱・河岸に沿つて部落間を往來し、或は熊往鹿路を辿り、その足跡によつて自然に生じた小路を唯一の行路となしたに過ぎない。後に至つて松前氏が蝦夷地を領有するに至つてもそれと大差がなかつた。

道路・港灣・鐵道等の設備を完備して交通運輸の機能を紀活ならしめることは、拓殖上最も緊要なることであるから、開拓使時代既に海上及び陸上交通の各種施設に甚だ努め、次いで道廳時代に入り益々その完成を圖り、十年計畫（明治三十四年）十五年計畫（明治四十三年）を經て二十年計畫（昭和二年）成り、爾後鐵道・道路・橋梁・驛遞・渡船・航路・築港等運輸交通の機關著しく發達し、海陸の交通漸次脈絡を具ふるに至り、今や鐵道は三五一一粁、道路四〇三五二粁を算し、航路は遠く北千島に及ぶに至つた。

**道路**　本道の道路は舊幕時代にあつては放任せられて顧みられなかつたが、開拓使時代の創造的經營を經て、道廳時





代の計畫的遂行に移り今日の如く發達し、道路網も著しく密にならんとしてゐる。昭和六年三月末現在によると、國道六〇四粁、地方費道二五三六粁、準地方費道三七一六粁、其の他を併せて四〇三五二粁に達した。然しながら密度は一方里につき一里三十二町に當り、根室支廳管內は一方里二十三町に過ぎない。これを京都府の一方里二十里、愛知縣の一方里二十五里、茨城の一方里三十四里と比較して、餘りに差の大きいのに驚くと共に、本道開拓の餘地は尙遠大なることをこの點から考へられる。

國道は函館—札幌間（三〇四粁）、札幌—旭川間（一四〇粁）、室蘭—岩見澤間（一五六粁）の三線があり、本道西半の文化地帶を結んで居る。

**鐵道**　本道に於ける鐵道建設の古きことは本州に比して左して劣ることはない。その最初は幌內炭山の開坑に伴つて石炭輸送のため、明治十三年十一月開拓使に於て札幌—手宮間（四六・三粁）の建設に創り、十五年十一月に幌內迄竣工した。明治十九年釧路國硫黃山の硫黃運搬のため私設の鐵道敷設せられ、かく本道初期の鐵道は何れも鑛產物の搬出を主要目的とし、鑛業と密接なる關係を有したることは注目すべきことである。其の後室蘭・岩見澤間の開通に次いで本道の主要幹線たる札幌函館間が三十七年全線開通し、上川線（空知太—旭川間）、天鹽線（旭川—名寄間）、釧路線（帶廣—釧路間）、十勝線（旭川—帶廣間）等も續いて通じ、その後益々發達して昭和七年末に至つては國有鐵道三〇〇六粁、私設鐵道五〇五粁に達した。而してその密度に於ても他地方に比して何等遜色がない。

本道交通の中心は胴體部と半島部の連繫する中央低地にある。卽ちこの地は本道文化の中心であり、本州・樺太間の幹線として、又海路本島物資を呑吐すべき海港を有するから、交通系統の集中を見るに至つた。瀧川・岩見澤間は東部

（鐵道交通圖）

及北部より來る二條の動脈と南部に通ずる二條の大動脈がクロスして本島交通網を統制する中心形態をなしてゐる。

函館本線は函館を基點とし、地溝帶を北に走り、噴火灣に沿つて長萬部に出で、これより火山地帶を蛇曲し、羊蹄山麓倶知安盆地を過ぎ、積丹半島頸部の銀山トンネルを經て小樽に出で、札幌より中央低地を横切り、石狩川の左岸を北上し神威古潭の横谷を越えて旭川に至る四二五・粁の間である。本道文化地帶を縫ひ、主要都市を結び、交通量も最大である。又この本線を培養する支線も多く（別表參照）、殊に夕張山麓の運鑛線の發達は著しい。

室蘭本線は禮文華トンネル（靜狩—禮文間）の難所が開通して長輪線が通じてより、長萬部・岩見澤に於て函館本線と連絡し、本道交通系統を一變し、小樽・札幌經由稚内に至る縱貫急行列車を本線經由に改めた。距離にしては五・三粁の相違があるが、北廻りは蛇行部の勾配と、冬季の深雪に不利であり、時間に於ては一時七分間の短縮となつてゐる。



宗谷本線は旭川から縱谷に沿つて北上し名寄を經、音威子府より天鹽川の通谷を過ぎて稚内に至る。別に音威子府より東岸を經て同じく稚内に達する北見線がある。北見線はもと宗谷本線の一部をなして居たが、天鹽線の開通後距離二〇三粁を短縮した結果運轉系統を變更し、宗谷本線は北見線より天鹽線に移つた。そのために北見線は直通急行列車を通ずる縱貫線の機能を失つた。

留萌線は函館本線深川に發し、天鹽・增毛兩山塊の間を經て留萌に達し、更に南方增毛に伸びてゐる。尚留萌より日本海岸を北上する羽幌線と分岐して同海岸地方の交通に新生面を開きつゝある。

名寄本線は宗谷本線名寄驛より北見山脈興部越を越えてオホーツク海岸中湧別に至る地方產業開發線である。

石北線は昭和七年に至り北見峠を越ゆるトンネルの難工事が完成し、石北東線・石北西線が結ばれ、遠輕より新旭川に通じ、交通系統に一大變化を生じ、北見地方開發の上に一段の躍進を期することとなつた。

根室本線は函館本線瀧川驛から空知川の峽谷に沿ひ、富良野盆地に出で、狩勝峠を越え、雄大な十勝の大原野を經、釧路の大低地を經過して根室に達する。帶廣より南方廣尾に支線を派し、日高西海岸の日高線は苫小牧より靜内に達し漸次南方に伸び將來廣尾線と通ぜんとして居る。

網走本線は根室本線池田驛を基點とし、利別川の谷に沿ひ、淺別の盆地を經て野付牛に出で網走に達して居る。而して東釧路より屈斜路の鞍部を越え、斜里を經て網走に達する釧網線開通して兩者が横斷線の性能を示すと共に、東北海道の環狀線を形成した。尚網走本線は野付牛驛より湧別線を出し、遠輕に於て石北線に、下湧別に於て名寄線に連結して一大環狀線をなしてゐる。

（驛遞分布圖）

私設軌道も近年續々建設せられ、昭和七年末に於ては二〇五粁に達し、時代の趨勢に伴ひ漸次電力を使用するもの增加し、更に自動車も交通上主要なる機關として急激なる發達をとげ、昭和六年末に於ては乘用車一三〇四台、貨物用七〇九台、合計二〇一三台を數ふるに至つた。更に本道の交通機關として特記すべきは殖民軌道及び森林鐵道である。殖民軌道は拓殖の促進上新開地方の物資輸送のため簡易なる軌道の敷設に初まり、現在延長三一八粁に及び又森林鐵道は本道國有林經營上官行研伐製品の搬出を計るため敷設されたもので、北見地方に多く延長三一七粁に及んで居る。

**驛遞**　地域が廣濶で人煙稀れで、未だ交通敷設の備はらなかつた時代には、行旅の交通機關宿泊設備として且つ又貨物輸送のため、驛遞所なる交通補助機關が生れた。拓殖道路の開鑿に伴ひ、僻陬の地に

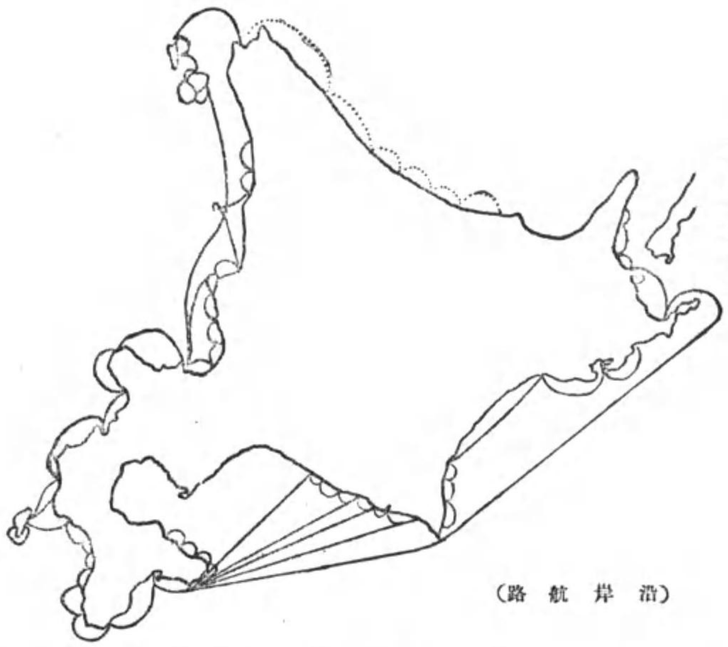


驛舍及馬匹を備へ、旅客の宿泊・貨物運送の利便に供する交通上重要なる設備である。現在本道の交通は前述の如く大いに開け、各種の交通機關が備はるに至つたが、尙拓殖の進歩と共に更にその發達を促されてゐる。松前氏時代には運上家・會所・若くは旅宿と稱する公の設備があり、維新後にも本陣・脇本陣若くは旅籠屋・驛遞所等と屢〻名稱を改め、その制度に改廢はなしたが僻陬地に驛遞設備を官設するの方針には變りなかつた。

昭和四年度統計によれば驛遞所數二三一を算し根室・網走・十勝がその約半數を占めて居るが、これはそれら地域の特性を示すものと思はれる。各驛遞所には數頭の官馬或は私馬が備へてあり、旅人はその馬に乘つて馬子もなしに次の部落に行く。さうしてその馬を乘り捨てゝ又次の驛馬に乘つて進んで行く。昔、本州の主要街道には皆驛馬の制があつたが、今日、本道にその制度が殘存して居ることは、交通發達の經過から見て大いに興味あることである。

**航路**　四面環海で且つ數多の離島を有する本道に於ては海上交通の重要なることは勿論であるが、殊に陸上交通の發達しなかつた時代にあつては沿岸航路は重大なる使命を有し、且つ明治初期には未だ東北地方の陸上交通も不便であつたため、本道より直接京濱其他重要各港に至る航路を甚だ必要として、政府に於てもこれら航路に對して補助奬勵をなした。其の後補助航路も發達し、整然として本道沿岸の交通はもとより千島への交通も開かれるに至つた。

現在本州との連絡は函館と青森との間に青函連絡船が六〇浬(一六一粁)を四時間半で津輕海峽を航行し、翔鳳・飛鸞・津輕・松前丸等の三、五〇〇噸級の汽船が各々乘客約九百人宛を收容し、外に十五噸貨車二五輛を船腹に積み、尙ほ重量大なるもの或は容積大なるものをも航送して、本州との旅客輸送を甚だ便にしてゐるのみならず、本道の生命たる原料物資の移出に遺憾なからしめてゐる。



（沿岸航路）

樺太との間には稚泊連絡船が稚内・大泊間の九〇浬を八時間で往復して居る。四月から十一月迄は毎日一回、十二月から翌年三月迄は隔日一回、稚内・大泊相互に出帆する。極寒の地を航海するため特殊な防寒設備が出來て居る。稚内・本斗間の連絡は七時間を要し、樺太への副連絡航路になつてゐる。北海道廳命令航路は函館・小樽線（函館小樽間・函館瀬棚間）函館擇捉線（函館藥取間・函館釧路間・函館幌泉間）函館千島線（函館占守間・函館藥取間）函館根室線（函館根室間）函館鹿部線（函館鹿部間）小樽稚内線（小樽稚内間・小樽遠別間・小樽稚内間）根室近海線（根室白糠泊間・根室色丹間・根室羅臼間・根室泊間）石狩川線（江別月形間・江別石狩間）の八線が開かれて居る。その一ヶ年航海度數に於ては、函館鹿部間が一〇四回、江別月形間が九九回、小樽遠別間が八八回、最も少いのは函館占守間の五回で一般に半島部及日本海岸が大であり海上交通量からみても東岸は陸運同樣閑散である。



# 北海道省線一覽

| 線名 | 摘要 |
|---|---|
| 函館線 | 函館本線（函館—旭川 四二五・一粁）<br>瀬棚線（國縫—瀬棚 四八・四粁）<br>幌内線（岩見澤—幌内 一三・六粁）<br>手宮線（南小樽—手宮 二・八粁）<br>幌加内線（深川—朱鞠内 七八・八粁） |
| 室蘭線 | 室蘭本線（長萬部—岩見澤 二〇九・三粁）<br>夕張線（追分—夕張 四三・六粁） |
| 日高線 | （苫小牧—静内 八〇・〇粁） |
| 留萌線 | 留萌本線（深川—增毛 六六・八粁）<br>羽幌線（留萌—羽幌 六〇・六粁） |
| 上磯線（五稜郭—木古内 三七・八粁） | |
| 京極線（倶知安—脇方 二〇・九粁） | |
| 歌志内線（砂川—歌志内 一四・五粁） | |
| 岩内線（小澤—岩内 一四・九粁） | |
| 萬字線（志文—萬字炭山 二三・八粁） | |
| 札沼北線（石狩沼田—中徳富 三四・九粁） | |

| | | |
|---|---|---|
| 湧室線 | 根室本線（滝川―根室　四四六・六粁）<br>士幌線（帯廣―上士幌　三八・四粁） | 富良野線（下富良野―旭川　五四・八粁）<br>廣尾線（帯廣―廣尾　八四・〇粁） |
| 宗谷線 | 宗谷本線（旭川―稚内港　二五八・九粁） | 北見線（音威子府―稚内　一四九・九粁） |
| 名寄線 | 名寄本線（名寄―中湧別　一二一・九粁） | 渚滑線（渚滑―北見瀧の上　三四・三粁） |
| 石北線 | （新旭川―遠軽　一二〇・八粁） | |
| 網走線 | 網走本線（池田―網走　一九三・八粁）<br>湧別線（野付牛―下湧別　八一・三粁） | 相生線（美幌―北見相生　三六・八粁） |
| 釧網線 | （東釧路―網走　一六六・三粁） | |

## 研究上の注意

一、拓殖の進展と共に著しく交通及び交通機關の進歩したことを知らしめると共に現在の交通網に注意すること。

一、蝦夷山脈は本道文化の表裏を決定するのみならず、交通上の分野をも決定して東半・西半に於て明かなる相違を示し、且つ石狩地溝帶が本道交通形態の中樞をなす點に注意すること。

一、冬季の降雪・積雪が交通に障害をなすと共に、他面根雪を利用して補助交通機關が存在すること。

一、未開地に鐵道軌道を敷き、移民を入れて開發を計る拓殖鐵道の意義と分布に注意すること。

一、森林鐵道は產業の章林業との關係を考察し、北見地方に多き所以を明かにすること。

一、驛遞所存置の地理的理由と交通發達の經過を考察すること。

一、航路の分布と發航數に留意すると共に、夏期・冬期に於ける發航數の相違にも注意すること。

一、文化景觀の一要素をなす交通形態が現在如何にあるか、又それが交渉を持つ自然との關係を明かにする所に力點を置きたい。

**附記**　各章の終りに研究上の注意事項を加へる豫定であつたが交通の章のみとなつた。始めは人口地理・聚落地理等の問題にも觸れ、且つ分布圖、ダイヤグラム、其の他も出來るだけ多くする考へであつたが色々の都合で殆どそれが出來なかつたことは甚だ遺憾で、切に讀者の宥恕を乞ふ次第である。

# 第七章　鄉土調査要項（臨地觀察項目）

## 準備

一、研究地域に關する參考書を讀むこと

重要なる點は野帳(ノート)に記すこと。(著者・書名・頁數・發行年月日)

地誌的文獻　歴史的文獻　民族的土俗的文獻　統計的材料　其他經濟狀態・社會狀態に關する記述。

研究計畫を立てる上には役場・古老・地方官吏・經驗ある教員・各種調査所々員に求めるがよい。尙地方事情に通曉しその人の判斷が信頼に足ると思ふ人にはよく質す必要がある。

**二、地圖を準へること**

陸地測量部地形圖五萬分の一(五萬分ノ一地形圖は全道各地あり、二萬五千分ノ一は數地方のみ)地質圖・土性圖・古地圖等あれば是非參考。

**三、地圖を塗ること**

1. 聚落景觀—形態…必ず聚落の背景を考慮に入れること、卽立地的考察となすこと。
2. 土地利用景觀(開拓景)—水田(乾田・水田・沼田の別)畑地・果樹園・森林(自然林・造林)草地・荒地・溜池・用水路。
3. 交通景觀—道路の方向・分布幅員。
4. 政治景觀—町村境界飛地。(其他調査事項を地圖上に表現することに努める。)

**四、野帳(ノート)**

ノートブックは適當な大さでポケットに入れて歩ける位。

記入した日時・場所・短い見出をノートにつけて置くこと。

記入事項中觀察したもの、推測したもの、他人から聽取つたものを明かに區別しておくこと。

スケッチ、ブロックダイヤグラム、斷面圖など記入すること。

屢々一寸見た印象を記すこと。

**一、地　形**

鄕土はどんな地域に位置を占めて居るか。(平場・海邊・山寄・川場か…)

水準上の高さ並びに起伏傾斜(地表面の狀態)の狀態はどんなか。

全體の形狀・相互の關係・その地方と隣接地域との關係は?

微地形的に見た各部の形狀(高地と低地の配置・段丘・洪涵地等)成因はどうか。

各地の差異やその境界の特質を考へて地形的區劃圖を作つてみること。

地形が氣候・植物・動物生活・產業・交通並びに住民に及ぼせる影響は?

地形や土性と作物の適不適の關係はないか。

**二、水　域**

洪水の氾濫區域や頻度及び時期。

地形又は土性と灌漑・排水・水害の關係。

水系圖を作り水に關する一切を記入してその分布を見よ。

地下水の等深線圖(泉及井戸の分布を示すべし)を作つて聚落の分布や產業との關係を考へよ。(扇狀地など最も必要)河川流路の變遷及勾配侵蝕並びに堆積狀態。

郷土の住民は自家用の水を得るに如何にするか。（水道か、井戸か、ポンプか、泉か、小流か、屋根を傳ひる降雨か。）
農夫は農業上の水を何處に得るか（普通の場合、旱魃の場合）水源を正確に。
郷土で水を利用する工業は何か、その水は何處からか、又その工場の位置を圖上に示せ。

## 三、土　壌

郷土の土壌はどんなものか。（赤土か、砂質か、泥質か、礫があるか。）
土壌の深さ、その下に何があるか、斷面圖を描け（堀割・凹地・石採取所により）水の出る所迄の深さは。
土壌の旱魃に抵抗する度合・地力消耗の程度・冷溫の狀態。
土壌よりする收穫物の種類、並びに品質の相違。
土壌の分布と地價との關係及耕作の難易を見よ。
農業上利用に適せざる土壌の利用狀態を考へよ。

## 四、氣　候

冬季節の天候の狀態と氣溫變化の狀況。
曇天と日射・露・霧・霞・雨・霰・雪の季節的分布。
初霜と晩霜の時期。（植物發育期の初と終りに於ける霜の有無。）
四季によつて異る風の方向及强弱（卓越風）。どの風が雨を降らすか等。
積雪の期間とその量（交通の杜絶を來すやうなことがあるか。）
地形・土壌・水域・植物・收穫物の特質から、氣候に關する狀態を推測すること。
如何なる產業が最も雪や霜に影響されて居るか。
氣候現象を巧に利用して營まれて居る產業はないか。（寒天・凍豆腐製造の如き。）

## 五、生　物

自然的產物としてこの地域にある植物と動物のリストを作る。
原生植物の典型的種類と其の群落狀態。
植物分布狀態と氣候・土壌・水脈・地形との關係。
其地方への土着並びに發展の植物・動物に及ぼせる影響。（住民の働による植物・動物の變動狀態。）
動物の典型・特質並びに分布と植物・氣候・地形並びに土壌との關係。
人間がこの土地を開拓した前の郷土はどんな狀態であつたか。
どんな材木や植物性生產物が、郷土で過去及現在に亙つてどんなに使用されたか。

## 六、村の歷史

村はどうして出來たものであらうか。（一番始めの村の位置と其の後の發展の方向。）
郷土で發見される石器・土器・人骨等を地圖によつて發見の位置を示せ。
村の中心核は何であつたか、位置を考へて見よ。
村民は何處から來たか、その後の土地開發の模樣はどうか。

新開土着當時の地割及家屋の狀況。

村の境界の變遷及その理由。

國史や地方史に於てこの土地の名前は重要であるか、舊蹟として何があるか。

地名の起源。（村の名稱、大字の名稱とその意義。）

## 七、聚落及び住居

石器時代遺跡地と現在聚落との立地的關係。

聚落の形態は何であるか、（街村・集村・散村。）又家屋及家根のタイプはどうか。（圖示せよ。）

卓越風と家屋との關係。（家屋の向きや防風林の位置。）

聚落發達の各時期を示す地圖を作れ。

大部落小部落一般の計劃及配置。（一線上・寂多の平行線上・同心環狀。）

宅地面積の標準及び變遷。

宅地の利用狀態（干場・庭園・耕地・肥積地・薪置場・井戸・植木・垣根等。）

家構の所在、及材料と住宅以外の建物。

家構殊に住家の間取と氣候並びに産業との關係。

公共家屋に關する特殊の位置。（役場・學校・神社・寺院・共同墓地・火葬場・屠牛場・市場・停車場等。）

聚落の位置或は形態の決定因子に就きては特に注意して見よ。將來發展の方向も考へよ。



## 八、交　通

道路・鐵道・自働車路・河流・運河其他交通網の地圖を作れ。

村の主要道路・水路・鐵道との距離と物資の需要上最も關係の深い部落との距離。

道路の性質。（野外道路・市街道路・廣狹・並木の有無・敷石の有無・耕地森林にある小道。）

物資交換狀況。（市日・商日・市日慣習・商人の來る範圍。）

この地域を統制する中心都市への距離はどれほどか。

古い交通路は今どうなつて居るか、いつ新しい道路が出來たか。

## 九、農業・其他の生業

此の地域は田所か畑所か、何故かを考へよ。

土地利用狀態。（それが人口集團・産業・勞働の如何なる基底をなしつゝあるかを觀察せよ。）（田・畑・山林・原野・池沼。）

生産及消費狀態。（種別・數量・價額等。）

生産業勞働狀態。（月別に觀察して表示せよ。）（大根は何時蒔いて何時とるとか、漁村なれば漁期。）（土地程度を見る。）

一年中の耕作循環圖を作ること。（開拓當初以來の。）

村の産業の盛衰とその理由。

大中小農の數と割合、地主・自作・小作の戸數と割合。

專農・兼農の割合と兼農の種類。

出入作關係。（この村人で隣村の土地を耕作するもの、隣村人でこの村の土地を耕すもの。）

農家一戸當り各作付反別、及中等農家の經營面積。

副業の種類及び家畜の種類の變遷と理由。（冬期副業に就きては特に注意せよ。）

作物の種類とその變遷と理由並びに反當りの收量。

村人の生計と主副業との關係。

主要生産物販賣の慣習。

起伏日射・土壤・風向によつて畑の作物が異るか、雪や霜の少い部分には何を作つて居るか。

土地開拓の方法と進化の狀況を年代的に表示せよ。（作物の變遷も併せ考へよ。）

土地利用狀況は集約的か粗放的か。（集約的土地利用は地域の經濟的發達を物語る。）

婦女・老人・少年の勞働狀態・奉公人・傭人の慣行・時期・賃銀・傭人の難易。

農家一日の勞働時間・年内勞働の繁閑・年内勞働月數。

農業組合・農會・地主會・報德社・賴母子講等の活動。

農業以外の生業に從事するもの、職業別戸數。（例へば神官・僧侶・醫師・馬醫・馬喰・鍛冶・林業家・漁師・染屋・小賣商・質屋・飲食店等、出來たら圖示せよ。）

鑛業・工業の有無、若しありとせばその種類並びに村に及ぼす影響。

新來移住者が特別の産業を傳へたといふことがあるか。



この地域の代表的農家の經濟調査をなせ。（農會の調査があれば、それと比較せよ。）

村の經濟は近年如何なる狀態にあるか。

産業の近代的方法のために鄉土にどんな變化が起つたか。

産業の現狀をみて將來の發展の方向を考へてみよ。

## 一〇、人口

鄉土の二十年前の人口を調べその密度を圖示し、鄉土の今日の人口分布圖を作り其の差異に注意せよ。

人口密度の變遷。（地理的並びに其他の要因によりて影響された。）

人口增減のグラフを作れ。（出來る限り古い時代から。）

年齡別人口構成圖を作れ。（男女別、五才毎にすればよい。）

現住人口と戸籍人口との關係。

出稼人の行先地と移動原因並びにその經濟的活動狀況。

移入民の出發地・時期・種類・移動原因並びにその社會的經濟的結果。

移入民の本籍地の調査とそれらの關係。（移民の心理狀態も併せ調べよ。）

職業別人口を明かにせよ。

近代工業の鄉土に及ぼせる影響はないか。

人口は增加の傾向か、減少の傾向か、停止の狀態か、それは如何なる影響によるか。

人口はその地域の總和的現象である。

## 主要參考文獻

鄉土教育・鄉土地理研究等に就ての著書論文は近來著しく簇出し、雨後の筍の觀を呈して居る。地域調査に關するもののみでも少くない。次にあげたものは地域調査に關して具體的調査項目を記したもののみである。


鄉　土　會　「農村調査質問要項」

啓　明　會　「民間傳承學的蒐集事項目安」

鈴木榮太郎　「農村社會學的部落調査方法」

佐々木彦一郎　「鄉土地理野外調査項目」

鈴木榮太郎　「農村社會調査法」

石田龍次郎　「鄉土調査必携」

鄉土教育聯盟　「鄉土調査帖（都市の研究と開拓・二村落の研究と展望。）

東木龍七　「鄉土地理野帖」

小田内通敏　「鄉土觀察項目」

ルブレーハウス　「ルブレーハウスの地域調査項目」

（小田内通敏紹介）

ジョンザワエル　「合衆國の臨地觀察項目」

（小田内通敏紹介）

同　「地方研究に必要なる觀察項目」

（大内武治紹介）

ブルコンヌ　「フランスの町村部落並びに獨立家屋の研究細目」

（小田内通敏紹介）

昭和八年三月廿七、廿八日於札幌市教育會主催講習會講演

# 要領北海道史

北海道史編纂長　牧野信之助

# 要領北海道史　目次


(一) 序言……(一)
(二) 前松前時代の一瞥……(三)
(三) 松前氏の政治經濟……(六)
(四) 蝦夷地と歐羅巴人の接觸、前幕領時代……(七)
(五) 蝦夷地の非常時、後松前時代より後幕領時代へ……(一〇)
(六) 蝦夷地新政の開始と騷擾……(一四)
(七) 開拓後の初政と諸藩割據……(一五)
(八) 開拓使初政の窮境……(一八)
(九) ケプロンの招聘と北海道經營策……(二〇)
(一〇) 黒田長官及び其他の首腦部……(二二)
(一一) 開發の大勢……(二五)
(一二) 都市と交通……(二七)
(一三) 日常生活の變改と社會現象……(二〇)
(一四) 教育と土人問題……(三二)
(一五) 屯田兵村の設立……(三四)
(一六) 十年計畫の成績と官有物拂下事件……(三六)
(一七) 三縣一局制の失敗……(三九)
(一八) 三縣一局の廢止と北海道廳時代の初政……(四〇)
(一九) 北海道廳時代初期の各種會社……(四二)
(二〇) 結語に代へて……(四四)




出版された北海道史

中央の史料と遺物遺蹟の比較

## (一) 序言

私は北海道の歴史を四時間位で講義しろと云ふ注文によつて、ともかく出て來たわけであるが、要領北海道史と演題に掲げてある主催者の注文通りに行くかどうかは豫想され難い。

從來北海道の歴史と銘打つた出版物は可なりある。然しどれにしても、首尾一貫して系統的に概括風に取扱つたものは、これならばと云つて諸君に推薦されるものは一寸見當らないやうである。道廳で編纂された北海道史は何と云つても、文化史風に系統立てゝ作り上げられた最初のものと云つてよいのであるが、惜しい哉明治前で中斷されてゐるので、今折角その後を連續編纂してゐるところである。どうしても氣のきいたアップツーデートな史要は、かうした根底のあるものから、それを簡約して組み立てられたものでなければ充分でないと思ふ。既刊北海道史は故河野常吉翁の編纂としてその時代に於て遙かに水平線を拔いた立派な地方史であつたが、唯學問の進歩發達は一日のゆるがせをも待たないで、ドシ〳〵新史料は發見され研究は更に突込まれて行く。

殊に、北海道の歴史は史料の欠陥を、從來割合に閑却されてゐた中央に求めることも大に必要がある。遺物遺蹟などにあつても同じく內地のそれとの比較研究が特に重要視されて來る。一例をとつて云へば、江戸時代の蝦夷地に於ける經濟的發達について重要な關係を有つてゐる近江商人の史

近江商人の史料

地圖と歐羅巴の文獻

古墳と土器

上代史の闡明

チャシと所北の城塞

料にしても、どうしても滋賀縣あたりを中心として敦賀や小濱、乃至は京阪をこめた一帶の地方にその活動の跡を示してゐる史料を見出すことによつて內容は充實されやうし、蝦夷地及びその屬島の探險や地圖の成立に至る徑路などは、舊幕府並びに、遠く歐羅巴の文獻に多く取材されなければならぬ。明治以後の開拓の課程を窺知すべき好材料が、退職してそのまゝ忘られた在東京あたりの顯官等の遺筐に死藏されてゐる多くの例もある。其等の適例は、以下隨所に紹介することゝしよう。又記錄に見えない廣い意味の史料卽ち主として遺物遺蹟などの方面にしても、例へば斯の所謂小樽の古代文字の如き今猶依然として學界の謎となつてゐるやうであるが、最近北大を中心とする少壯學者達の手によつて江別・發寒・惠庭あたりの、北海道では殆ど知られなかつた古墳が發掘され、副葬品は整理されて、函館附近の龜ヶ岡式土器の發掘などと共にその研究は考古學界を賑はして居る。やがては記錄の上に濛漠としてゐるわが上代史上に於ける蝦夷地進出の日本民族の活動などにしてもかうした方面からも闡明される望みがないとは言へない。斯くして鎌倉時代以來の日本人の渡道がより確實に、もつと古く活躍した祖先の事蹟が合理的に明らかにせられ、更に溯つて斯の阿部比羅夫の遠征記事などにしても、もつと納得の出來るやうな說明がなされる時期が來ないものでもない。然し斯かる遺物遺蹟の研究には、何よりもこちらに關係の最も密接な東北地方なり、若しくは關東地方なりのそれと比較することによつて、歸結を正當に導くであらう。アイヌの城砦と稱せられるチャシにしても、矢張東北の城塞、館若しくは其等よりも猶チャシに近い防禦物を比較することが必要となつて來るだらう。



武田信廣と蝦夷地若狹地方との交通

松前慶廣

## (二) 前松前時代の一瞥

津輕に割據した安東氏が南部氏と戰つて慘敗し蝦夷地に逃げ込んだのは、室町時代になつてからの事であるが、田名部の蠣崎氏亦相次いで遁竄し、東は鵜川、西は余市の間に割據して威勢を張つた。然しその中に、康正・長祿へかけて蝦夷の亂となり、例のコシャマインの來寇には散々の目に會はされ、云はゞ累卵の危きに當つた際に風雲兒武田信廣出でゝ之を平定し、蠣崎氏の女婿に納まつて上ノ國勝山城に雄視した。信廣は若狹武田氏の出と云はれるが、之は江戶時代の初葉寬永中高野山の學僧に托して出來上つた系圖によるもので、猶研究の餘地があらう。但し、若狹地方の北國から奧羽地方への海上交通は存外早くから開けて、戰國時代には最早相當往復してゐたらしいことは想像される。

信廣から五代目慶廣の時代は、恰も戰國末期に當つてゐたが、天賦の才幹よく天下の形勢を洞察し、素早く內地の政治舞台に飛び込んで豐臣・德川・前田その他のえらものゝ機嫌をとり、敦賀邊の大商人をも取り込んで、玆に始めて松前を中央政界に認識させ、安東氏の配下を脫して慶長五年松前に福山城を構へる迄になつた。そして秀吉から封令を受け、次いで德川幕府よりも大名並み

松前藩の成立

に扱はれることゝなり、參勤交代の勤仕、家譜、鄕帳、國繪圖等の提出――人口一萬そこ〳〵の領内ではあるが、凡そ大名としての資格を具備して松前に雄視することゝなつた。

近江商人の進出

「この時代から、内地殊に北國の港、就中敦賀・小濱などを通じて、近江商人の蝦夷地進出は頗る目覺しくなつた。慶長頃の慶廣から敦賀の商人小宮山氏に與へた手紙で見ると、產物の昆布を送つたり、多くの大鐵砲を松前に送らせたことなどが明記されてゐる。小濱あたりでも、既に蝦夷地から將來した昆布を加工して京都・大阪に輸出し、若狹昆布として國產の如く宣傳してゐたのである近江商人は既に戰國時代頃から敦賀に船舶を扱ふて日本海を航行してゐたのであるが、殊に八幡及び兩濱商人の中から、蝦夷地貿易に先鞭をつけるものが輩出して、彼等はドシ〳〵松前城下並びに江差に經濟的根據を据ゑてしつかり實權を握り、他面多くの漁場請負をも經營するやうになつた。

松前・江差の文化移入

斯の如くして、彼等の手によつて華やかな京阪の文化はこの兩港に移入され、又藩主中には京都の公卿と結婚するものも二三ならずあり、城下は奥羽を飛び越えて殖民地風ながさ〳〵した、然し華奢な生活が行はれつゝあつた。江戸時代も中期以後になると、從來の西廻りに對して東廻り航路も段々と開け、江戸との海上交通も相當に行はるゝやうになつて、清新な江戸文化の輸入ともなつた。そして藩中にも相當な文藝々術の士を輩出した。

近江商人に關係した當代の興味ある新史料の一二を擧げると、寛文九年東蝦夷シブチャリの酋長シャグシャインの亂に際し、松前・江差在留の兩濱商人は、早速松前侯の出陣を見舞つてゐるが、



シャグシャインの亂の史料

藩老蠣崎藏人から出された返書が今も殘されてゐて、それには宇須迄出陣やがて落着すべきを述べて居り、又亂夷いでから後の書狀には「十月二十三日、二十四日しやくしやいん始大將分之者共搦捕、しぶちやり館首尾能退治……閏十月廿日令二歸陣一」と見えるものがある。之は松前家譜の記事とぴつたり符合すると共に、如何にも商人對藩主との間の馴々しい關係を表はしてゐる。

松前江差屏風

もう一つは、ずつと時代を降つて化政頃、或はそれよりも後れてゐるかも知れないが、兩濱商人中の巨頭田附氏の所藏に係る松前・江差の眞景を寫した一双の屏風がある。之には精細に各商人の記號を表はした店舗倉庫などを中心として、海上には出船入船、陸上には城郭や社寺の立ち並んだ山の手に連接した華やかな街衢を、行きかふ士庶僧俗、さてはアイヌの群れを寫し、殊に江差の分では鰊獵の盛況をも示しつゝ五彩目も覺める計りの豪華版である。幾分創作上のモチーフに誇張は免れないにしても、この種の畫面として他に匹疇すべきものなき逸品で、史料としても興味が多い彼の古河古松軒の東遊雜記に松前の條「秋田・津輕の邊鄙の惡き所をすぎわづかなる海を渡りてかく上々國の風俗あらんとは風聞にても聞かざりし故に一人もあきれざるものさらになし」と云ひ、江差の條に「人物言語もよくて邊鄙の風俗なし、委敷聞くに、近江・越前の出店多く有て上方よりのものも多く、其上長崎の俵物問屋湊に有ゆゑに上方の風俗にならひてかくの如しと云」とあることなどが思ひ合はされる。

## （三）松前氏の政治經濟

松前藩の法制

次に、松前氏の蝦夷地支配の一般法制としては、文祿二年に豊臣秀吉から與へられた朱印狀を初見として、慶長九年德川家康の附與した三ヶ條の定書がすつと後迄大體同じやうに行はれてゐた。その大要は、松前へ出入の諸國商人は松前侯に斷はらずしてアイヌと直取引することを嚴禁し、アイヌは之に反してどこに行つても支障なしとして居住地の制限を加へなかつた。要するにアイヌとは直接交渉を避けしめる方針だつたのである。

直領地と給與地

松前藩は亦、領内の龜田・熊石を境界として和人地と蝦夷地とに分ち、蝦夷地は之を多くの場所に區劃して、直領地及び臣下に對する給與地とし、その場所でアイヌを使つて、物々交換をして利益を擧げしむる仕組とした。全島の領域内農業らしいものは行はれなかつたので、普通大名の如き石高の收入はなく、之に代ふるに海産物の利益を擧げてゐたわけである。然し武士としては職掌柄かゝる經營に慣れなかつたので、專ら商人に之を請負せて運上金を收める仕組とした。

請負商人と運上金

請負商人は直接、アイヌから主に昆布とか鰊、鮭などの海産物を交換して利益を占めた。その結果沿岸の海産物は段々産額を増して來たが、

請負商人のアイヌ搾取

商人中には不正な取引や不當の搾取を行ひ、アイヌを虐待するものが絶えなかつた。元來松前藩の方針としては、アイヌに文字、武器、農具など、彼等を開化に導く



手段を嚴禁したから、商人はそれをよいことにして、一層惡埒な手段に出たのである。

並川天民の開拓說

故に、京儒並河天民や阪倉源次郎等の如く、夙に内部平原の開拓を必要として之を高唱したものもないではなかつたが、藩では極端に之を嫌つた。斯の佐藤信淵の祖父信景が、釧路で水田經營に成功したと云はれる傳說なども疑はしいとされてゐる。そしてアイヌは漁獵民として農耕民の階段に上るを得ず、依然として無智蒙昧の狀態を脱することが出來なかつたのである。

結局、松前氏は大ざつぱに云へば前に十代二百年、後に四代三十年計りの長き藩政時代の間を無爲無策事勿れ主義に始終したと云はれても仕方がないのである。

請負場所と運上金

因に、前松前時代の終り頃の例によると和人地に於ける藩侯の直領地は六十餘個所、臣領地は十數ヶ所、蝦夷地には直領地十數ヶ所、臣領地六十餘個所の場所を持つてゐたことになる。そして運上金は荒方一ヶ年一萬兩見當のものであつた。

## （四）蝦夷地と歐羅巴人の接觸、前幕領時代

ロシヤの南下

然し、その中に段々時代が移つて明和・安永頃になると、先きに西比利亞征服を遂行したロシヤ人南下の勢が急激にスピードを加へて、遂に千島のウルツプ島あたり迄もやつてくるやうになつた

歐羅巴人の蝦夷地接觸

元來、歐羅巴人の蝦夷地に對する交渉は、十六世紀末から十七世紀の初め、即ち江戸幕府時代の

黄金の誘惑

フリースの探險

千島の發見とカムチヤツカの占領

ラペルーズとブロートン

赤蝦夷風說考

初めに宣教師の松前潛行によつてその發端をなすのであるが、他面黄金の誘惑――日本の東海岸にあると云はれた金銀島の探險は、幾度か南蠻・和蘭の船舶をして蝦夷地に近づけて、遂に寛永二十年フリースの探險船は三陸の海岸より北上して襟裳崎を發見し、十勝より根室灣に入り、エトロフ・ウルップの海峽に入り、ウルップの丘上に十字架及び東印度會社の記號VOCと1643の紀年を刻み、更に樺太のアニワ灣に入り、轉回して知床崎に出で、歸還した。その後三十年寛文十二年には、これより先きシベリヤを經てオホーツク海に出でたロシヤ人は、千島を發見して次いでカムチヤツカを占領し、ベーリング海峽を探險し、續いて天明頃になると、佛人ラペルーズの探險船宗谷海峽を通過し、英人ブロートンは樺太の西海岸を探險してゐる。

以上は、歐羅巴に於ける探險學者の興味が蝦夷地及びその以北の群島に集中されたことを示すと共に、魯國の侵略が着々進行してゐたことを敎へるものである。然し、ロシヤ人の近海寇掠は松前藩として出來るだけ幕府に隱蔽する方針を執つてゐたのであるが、事件が事件だけに、反つて長崎在留の甲比丹の耳に入れるものがあつて、それから幕府の知るところとなつた。斯の海國兵談や三國通覽圖說などを版行して天下を警醒した林子平の如きも長崎在留中その風聞を詳かにしたものである。これより先き天明三年子平と同じ仙台藩の工藤平助の赤蝦夷風說考が公にせられてゐたので幕府は彌々蝦夷地の實狀を調査することになつた。そしてゐる中に、寛政四年ロシヤ使節ラクスマン漂流民幸太夫を伴ふて霧多布場所に來り、交易を求むるに至つては、到底この國際的大事件を微



幕府の蝦夷地直轄

松平定信遺筐の地圖

休明光記及附錄

幕府の積極政治

探險と測量

力な松前藩に任かせることは不安だと云ふことになつて、寛政十一年幕府は自ら東蝦夷を直轄し、十年許りして西蝦夷をも併合して、松前侯は陸奥梁川に移封せらるゝことゝなつた。

この對魯政策については、幕府の老中松平定信の關係するところ多く、私はつい昨秋、樂翁の遺筐を調査の際、蝦夷地を主とした夥しき地圖を見たが、何れも當時幕府の手により北邊の形勢を知る爲めに蒐集されたもので、ロシヤ・アメリカなどからの材料を取り入れて居り、幕府主腦部の間にあつては、餘程詳細な知識を持つだけの材料が具備してゐたことを知つた。

この幕領時代は文政四年迄約二十年、一般に前幕領時代と云はれる。この時代を通じてのよき史料としては、何よりも當時蝦夷地經營の最高幹部に列した羽太正養の記述した休明光記、及その附錄が骨子となるべきである。

當時蝦夷地の經營は、五人の蝦夷奉行によつて、政廳をこれより先き松前三湊の一として發達した箱館に置かれることゝなり、これまで徒らに惰眠を貪つた松前藩の遺口に比べて、非常に活氣ある施設の下に面目を一新することゝなつた。各場所々々に會所を設けてアイヌを撫育し、交易授產の道を興へ、南部・津輕二藩に沿岸の警備を命じ、旗本八王子千人頭の一團が勇拂・白糠に屯田の俯を開き、實行難には陷つたが、請負人の廢止をも斷行せんとし、蝦夷地鎭護の意味で、有珠・樣似・厚岸に三寺院を建立したことなどにも、その北門の鎖鑰としての蝦夷地が認識を新しくされたことが明解される。近藤重藏や最上徳内の東蝦夷及エトロフ踏査、間宮林藏や松田傳十郎の樺太探

魯人侵略と日魯の葛藤

松前藩への復領

あはたゞしき時代

険、伊能忠敬の沿岸測量若しくは商傑高田屋嘉兵衛の活躍などは、皆この間の時勢によつて激發された偉業と云つてよい。

但し、魯人南下の勢は少しも休まず、彼の使節レザノットが長崎に至つて交易を乞ふて容れられず、その歸航に際しては、遠く樺太からカムチャッカに至つたのは、文化二年のことであつたが、その頃から、殊に魯人の侵略は甚しくなり、千島・樺太方面は絶へず脅かされてゐた。魯將リコルドの高田屋嘉兵衛拘禁、ゴローインの松前拘禁亦この際のことである。

その中に、文政四年に至つて幕府當局の言明によれば、蝦夷地經營はよく北顧の憂なきに至れるを以て、松前侯に從前通り全島を還附することゝした。爾來安政迄三十餘年、所謂後松前時代となつた。

## （五）蝦夷地の非常時、後松前時代より後幕領時代へ

幕府の松前侯に對する復領聲明は、果して最早對魯關係を樂觀してもよいとのことであつたか、そこには不可解な點がないでもない。少し當時の實情を詳かにした人ならば勿論問題が消解されてゐないことは明らかに知られるであらう。果して亦彌々形勢不穩と見て、後幕領時代卽ち再び幕府の直轄となつて、幕末に至る間十數年を經過することゝなつたのである。

水戸藩と蝦夷

北島志

天保飢饉と流民移住

このあはたゞしき時代の概見を知られる文献としては、何分事件が輻輳してゐる爲めに、列擧するに堪へない位豐富であるが、特に蝦夷地の非常時として、北門經營を主題とする論策風のものが著しく眼立つてくる。

その中でも北島志は、水戸藩の彰考館編輯豐田亮の著述で、その內容確的間々水戸藩の主張を示すものがある。元來水戸藩は、德川光圀の時代から既に早く元祿中快風丸を石狩に廻航させて居り、烈公齊昭は屢々幕府に建白して蝦夷地の警備と開拓とを委任せられんことを乞ふてゐるから、云はゞ傳統的な一藩の宿論であつたのである。この北島志は、かうした間に編述されたものであるだけに、當時北方問題に關係ある有司志士の間には、最も重寶がられ無二の參考書として推稱されたものである。又、江戸の國學者前田夏蔭の蝦夷志料、二百卷に餘る尨大なエンサイクロペデヤに該當するやうなものも出來た。前松前時代の末に編纂された、松前藩の歷史福山秘府などゝ共に、蝦夷地のまとまつた紹介書として有名だつた新井白石の蝦夷志などが出來てから以來、こゝ迄文献側でも深まされて來たのである。

後松前時代には、その始め頃はまだ別段特筆するやうな大事件と云ふ程のものはなかつたが、例の全國的に襲來した天保の飢饉には、取り分け悲慘を極めた奥羽地方の流民が入込んで來て主に西海岸に土着し一時に人口の增加を見た位であつた。猶もう一つ從來の福山城を改築して安政元年に竣工したことを附記しよう。

米國艦隊の箱館入港

箱館開港

箱館奉行の開拓策

大野藩の治績

その中に嘉永六年ペリーの率ゐる米國艦隊の浦賀入港によつて、日本は彌々開國の發端を見ることになつた。そして翌安政元年には、早くも右艦隊は箱館に來つて上陸し、更に港内を測量すると云ふやうな目まぐるしい大事件が展開された。松前藩の觸書で見ると、婦女子を市外に避けしめ、戸障子には目張りをさせたとあるのにも、狼狽の程が知られる。かうなると、又々松前藩への全島委任は賴りなく思はれるのは勿論で、再度の幕府直轄斷行され、所謂後幕領時代となつた。二人の箱館奉行は任命されて、(後三奉行となる)松前侯も奥羽の列藩と共に沿岸分轄警備の任に當り、やがて外國船に薪水食料等を供給する爲箱館の開港となり、既にして井伊大老の手によつてなされた戊午假條約の結果、安政六年に至つて箱館は神奈川など丶共に貿易の爲めの開港となつた。

開國撰夷、新しき日本の胎生が空前の陣痛に艱んだ如く、蝦夷地にあつてもその激動は劇しく渦卷いた。殊に、魯國との交渉如何によつて被らるべき我邦の安危は懸つてこの北門にあつた爲めに、その影響するところ一層强烈なものがあつた。箱館奉行は、何よりも全島の開發——沿岸の場所々々を除いては、内部は丸で手の入れてない空地を充すべく、屢々手を分つて仔細に探險を重ね、神威崎以北に絶へて久しき婦人進出の禁を解き、道路の開鑿開拓の奬勵、土人の撫育に力め、外人を傭ふて鑛山の檢査、農場の經營等についても基本的の調査をする迄に積極的な開發策をとるやうになつた。箱館警備の爲、五稜廓や辨天崎砲臺の出來たのもこの際のことである。

又、諸藩の卒族に移住を許可するやうになつてからは、例へば越前の大野藩の如き、夙に早く箱



橋本左内・内山隆佐の寛見

農兵移住の建議

樺太問題の談判

館を根據として口蝦夷の開發を計畫し、一面樺太に迄進出するに至つてゐる。

私は、前述水戸藩に於ける論策と共に、諸藩の先見ある有司志士の間に於て當時如何に蝦夷地の問題に關する議論が行はれてゐたかの一代表として、福井藩の英才橋本左内の意見書を一瞥したい。數多い彼の論策の中に殊に有名なのは同藩々老に宛て丶日魯同盟を論じた書翰の一節であるが、その中に、國際的に蝦夷地の重大視せらるべき理由を述べ、その對策として、諸國の大名及び多くの浮浪人を移して開發を盛行すべき案を高唱してゐるものがある。かうした議論は、勿論左内一人に限られたことではない、前記大野藩の傑物内山隆佐の蝦夷地開發の建策を見ても、農兵の土着、請負人の廢止、厚岸石狩への鎭臺設置などを强調して、北門鎖鑰の實を擧げんことを縷述してゐるものがある。

それは亦當時の民間に於てすら國論として論議されるやうになつた。例へば文久三年但馬の農民某の建白書の中に、北門の難に當らん爲、窮民を農兵に仕立て丶屯田せしめよと申立てたものがある。こうして見るとあらゆる階級に斯の如き警備拓殖論は幾分見解の相違はあるにしても澎湃たる公論となつてゐたことを認めざるを得ない。

この間に於て、魯國は屢々幕府に對して、樺太に於ける兩國の境界設定を協議せんが爲め會商せんことを求めたが、遂に慶應二年、小出奉行等を魯都に派遣して假規則を定める迄になつた。然しそれはもとより暫定的のもので、その中に幕府は倒壞し、慶應三年十二月には愈々王政復古して明

治政府の成立となつた。

## （六）蝦夷地新政の開始と騷擾

北門社志士の奔走

函館戰判所の新政宣言

函館戰爭の勃發と新政の頓挫

明治天皇御親政の初に當つて、もとより蝦夷地經綸の問題は重要なものに相違はなかつたが、餘想外早く廟議に上つたのは、岡本や山東を首盟とする北門社一派の志士が昵近した廷臣清水谷侍從等を動かした結果であつた。

御諮詢に應じて提出された建言書は三十五名二十數通の多數に上つたが、然し蝦夷地そのものゝ實狀に至つては殆ど誰にも認識されて居らず、唯魯國侵略の憂慮に至つては、列卿の等しく痛心してゐたところである。こんな風で全島を支配せんとする函館裁判所（後に函館府）は、清水谷公考を總督として開設され、舊幕府奉行側の引繼を受け、新政の綱領は鮮かに宣言された。即ち、全島を列藩に割讓して宗谷附近に一府を建て、先づ蝦夷本土開拓の規模確立の上で樺太開拓の手段を講じようとするのである。

然し、間もなく奥羽列藩動搖の餘波を受け、舊幕府の脱走軍疾風の勢を以て半島を蹂躙し、函館を占領して五稜廓に據るに及び、清水谷知事は逸早く青森に退去して折角意氣込んだ大經綸は飽つ氣なくけし飛んだ形ちとなつた。

蝦夷地開拓の嘆願

開拓使の設置

北海道と分國

舊制改革

そして翌二年五月五稜廓の開城迄半歲間、もとより一窮鼠に過ぎない幕臣等としては、首領榎本武揚や大鳥圭介の如き泰西の事情に通じた達識の士に統率され各部支配の新部署を定めたとは云へまだ占領地に對して秩序ある施設を遂行する迄には至らなかつた。彼等の提出した嘆願書に、舊幕の浪臣三十萬之を蝦夷地に移して開拓警備の任を全うしたいと述べてゐるのはもとよりあまりに蟲のよい申立てであるが、何れにしても、この封建から新政への過渡期の波動として、やがて明治初期の重大な問題となつた士族授産案に一つの先鞭を加へたものとも考へることが出來よう。

## （七）開拓後の初政と諸藩割據

二年五月劇的光景の中に、五稜廓の開城となつて脱走軍は降伏した。やがて七月の開拓使の設置は、更に目覺しい新政の實施となつた。

最初の長官鍋島侯に代はつた東久世長官の下には、島・岩村・松本・岡本の如き俊髦が判官として任用された。十一國八十六郡に分たれた蝦夷改め北海道は、石狩に本府計營の豫定の下に、判官達は石狩・根室・宗谷・樺太にそれ〴〵分遣された。此等の下拵について地理的實際の獻立に功勞あつた松浦武四郎を忘れてはならない。彼は幕末以來普く全道を踏破した、無双の北海道通であつた

次で舊制を改革して場所請負人を全廢することゝし、冲ノ口運上所を增設し、樺太に對しては出

諸藩經營とその理由

諸藩經營の實情

來るだけ消極的の態度の下に魯人雜居の形ちを認容した。そして、可なり反對論者があつたにも係はらず、依然として全道各地を割讓して諸藩の經營に任せんとした。

之は要するに、新政府の財政が貧弱で、赤字續出の際止むを得ない措置であつたとも思はれる。而して亦、當時の開發事情にしても、前記二回に亘る幕府直轄の際の如く、開發は單なる拓殖ではなく、極めて切迫せる國防上の危期を控へて、强大なる武力を要する情勢であつたことを度外視してはならぬ。軍備上に於ても勿論貧弱であつた新政府は、之を薩・長・土・肥の如き列强に要地を守備せしめ、兵農兼帶の制度を布くべしとして、丸山作樂の如き最强硬論者の主張が通つたものである。斯の如くして、支配地を充てがはれたものは前後二十餘藩に達した。

然し、此等の諸藩は皆最初から一樣に卒進して朝旨を奉じたものではない。水戸・佐賀などの諸藩は夙に皇謨翼贊の意を表したが、政府としては實はそれよりももつと大藩を狙つてゐたので、斷然希望の如何に係はらず、鹿兒島・山口・金澤等の列藩に對して、北見・天鹽等の僻地を割り當てゝ强制的に國防の第一線に當らしめた。然も、東北の諸藩以外は概して實地の事情に暗かつたので早くも悲鳴を揚げ、鹿兒島・金澤・名古屋・廣島等の諸藩は、第二次の改革即ち四年八月の各領一齊返上に先ちて匆々撤退した。然し、釧路に於ける佐賀藩・彦根藩、天鹽の水戸藩などは、相當に移民と開拓の成績を殘し、留萌・增毛方面にあつた山口藩などにしても可なりの施設を目論でゐたのであつた。



諸藩卒族の移住と成功

會津降伏人の土着

東京府の根室支配運動

寺院の利權獲得問題

以上列藩の事實は斯の如くであるが、別に諸藩卒族の團體、就中その主要部を占めた仙台の支藩老臣中にあつては幾分戊辰兵亂贖罪の意味と減封士族の始末とを兼て、伊達邦成の有珠に於けるものゝ如き、艱苦渡來の上主從協力の封建的精神を最も賞贊すべき形に於て發揮して、此期間諸藩移住戶數の半ばを卽ち約三百餘戶をその手によりて植付けることが出來た。同じく、伊達邦直の當別に於けるものゝ如きも、少しく時期を遲れるが、亦同じやうな成績を收めることが出來た。別に、德島藩老稻田氏の率ゐた一團は、兵庫縣貫族として日高に移住し、これ亦可なりの成功を收めることが出來た。

次に、種々の問題を惹起した省府その他の割込運動がある。初め政府は、會津降伏人の管理を軍務官(後の兵部省)に附託し、之を石狩方面に移して拓殖の功を收めしめんとしたが、時恰も島判官の札幌經營中に會して、事を以て紛擾を重ね、結局その管轄を免ぜられて落着した。之は、官憲の間に於けるありがちな笑ふべき權限論の歪み合ひに過ぎないが、それとは別に根室三郡を支配せんとして、まさに割込運動に成功せんとした東京府の場合は、その裏面に二三の狡商、同地方の漁利を狙つての暗中飛躍であつただけに、可なり問題は紛糾したが、既に同地に駐屯してゐた松本判官の頑肇なる反對に會して、遂に之を撤回せしむることが出來た。

この利權獲得運動と相聯關するものに、寺院支配地の問題がある。之は舊時代以來の弊風を慣用する、射利行爲の範圍を出でないが、唯當時政府をして頗る杞憂せしめた外敎の取締に對して、彼

東本願寺の北海開教と道路開鑿

神祇省の支配地割込意見

等は得たり賢しと移民教化を表看板として高唱した點に巧みなるトリックがある。即ち、東京の増上寺、京都の佛光寺・泉涌寺等の如き由緒寺院の申立は、表面は如何にも立派であつたが、裏面に之を操るものは何れも狡商山師の類で、所詮利權獲得の外何等の意味をなすものではなかつた。唯然し、京都の東・西本願寺殊に東派は、傳統的に江戸幕府との密接なる關係があつたので、早くから教線を布いて居り、西派にあつても亦幕末に至つて函館附近に門徒を移住せしめて開拓を計り、相當の勢力を張つたのであつたが、今や東派は大擧一山の方針を北海開教に向け、箱館より膽振に轉じて札幌に通ずる、所謂本願寺道路を開鑿し、別に箱館・江差間道路の開鑿費をも献納し、三年には新門主の札幌巡錫ともなつた。

更に視野を轉ずると、この維新直後の時代は、排佛毀釈の勵行に伴ひ神道の顯揚これ盛んな時期でもあつた。この新開地に於ても、それが何等かの形を執つて表はれんとしたのは決して不思議でない。これより先き全道の開拓守護神は、二年冬、島判官によつて札幌に奉安されて以來、祭典を擧げる迄に至つたが、その維持容易ならずとの理由から、日高の内四郡を神祇省の支配地として、その收益を以て神社の經營費に充て異端教賊を仰制せんと建議したものがあるが、遂にそれは實現せられなかつた。

## （八）開拓使初政の窮境

大官不和

札幌經營と方針の變動

東京府招募民の失敗

斯かる狀態の間にあつて、開拓使そのものゝ直轄地經營はどんな風に發展したか。札幌府の建設に沒頭した島、根室に駐屯した松本、函館に東久世長官を助けた岩村の各判官は、何れも勝れた才能の士で互に勵精したが、然し何れも權限を持すること固く、やゝもすれば意志の疏通を欠き、やがて島判官は敬遠せられ、同松本は一度東京府割込問題について辭職の聲明ともなつた。

そんな風で、三年五月の開拓見込書によると、頗る盛澤山の個條が並べてあるが、要するにそれは、未だ單なる抽象案の羅列に過ぎなかつた。以下、開拓使としての施設事項中著しきものを少しく列擧して見ると、第一全道制禦の中心として夙に容認された札幌の經營は、島判官自ら劃策して二年冬繩張を始め、官衙地帶と街區地帶とを分ちて縱横井然たる街路を通じた大規模の都市計畫には「四通八達宜開府、他日五洲第一都」の概が髣髴される。然も長官の忌諱に觸れて、岩村判官之に代はるに及んでは、建府を先にするよりも該地域近接の聚落經營を急として、引續き羽越奥州の土民を移して十餘ケ村を建て、市街にも福山・函館あたりの町民等を移して、四年五月愈々長官の赴任を見る迄になつた。

之と連關して、首府の防備としての屯田兵設置案は、東京府より之を徴募するにあつたが、實現するに至らなかつた。

更に視角を轉じて、移募民招致の成績を一瞥すると、開拓使としての當初の試みである東京府招募の士民は、樺太・宗谷・根室に分置せられたが、元來烏合不良の徒多く、豫想を裏切つて四散し、

彼の幕臣及び仙台藩士等より成る箱館降伏人の如きは、政府としては土着開墾せしめんとする方針であつたが、開拓使當局は到底見込なきの故を以て斷乎退道せしめることゝした。之に反して、前述會津降伏人は數寄の運命に流轉した擧句、主として余市地方に土着することゝなつたが、之は成績頗る擧がり模範移民として成功した。其他一般に、大多數の移民は奥羽・北越を主とするものであつたが、習性概して鈍惰に過ぐとの評判があつた爲めに、開拓使は試驗的に遠く九州天草邊の農夫を迎へて浦河地方に配置してみたが、これとて成績は普通を出でなかつた。

九州農民の試驗的移住

更に漁民移住も、根室・釧路方面に相當の成功を收めたとは云へ、開拓使の施設事項は上述の如き種々の事情により、當初の揚言はいつの間にか消極的となつて、場所請負の廢止問題も急には埒明かず、海關所の增設、産物會社の設置等にも少からぬ行きなやみがあつた。今にして何等かの非常な打開策が行はるゝに非ずんば、前途の見込が立たなくなつて來たのである。

漁民移殖

この時に當つて、新に分離した樺太開拓使の任に當つた黑田次官の任地よりの歸途、三年九月本道視察の結果は、一大警策となつて拓殖政策は茲に轉回した。

黑田次官の警策

## (九) ケプロンの招聘と北海道經營案

黑田次官の上奏文に見らるゝ「夫治亂盛衰ノ並ニ相轉換スルハ現勢ノ自然、方今宇内ノ形勢ヲ察スルニ數年必ズ一變アラントス」との識見は、流石に時勢を見るの明があつた。

その建議案の眼目は、札幌を四方控制の中心とし、樺太をその部内に籠め、歳額百五十萬兩を費し、二十年にして奏效すべしと云ひ、宜しく外國より開拓の達人を聘用すべしとするにある。從來支出の經費は年額大凡五六十萬兩と見られるが、この黑田案によれば將來これ迄の年額三倍を支出せんとするものである。然し之も後彌々となつて、向ふ十年間一千萬圓に改訂せられたが、當時の財政上から見れば、政府も思ひ切つた英斷を與へたものと云つてよい。

黑田案の内容

開拓指導者の招聘に對しては、黑田次官自ら渡米して、グランド大統領の好意による農務長官ホラシ・ケプロン聘用の契約が、四年二月に締結された。そして開拓顧問兼頭取の職名を以て來朝することゝなつた。この間、副島參議等の一行具さに本道を視察し、所謂副島・黑田・東久世の三頭會議によつて、時恰も四年七月全國廢藩置縣斷行に際し、翌月諸藩以下の支配地を免じ全道劃一して開拓使の隷屬となつた。

ケプロン聘用

黑田次官の政治的手腕と、開拓顧問ケプロンの忠實なる施設によつて、開拓使はこゝに晴々しい更生のスタートを切つた。

ケプロンは先づワーフィルド・アンチセルの二技師を先發させて、仔細に北海道に對する豫察殊に札幌間の車道築造、及首府としての札幌の可否を更に檢討せしむることゝし、その報告によつて第一報文を提出した「余の事業は先例なく總ての創造なり」と云ひ、「日本の改革は百工技藝の

第一報文に表はれた抱負と内容

上にも變動の勢あり、實に全國の經濟を改革し、農工の方法一變すべきの時なり、……之より五十年間必ず他邦今日迄五百年間に進歩せるものよりも尙能く文明の域に至るべし」との强き確心のもとに、詳細な意見を發表した。首都としての札幌は、ワーフィルドの說によつてその位置を動かすべからずとし、函館・室蘭より石狩凹地を經て札幌・小樽に達する車道は、やがてその指揮によつて驚くべき大工事となつて完成した。新室蘭は、實にこの工事によつて生れ出でた寵兒であつた。ケプロンは五・六・七の三年に亙つて每夏來道巡察して、札幌は勿論日高・後志の邊境に迄足步を枉げ開發の實地指導に力めてゐた。

第二報文に表はれたる北海道經營の成績

六年に發表されたその第二報文には、地質鑛山の測量が主としてライマン、地形測量が主としてワスソン等によつて着々進涉せるを述べ、唯移民に對する土地區分法を顧みられざるをあきたらずとしたが、八年に至つて、多くの繁雜なる業務を處理して惜まれつゝ歸國した。

ケプロンの成績

その後十四年に至り、開拓使は十年計畫の成績を蒐めてケプロンに送つたが、その序文の一節に「閣下畫策スルトコロノ良法確論數十萬言、皆適切ナラザルナシ、札幌ノ開府、札幌・函館間ノ新道、農工商民ノ招致、電線汽船鐵道等ノ施設、土地山川ノ測量、地質鑛山ノ檢査、農業園ヲ開キ、動植物ノ試驗、專門學校ノ開設、移民扶助ノ制限ヲ設ケ、地所賣買等鑛山開發ノ規則ヲ創定シ、漁獵ノ舊慣ヲ釐正ス、既ニ施工セルモノハ益々之ヲ擴充シ、未ダ施工セザルモノハ漸次之ヲ着手ス、閣下在任ノ日ニ比スル時ハ進步幾層倍ナルヲ知ラズ」と述べられて、その偉功を稱へてゐるが、何

ライマン・クラーク・クローホールド



としてもこの忠實なる顧問を得たことは北海道にとつて非常な幸福であつた。

當時、開拓使時代を通じて雇傭の外人前後七十餘人、その中米人最も多く、その中には、ケプロンを助けて偉功あるライマンがあり、少し遲れて教育者としてのクラーク、鐵道建設者としてのクローホールドの如き、才能人格共に申分のないものが少からず見られたのは、これ亦北海道にとつての幸福であつた。

反對論者

然し、何れの場合でも反對論者のないことはない。例へば政商バチエドールの如き巧みに開拓使に連緣して、ケプロン等の徒らに巨費を濫用するを批難したり、或は橫濱あたりの新聞紙によつて批難するものも少くなかつたが、然も之はありふれた嫉視に過ぎずして、決して豫想を裏切られるものではなかつたのである。

## (10) 黑田長官及び其他の首腦部

顧て、更生された開拓使の施設事業は如何に運用されて居つたか。元來長官の任にあつた東久世氏は、公卿階級中の新人であつたかも知れないが、所詮長袖者流の一ロボットに過ぎないものであり、岩村判官はその信任を得、排斥された島判官の後を承けて札幌に駐屯したが、長官轉職の後開拓の全權を掌握した黑田次官と合はず、斯る主腦部の絕へざる軋轢は、五年十月の所謂札幌會議に

札幌會議と黒田・岩村の決裂

よつて決裂した。その結果經費節減を名とする官吏の黜陟を行ひ、やがて木廳主任岩村を罷免して根室支配の松本大判官を後任とした。

黒田次官の立場

この會議に際して、岩村は切りに黒田次官の東京にあつて札幌に駐在せざるを責めたが、之は當時中央政府の基礎未だ成らず、斯の征韓論の軋轢さへ前途の危期を孕んだ際のことゝてこの廟堂諍々の官僚をして到底閣下を離れての札幌在留は不可能であり、この後と雖相次いで八年には千島、九年には朝鮮、十年には西南役に出征して、何れも時局の難に活躍した立役者であつた。然しこの忙劇の間に於ても、一面極めて熱心に芝增上寺の開拓使出張所にあつて道内の施設に盡瘁した。殊に多くの庸聘された外人技師の使用については人知れぬ苦心を拂つたものである。

松本大判官の人物

松本大判官は舊薩藩と緣故淺からざる舊庄内藩の出身で、その推挽されるところとなつたとも察せられるが、清廉剛直寧ろ舊時代型の人物であつた。當時開拓使の施設が放慢に過ぐるとの批難を蒙つた際でもあり、旁々安全第一としてこの消極的な循吏を据ゑたものであらう。

黒田次官の直情徑行

黒田次官の全道開發に對する熱誠は、當時在廳の僚友に與へた書翰を見ても、確乎たる決心の下に獨立自主遊民を一掃して、將來の良果を得んことを縷述してゐるものにも知られる。斯の六年福山・江差地方に於ける漁民暴動の後發布した諭告書の中に「清隆不明ニシテ撫御ノ道ヲ失シ遂ニ此失體ヲ致ス、後悔ノ至リニ堪ヘズ、之ニ依テ進ンデ罪ヲ民ニ讓ルニ忍ビズ、此際出格ノ義ヲ以テ各ソノ主罪ヲ赦宥シ、罪ヲ清隆一身ニ歸シ、退テ天裁ヲ仰ガン」とせるものゝ如き、又同年所謂緊縮令を發した際の諭告文に『開拓ハ實ニ遠大ノ義ニシテ月日ヲ期シテ成功ヲ論ズベキニ非ズ、……施行ヤヽ誇大ノ弊ヲ免レズ、稍悔悟スルトコロアリ、因テ顧フ、自今ノコト痛懲源ヲ深ウシ本ヲ固ウセザルベカラズ』としたるものゝ如き、何れも卒直に心境を吐露して、民衆の微妙なる感情に訴へた點に、政治家としてのほゝえましい面貌を示すものがある。彼の降將榎本・大鳥等の才幹を惜んで、之を開拓使官吏に重用したる如きも、亦特筆すべきことゝ云はねばならぬ。黒田次官は、やがて七年長官に陞任した。

## (二) 開發の大勢

移民扶助規則

偖て、此邊で一つ新政府の手に渡つて以來の、全道開發の大勢を瞥見することゝしよう。

先づ法令の上から明治二年に出された移民扶助規則は、募移農夫、同工商と自移農夫、同工商との二類に分たれ、前者には旅費家屋三ヶ年間の食料開墾料等一切を當てがう非常な手厚い保護があり、前記札幌の周邊に集つた奥羽乃至北越の各團體は大體この規則によつて扶殖せられたものである。後者には其程の保護はなかつたが、然し開墾料の如きは前者の二兩に對する十兩を給與した。

要するに、この保護政策はあまりに度を過ごした嫌ひがあり、ケプロンの意見にも、移住民は自ら進んで來るやうにすべきで、濫に募集すべきでないと論じ、日高・十勝邊の殖民の實際を視察した

榎本判官の如きも、「官助を仰ぐ人民は開拓の民にあらず」と極言してゐるのにも事の眞相があらう

土地賣貸規則

該規則はその後漸次修正されて行つたが、七年に至つて新に移住農民給與更正規則を出して、家具開墾料の給與を廢し、爾後十六年迄施行された。

又土地そのものゝ處分法については、五年に土地賣貸規則を制定して、十九年に至る迄遵行された。即ち賣下げは一人十萬坪を限度とし、十年間除租とするも、一ヶ年乃至二十ヶ月間開墾に着手せざれば上地させることゝしたものである。

形成せられたる主要の聚落

斯の如くして、漸次所在の地に聚落を作つて處女地開墾の中心となつた場所としては、幕領時代に御手作場として相當に開發された渡島半島の各部落や、西海岸地方の一部を除いては、有珠・余市・札幌・當別と日高方面などを擧げることが出來る。

以上の中有珠・當別の如き、既に前述した如く士族團體の固き結合に成れるものであるが、猶土地そのものに於ける土壤氣候に惠まれ、加ふるに前者には田村顯允、後者には吾妻謙氏の如き有爲の畫策者があり、猶一つ彼等士族團體は農業上には全くの素人として、指導さるゝがまゝに新式の農法を遵守したことが發達を早うしたとの說があるが、一理あることゝ思ふ。

日高の開發

又、同時代に於ける日高方面の拓殖は、頗る熱心に唱導され、絕えず移殖民を送つてゐた。之れは一には氣候の中和に着眼されたものでもあつたが、實際のコンデッションはそう宜いこともなく、住民怠惰に流るゝとの批難もあつて、豫期した目的は達せられなかつた。



開化の標準——遊廓と學校

然し開拓使時代には、未だ上川盆地や十勝平野の開發は、そこに將來を約する曙光が見え初めた計りで、次の時期に移らなければ實行期に入れなかつた。當時吏僚若しくは實地視察者の旅行記に期せずして皆、開化の標準を遊廓の存在如何に求めてゐるのは、幕領時代の沿岸紀行のそれに見る如く、如何にも殖民地らしき情景を示してゐる。

七年に殆ど全道の沿岸を一周したライマンの日記には、日高の廣尾から東海岸を北上し、宗谷に轉じて增毛に至る間、一つの學校の設けがなかつたと記してゐるのには、多少の見落しはあるにしても、これ亦當時北海道の開發大勢の標準として見らるべきであらう。

## (三) 都市と交通

札幌の新營

眼を轉じて都市の發達に一瞥を與ふるならば、札幌は全道の主都として確定されて以來、着々その發達を計り、既に豫定された本廳を中心として一里四方を府內とする目安の下に、四年假廳舍成り、町割を行ひ、創成川を通じ、やがて六年には宏壯なる洋風の本廳舍の造營となつた。これより先き岩村判官は、市街茅屋多く火災絕えざるを憂ひ、之が廢絕を期し、御用火事の非常手段によつて目的を達したと云はれてゐる。

そして一時殺到した大工職人等の爲に、官設の薄野遊廓を設置し、恰も新興滿洲の新京あたりの

情景を彷彿させるものがあつたが、荒方工事の終了と共に、不景氣の極散々の爲躰となり、漸く官憲の手厚い保護の下に徐々に發展を續けることが出來た。猶、札幌の町割は外人の手になつたと一般に云はれてゐるが、はつきりした證據はない。矢張當初の島案に基づいて岩村判官時代に區劃し其後或は部分的にケプロン等の指圖を受けたかも知れぬ。

**小樽と鐵道**

小樽は札幌の外港として、早くより著名の漁業場所でもあつたが、色内・手宮と合併して漸次戸口の充實を見るに至つたものゝ、唯ケプロン等の意見によれば、位置にあつては對外貿易港として申分なきも港灣宜しからず、且つ神威古潭の險要は札樽連絡に不便なりとして、幌内炭の積出しに石狩より海上を經廻すべき案であつた。然も、其の後クローホールド等の献心的努力は立派に奏功もして鐵道開通せられ、棧橋の功成り洋々たる港の發展を將來に約束するやうになつた。

**函館と文化施設**

函館は之に反して、既成的の要港として、例へ兵火の洗禮を受けその後も屢々火災があり、殊に十一、十二兩年の大火は目貫の個所を大半燒失したとは云へ、それでも漸次恢復するだけの自力があつた。九年には本道として最初に明治天皇の聖駕を奉迎するの光榮を荷ふたのも特筆すべきである。英國領事館にしつらはれたウエルカムの扁額を翳した奉迎アーチも、此港でなければ見られぬエキゾテックなものであつた。文化施設の一般を見ても、函館新聞は既に十一年には發行されて居り、魯學校の設置、貧民學校、育兒場、女紅場等の施設は全道に先ち、監獄では香水、燒木等を造り、洋風を加味した公園の如きも十二年には立派に落成した。



**室蘭の發達**

室蘭は札函車道築造の際、その要地たるを見出されて今の市街主要部が形成され、札幌の連絡並びに石炭輸出港としてその價値を高唱された。六年頃には、一戸に二三百人を容るべき洋館風の旅亭が建てられてあつたと云ふのも新鋭の意氣を示すものであろう。然し、小樽に鐵道開通され函樽汽船の連絡成ると共に、一時市勢の衰へを示したのは止むを得ぬ現象であつた。

**官衙町根室**

根室も、場所としては古いものゝ、市街の母胎が作られたのは五年支廳設置以來のことで、函館大火後には、移轉し來るもの少くなかつたと云はれてゐる。要するに、漁港兼官衙町として維持されたと云つてよからう。

**漁港石狩**

石狩も亦、前代以來の場所として、鮭獵の中心をなし、又石狩河口を擁して、札幌に對する外港の意味に於ても相當に發達したが、屢々火災に見舞はれ、一面小樽の發達によつてその位置を轉換されることゝなつた。

**福山と江差**

舊幕時代の主都松前即ち福山は、兵火に厄された上に、政治的中心としては全然生命を失ひ、市民或は札幌或は小樽に轉居して市勢の衰へを示した。江差は漁業の一中心として、又港灣が相當にその機能を發揮してゐた爲めに、それ程顚落を示さなかつた。

當時開拓使の用務を帶びて外遊した大鳥圭介が、歐米新開地に於ける都市計畫を調査して、之を北海道の新設都市に應用せしめんとしてゐるのは道内の都市に取て興味ある一挿話とす可であらう。

次に、交通については、全道の動脈としての本願寺道路先づ開かれて、後間もなく車道貫通せる

幌内鐵道

保任社

三菱と海運事業

こと既に前述したが、やがて主として石狩炭田から石炭輸送の爲めに計畫された幌内・手宮間の鐵道は、十五年に至つて全通することゝなつた。尤もずつと早く二年に、茅沼炭山に石炭運搬用の軌條が三粁ばかり敷設されたのは、事物起源的に云へば我國最初のものとも云ふべく、その點で興味があらう。

然も、他面海上交通は難破率多く、運賃特に不廉で批難の的となつてゐたのであつたが、六年開拓使の保護の下に、榎本・木村等の計畫した保任社は、海上保險の職能を帶びて大に航海の安全を計らんとするものであつたが、翌年早くも廢止の運命となつた。彼の五百石積以上の日本船航行を禁じたのは、近海に難破船の如何にも多かつたことを裏書するものである。その内に、三菱會社の青森・函館間定期航路開始せられ、併せて小樽その他の要港を連絡する航路亦經營され面目一新の觀を示すやうになつた。

## （二三）日常生活の變改と社會現象

次に、少しく看點を轉じて、開拓使の意圖によつて行はれた道民日常生活の變改について一言しよう。

第一、食料としての米作は、御傭教師等氣候營養その他の點より歸納して耕作を不適當とし之に代ふるに滋養多く土地に適せる麥類を以てすべしとせられ、一時切りにパン食並に雜穀の奬勵となつた。之は、一面道產自給策として米穀の輸入を戒しめたものでもあるが、然し日本人本來の米食の慾求は何としても抑壓することが出來ず、有名な島松の一老農の如きは、早くより稻田の耕作に力めて好成績を擧げ、續いて六七年以來、札幌附近を始め所在にその成功を示すものが續出して來た。要するに未だ試驗時代ではあつたが、開拓使としては傍觀の形ちになつたのである。

米作―禁止より試驗時代

次に、外來の果樹・蔬菜等を移殖し、洋種の家畜飼養の爲めには、東京に官園三ケ所を開いてこゝに馴致せしめ、道內では一は先に斯の普商ガルトネルの占有に歸して、國際問題を惹起した七重と並び猶一つに札幌にも官園を設け、專らアメリカ式の耕種を行ふて一般の模範となさしめた。

官園と外來植物

家屋の改良には、黑田長官の熱心なる主張の下に、コルサコフ・浦塩等を視察の結果、工匠を聘して角組作りの舍屋を建て、暖爐の設備を奬勵し、雪車をも普及した。

露國式家屋

玆に猶附說すべき要あるは、開發に伴ふ特殊の社會的習俗についてゞある。

遊廓と病院

第一遊廓の設置に關しては、函館には既に早く外人向の遊廓さへあつたが、松本・岩村等の判官率先してその必要を論じ、札幌の薄野遊廓の如きは御用女郎屋の公稱があり、「女郎屋亦開拓の一部」と公言せられ、斯の五年の娼妓解放令發布の際には稟請して北海道に限り除外せられんことを乞ふてゐる爲體であつた。然し、之が爲めには楳毒院等の設立早く實現し、函館・小樽を始め、一般に病院醫療の發達は著しいものがあつた。

**土工の移入**

それと相連關して、所謂土工夫の移入がある。その最初のものは、車道開鑿に際し、主として鹿兒島・東京などより來るもの五千餘人、續いて札幌經營の諸工事にあつても、五、六年の交五千人に近き從業者があり、爾來各種工事の行はるゝに從つて增大した。勿論事業終れば霧散したであらうが、今日猶問題となつてゐる土工部屋の問題の淵源は、既にこの邊にも潛んでゐよう。

**囚徒と土工使役**

次に囚徒と北海道は、幕領時代既に說を成すもの多く之を移して開拓に從事せしむべしとなし、後の西南騷擾の後暴徒を移して滿期の後定住せしむべしとの論、或は亦、之を屯營編兵の制とすべしと迄論ずるものがあつた位である。斯の如くにして、遂に十三年樺戶獄舍の設置決定し、空知監獄亦次いで成り、移された囚徒は、盛に道路開築、家屋建築並びに石炭堀りに使役されたのである。然も彼等の凶暴性は、よく脫走して所在を襲擊し、爲めに石狩川沿岸に於ける疎居村落が密居制となつてまで之を防衞したと云はれる例がある。

## (二四) 教育と舊土人問題

轉じて當時移住民の風尙を一瞥すると、力營して新天地の開發を期する壯夫も少くなかつたと共に、葱卒の際、概して素質のよくないもの亦多かつたことは、彼の十三年に福本誠視察の感想を北門時事に誌したものゝ中に「中土より此に移住するもの概ね無賴無產の民なり、故に全道到るところ狡猾譎詐風を成し、貪婪淫猥俗を成す、禮義を知らず廉恥を重ぜず」とあるのは、或程度迄肯定せざるを得ない。

**女子教育の目的**

この間にあつて黑田長官は教育に對して頗る高い理念を有ち、一路邁進せんとする概があつた。六年和蘭領事ホートキンとの對話中、開拓使女學校の目的を「北海移住ノ婦女子婦道ヲ知ラズコノ校ニテ仕立テタル女生徒ヲ以テ、北海ノ人民ヲ同化ノ域ニ導キタキ企テナリ」とあるのにも、その根本的に考へつめた面目が明白に窺はれよう。先きに、開拓使から米國へ我邦最初の女子留學生五名を送つたのも、同一の主旨である。

**クラークの感化**

然し女子教育は時期尙早く大體に於て失敗したが、ケプロンの獻言による札幌農學校は、クラークの如き良師を迎へて、全道教育の中心殿堂となることに成功した。彼の有名な就任演說と云ひ、訣別の辭と云ひ、宗教的に迄高潮された信念を、長く望み多き若き學徒の腦裏に烙印した。

**實用教育**

長官の教育に於ける關心は、亦小學校令改正に際して告諭した文句中、浮華輕擧を去つて實用を旨とすべきを切言せるものにも其意を汲むことが出來る。そして、一般民間にあつても鄕土に則した實用教育を主張するもの多く、七、八年以降、或は教科書には先以て北海道の形勢を熟知せしむる必要を論じ、或は學習時間を割いて職業教育を實施するものが續出した。殊に屯田學校にその特色が見られる。各都市には競つて小學校の設備を擴充し、就中十一年頃の學校視察記によれば、小樽が最も理想的に設備されてゐたかのやうに見受けられる。

舊土人留學

舊土人と土地問題

樺太土人

更に、アイヌ卽ち舊土人の問題がある。開拓使は早くその撫育策を講ずると共に、彼等の間に行はるゝ種々の舊習を一洗すべきを令し、五年には小樽土人二十餘名を東京の官園に送つて農業現術を學習せしめる企てがあり、岩村判官の送別報告に「土人ト妓ト席ヲ同ジウセルコト開闢以來未曾有」と云はしめたが、斯る突飛な試みの他面には、或は彼等の住宅を改良し、產業を奬勵し、八年には日高方面の舊土人に漁場をも割渡し、又千歲土人には耕地を附與してゐる如き、進んだ保護案が示されてゐる。そして十年に發布された地券條例中には、彼等の居住地は一切官有地に編入せられ、暫定的に所有權を保護することゝした。

八年樺太、千島の交換によつて、國籍を失つた樺太土人の集團は、石狩對鴈に移住することゝなつたが、之に對しては授產敎育等に亘り特に保護を篤うした。但し、總じて彼等は和人との接觸激しくなると共に、當然混血を重ね、或は優勝劣敗の原則に遵ふて、漸次戶口減少の傾向を示した。

## （一五）屯田兵村の設立

最後に、この開拓使時代の重要なる事業としての屯田兵村の設立について、一言しなければならぬ。

警備と拓殖とを兼ねしめんとする屯田の必要については、既に早く前幕領時代に於てその俑を始め、時局の進展と共に達識なる有司志士の間にその實施を論ずるもの少くなかつたが、今や開拓の實蹟漸く緒に就くに及び、札幌を始め要地の守備は目睫の急に迫まり、前記の如く四年には東京府と交渉して士族兵士一大隊を採用せんとし、細則を定めて實施されんとする迄になつたが、事を以て行はれなかつた。然し、屯田そのものゝ必要は決してなくなつたわけではなく、西鄕隆盛が桐野利秋を札幌に派して實地を視察せしめたのもこの頃であつたが、これ亦隆盛の廟堂を退くに及んで畫餅に歸した。然し、六年「非常の擧は非常の斷にあらざれば成る能はず」とする黑田長官の上奏によつて彌々その實現を見ることゝなり、八年に至つて東北三縣の士族を將來して、琴似屯田二百戶の兵村成立となつた。

札幌守備問題

屯田設置の上奏

屯田の實現

當時樺太問題を前にして、日魯關係が極度に險惡な場合に立ち至つてゐたのを知つたならば、この建言の頗る切迫せる所以を知るであらう。その間、札幌附近のみならず、室蘭・函館附近にも同時に之を置き、且つ在道舊藩並びに有珠・當別その他在住の士族をも配置する方針とし、松本大判官は彼等に兵農一致の理を書畫として附與してゐるのを見ると、そこには亦、封建より新時代への過渡期の色彩を濃厚に盛られた形が見られる。然も、當初その計畫に當り、東京・札幌間の主腦部の意見錯雜して、新立の兵村は狹區に密集し、稼穡の點になると豫想を裏切ることも少くなかつたが、次いで山鼻兵村成り、この時代の終る迄には江別・篠津等にも猶增設せられた。卽ち、札幌附近の防衛、拓殖の目的は一先づ出來上つたのである。

西南役出兵

明治天皇御巡幸

十年計畫の主要成績

その兵屋は、當初は一般移住家屋を參酌して造作されたものであつたが、江別は米國式、篠津は露國式の兵屋を試驗的に築造せしむるなど、屯田兵事務總理としての黒田長官の熱心は、こゝにもよく示顯せられてゐる。彼等の稼穡は、當初製麻、養蠶を主とすると共に、開墾に力めしめ、軍事的には、十年西南役には遠く戰線に出入して偉功を樹て、臨時に召集された豫備兵、亦東京に至つて守備の任に就いた。

試驗時代○屯田兵は、斯くの如くして次の發展を、極めて希望多く世間に誇示することが出來たのである。

## （一六）十年計畫の成績と官有物拂下事件

開拓使の十年計畫は、五年から起算して、十五年には彌々期限が來ることゝなつた。精算は扨置き、實際に二千萬圓以上に達した大支出は如何なる收獲によつて表はされたか、今や、その總計算を示す時となつた。十四年夏、明治天皇の御巡幸を仰いで、札幌を中心に小樽・室蘭・函館等に於ける開發の進歩を天覽に供したのは、親しく拓殖成績の御檢査を乞ひ奉つる意味合のものであつた。

今その成績を、更に括言するならば、この巨大の支出額は當時政府の豫算としては驚くべき割合であつただけに、當然刮目すべき成果がそこに見られなければならぬ。首都札幌とその近郊の農村

士族授產問題と移住

官業と世評

政商と利權

はゆるぎなき基礎を確立した。海陸の交通は面目を一新し、鐵道さへも一部の開通を見た。米國式の農耕牧畜は、新天地に特異の情景と實蹟とを展示した。石狩炭鑛の採鑿はその緒に就き、製材、製糸、鏞詰、麥酒等の新式工業は目覺しく眺められ、漁業に於ける場所請負の廢止と、海產物の支那輸出は開始された。軍備、教育、衞生、日常生活の改良、土人保護等にも劃期的の成功がある。全國的の問題であつた士族授產は、一面屯田兵への編入に於て、將亦この時代の末期に於て着手された開進社・德川・前田・毛利氏等の大農場の移住者將來によつて、解決の場面を與へた。

但し、斯かる官業保護萬能の事業は、一般にこの新時代への轉換期の現象として何方でも共通のものであつた。爲めに世論は、例へば岩内の製鹽業が四年より六年迄に一萬圓を費して、五十俵十五圓の收獲を擧ぐるに過ぎなかつたことを冷笑し、殊にケプロンの施設には反對頗る多く、內外の新聞を通じて批難相次ぐ樣であつたが、然し其等には大體に於て商敵、政敵の間の嫉妬と解すべきものが多分にあつた。

然し、この萬規一新の舞臺にあつては、得て利權屋の出現、資本主義の露骨な進出が目に餘る場合を普通とする。斯の長き全島經濟上の覇者であつた近江商人の活躍は、漸く下火となつて、根室・北見沿岸に於ける又十のそれを見る位に過ぎなかつたが、之に代はつて開拓使に因緣する、新しき政商の暗躍が目覺しくなつた。例へば三井組を背景とする木村萬平の如きは、前述の保全社と云ひ總べて御用達として札幌はじめ主要都市に根柢を据ゑ、支那貿易にも怪腕を振ふた。勿論三井組は

開拓使の當初より、小野・島田組と共に、金融に關すること總べてその委任を受け、四年には開拓使免換證券の發行及製造引換方を引受けて居り、五年貸附會所の設立に際しても開拓使は之を管理せしめ、斯かる關係から六年には支店を設くる迄になつてゐたのである。

官有物拂下規則

これより先き十三年、政府は十年計畫の始末として、開拓使工場拂下規則を定めて之を公示した。主旨とするところ、民間工業を奬勵する爲、工場其他を民業に移換の目的の下に之を拂下げんとするものであつた。而して、開拓使は之を關西貿易商會に拂下げんとするに及び、所謂官有物拂下事件の勃發となつた。

關西貿易商會との結托

右貿易商會は、開拓使在官の主腦者と緣因淺からざる鹿兒島出身の大阪商人五代友厚、長州出身の中野梧一等を主盟とするもので、安田・折田等の官吏と氣脈を通じ、札幌を始めとして各地所在の主なる工場・船舶等を、三十八萬圓無利子三十ヶ年賦とし、猶營業資本金十四萬圓の貸附、その他有利の條件をも併せて請願するものであつた。之では如何にひいき目に見ても、官紀紊亂とせられるより外なき有やうであつた。而も、明治天皇の北海道行幸に先ち、既に薩長出身の大官は之を是認して遂に勅許を得んとする迄の段取になつた。こゝに於て、輿論の反對は底止するところを知らざる迄進展した。時恰も自由民權論の盛に唱導された際のことゝて、新聞に演說に藩閥政府打倒の聲益々揚がり、國會の開設によつて公正の政治を行はざるべからずとの輿論に迄それは跳躍した政府部內にあつても無論反對はあつた。頭目大隈參議等取消の主唱者として起ち、遂に御前會議を

拂下反對の輿論



拂下取消と國會開設の詔勅

要請し奉つてやがて目的を達し、急轉直下二十三年國會開設の詔勅ともなつた。

この不當處理は、黑田長官が部下に引づられた形ちでもあるが、一代の失策として惜しむべきであつた。斯の如くして、十五年一月西鄕參議その後を承けて開拓使長官となり、翌二月開拓使を廢して、新に函館・札幌・根室三縣設置せられ、全道を分掌することゝなつた。

## (一七) 三縣一局制の失敗

三縣一局の不評判

開拓使を廢止して新設せられたる三縣分立制は、要するに內地各府縣の制度に倣つて、之と步調を合せる爲めの試みであつた。爲めに一つの大なる綜合的な組織を持つてゐた拓殖政策は、未完成のまゝ特殊の位置に殘されたまゝを、斯の如く無理やり分掌せられたものであつた。その結果としての開拓の主要事業は、それ〴〵當然四分五裂して各省に分取配屬の體となり、三縣は單に極めて內容の貧弱な一地方行政機關たるに止ることゝなつた。然し、この餘りにも細分されて不統一のまゝになつてゐた各省への分屬事項は、兎も角一まとめにされて農商務省管轄となり北海道事業管理局として統一されることになつた。爾來三縣一局の稱を得たのである。

然も其結果はと云ふと、大凡豫測される通り經費のみ徒らに膨大して事務繁雜、幾くならずして折角進涉した維新以來の大計畫はその途上に於て又々暗礁に乘上げた形ちになつた。殊に、時恰も

**不景氣と移住民**

全國的に十年戰爭後の不景氣襲來時代として、官民共に一層困難を感じた際であつた。但し、この不景氣は理外の理を以て、反つて移住民の激增となつた。之は、或る意味に於て、天保飢饉の際奥羽の貧民が西海岸地方に押しかけて來た場合と吻合する。即ち從來の移住者の供給所であつた東北地方とは別に、中國・四國地方から渡來のもの多く、後志の前田、石狩の岩見澤・廣島、釧路の鳥取村の如きは多くこの時代の移住に係るものである。その來因は、多く不景氣の結果その轉向を新天地に求めんとしたものである。而して亦、士族授產の保護令によつて、多くの集團が各地方より定着したのもこの時代であつた。

**近海海運の發達**

猶一つ、前代に於ける三菱會社によつて開始された海運上の活躍は、十六年に至つて共同運輸會社との對抗となり、劇烈なる競爭を續けたが、結局それは十八年に至つて合同し、日本郵船會社となつた。

## （一八）三縣一局の廢止と北海道廳時代の初政

**金子大書記官の實狀調査**

この間にあつて、意を北海道開發の將來に馳する人々は、衆口一致して三縣分立と一局との組織を批難した。即ち、岩村會計檢査院長の如きは、宜しく殖民局を置いて管理せよと論じ、十八年には西鄕農商務・山縣內務卿連署して、同じく殖民局を置いて統轄せしめよと主張した。同年、伊藤



**北海道廳の設立**

參議の命によつて具さに來道實狀を調査した金子大書記官の復命書には、詳細を極めて三縣と管理局との軋轢と、事務澁滯の弊を指摘して、宜しく現制を廢して殖民局を置き、長官に專權せしむべしとの意見を附した。

斯の如くして、十九年彌々、議合して三縣一局の廢止と共に、北海道廳の設置となつた。「全道の施設并びに集治監及屯田兵開墾授產の事務を總理」することが長官の權限であつた。十八年、永山將軍と共に上川を踏査した岩村氏は、最初の長官に補せられ山河盡く舊知の域に再任して銳意その抱負を實行した。

**新事業の大要**

その逸早く着手した、臨時北海道事務取調所に於ける施設事項の改廢は、頗る多岐に亘り、或は移民の直接保護を廢し、五年以來制行された土地賣貸規則を改めて拂下面積を原則として一人十萬坪とし、賣下に先ち先づ貸下を要することゝ定め、期間を十ヶ年以內とした。又ケプロン在任當初からやかましく實行を迫まられてゐた殖民地選定を開始して、約百萬町に近い原野を査了し、二十二年からは區劃制度の實施となつた。その最初の紀念すべき區劃地は空知の新十津川村であつた。同時に地形、地質、鑛產地の調査測量を續行し、陸上には上川道路を通じ、鐵道室蘭・上川線を計畫し、海運には港灣概測と燈臺の增設を計畫した。

**上川の開發**

更に亦、上川原野の開發に至つては最も熱心に計畫したところで、大擧天興の沃野を開いて行く行くは北京の地となさんとして努力を惜まなかつた。その後を承けた永山長官は、兼て屯田をも總

理し、亦熱心なる上川開發論者であつたので、更に北見鑿通の道路を畫策し、嘗てライマンの美辭麗句をつらねて唱導した離宮設定の實現を念じて出願し、二十二年上川郡に「一都府を設け離宮を設けらるゝに付計畫設定すべし」との示達を得た際には、全道の耳目皆この平原に集中される勢があつた。

貸下地と華族

而して亦、一面當時拓殖の進歩猶あきたらざる狀態にあるを憂ひ、政府はやつきとなつて華族富豪等に開墾投資を慫慂し、黒田前長官の如きも「皇族も彼地に土地を有して永住の所を定め、華族中有志の者は各奮て移住し産業を立つべし」と進言してゐるのであるが、今やこの機會に於て、三條・蜂須賀・菊亭の三華族は、上川の關門雨龍郡に於て特例を以て一億五千萬坪の貸下を得、又上川にあつても、當時の實測圖に、華族紳商用地或は本願寺用地など所見してゐるのは、彼等の占有を豫測したものと察せられる。

屯田極盛期

永山長官は斯して亦、二十三年より二十六年に亘り、上川に永山・東旭川・當麻の三屯田兵村を設置し、旭川の新市街はすく〳〵として發達した。猶、屯田はこれ迄に南部卽ち主として太平洋沿岸に、輪西・太田・和田の三兵村を置かれ、二十三年瀧川に亦一兵村の設置を見た。屯田に於ける永山將軍は殆ど終生をその發達に捧げたりと云ふべく、二十一年より二年にかけて主として米魯を視察し、コザックの兵村を調査して歸朝し、道內兵村設置の要地等も自ら踏査する程の熱心さであつた。斯して十五年乃至二十八年頃迄が屯田極盛期であつた。そして前開拓使時代には、猶一つ閉ざ



十勝原野の開發

れたる富源として殘された十勝原野が、十五年に至りて始めてオベリベツに拓殖のスタートを切つたのは、特筆すべき事件として記憶されなければならない。斯の如くして、二十四年帶廣を基點として開始された區劃撰定と共に、河口大津への道路開鑿は正に十勝の動脈を彫付けるものであつた。尙二十二年水災によつて故國を見捨て、七百戸近い大集團となつて移住した新十津川村も亦、その後空知原野の開拓に成功した。

## (一九) 北海道廳時代初期の各種會社

諸會社設立と失敗

北海道廳になつて以來の著しい政策——云はゞ岩村案は、從來官營の諸工場並びに土木事業等を可成民營に移すことを奬勵した。もとより之は當然の處置であつたものゝ、其結果に至つては、必ずしも豫期の成果を收められなかつた觀がある。例へば、北海道製麻會社の如きは順調に發達して今日に存續してゐるが、紋鬚及び札幌に創業された甜菜を原料とする製糖會社の事業は、共に失敗し、製藍を目的とする興産社は、これ亦廢業の止むなきに至つてゐる。同時に、北海道炭鑛鐵道會社の設定があるが、之には少しく說明の要がある。

北海道炭鑛鐵道會社

これより先き開拓使時代に計畫された、幌內鐵道の經營及幌內の石炭販賣を目的として設立された北有社は、その規模未だ全道開發の一重心としてはあまりに貧弱だつたので、道廳側の堀理事官

が中心となつて、更に六百五十萬圓の大會社組織として、室蘭より空知太並びに同所より夕張・空知石炭山への支線を敷設し、兩炭山を開採せんとする案を發表した。之も見方によつては、前に苦杯を嘗めされた官有物拂下事件の二の舞ひを豫想される危惧がないでもなかつたが、始めから事業の性質を大ビラにして公開主義をとつたので、案外スラ〳〵と計畫は進展して行つた。堀氏はやがて官撰社長として二十二年その職に就いた。

然も彌々その業を始むるや專斷の行爲眼にあまるものがあり、永山長官を偶像視して、鐵道敷設線路の變更を敢てするなどの横暴を示すに及び、二十五年、品川內務大臣は新任の渡邊長官をして道內に鬱積せる多年の情弊を革正せんが爲めて强いて之を罷免せしめ、所謂薩派の勢力は一掃せらるゝことゝなつた。之に代はつた高島社長の時代に至つて、會社は豫定の事業を完了し、益々發展の途上に就いた。

堀社長の罷免と薩派一掃

## (三〇) 結語に代へて

北海道廳時代の新しい部分、多分園田長官時代の十年計畫等のあたりから後は、別の講師によつて拓殖計畫の講義を續けられることゝ思ふから、私はこの邊で私の分擔を終ることゝしたい。

それにしても、結語に代へて、私は以上縷述した拓殖の進歩の大勢を、思ひ付いた二三の統計に

拓殖進歩の大勢



證徵して見たい。そしてこの新天地のこしかたゆくすへを、この殺風景ではあるが、然し儼乎たる指針として存する數字の示すところによつて、人さま〴〵の思ひを繞らして頂きたい。

第一在住人口は明治初年の推定約十萬が、昭和五年第三回の國勢調査表には二百八十一萬を示して六十數年間に二十八倍の增殖を示し、同十三年手宮・札幌間二十八哩（四十六粁）の鐵道は、昭和六年末に三千四百粁、開拓使時代の初期にはビク〳〵物であつた米作が、昭和五年末には既成水田既に二十萬町歩を越えて居り、亦同年末の全道生產總額は四億四千萬圓に上れるを敎へ、天下の視聽を蒐めた開拓使の十年計畫に於ける豫定支出一千萬圓の經費は、今昭和二年より向ふ二十ヶ年の第二期拓殖計畫に於て、總經費九億六千萬圓の豫定を示してゐる。

私の講義はこゝで全く完了したことゝする。

# 北海道鄕土地理教授細目並びに教授資料

附　北海道廳訓令第五十九號

札幌市教育會編纂部

# 北海道郷土地理教授細目並びに教授資料　目次


## 北海道郷土地理教授細目

(一)教材配當表……(一)
(二)尋五地理教授細目……(六)
(三)尋六地理教授細目……(一〇)
(四)高二地理教授細目……(三五)

## 北海道郷土地理教授資料

第一章　皇室と本道

(一)本道開拓に關する優諚……(三九)

(二)明治天皇の御巡幸……(四〇)
(三)皇太子殿下行啓(大正天皇)……(四一)
(四)攝政宮殿下行啓(今上天皇)……(四七)
(五)皇弟宮殿下御來道……(五一)
(イ)秩父宮殿下御成　(ロ)高松宮殿下御成
(六)皇室の本道に對する惠……(五二)
第二章　位　置
(一)位　置……(五三)
(イ)關係的位置(相對的位置)　(ロ)數理的位置(絶對的位置)　(ハ)地理的位置と人文
(二)形態……(五三)
(三)區域・區分……(五四)
(イ)區域　(ロ)區分
(四)面積……(五四)
第三章　地　勢(地形)
(一)半島部(肢節部)……(五五)
(イ)渡島山地　(ロ)點々火山列
(ハ)津軽平原部低地帶　(ニ)後志火山帶
(ホ)水　系　(1)河川　(2)湖沼　(ヘ)港　湾
(二)中央部……(五七)
(イ)石狩凹地帶(石狩低地帶)　(ロ)水系　(ハ)港湾
(三)羢形部(胴體部)……(五七)
(イ)　中央山脈(脊梁山系)
(1)樺太　(2)日高山脈　(3)十勝山脈　(4)石狩岳連山　(5)夕張山脈
(6)空知丘陵脈　(7)北見山脈　(8)天塵山脈　(9)雨龍丘陵脈　(10)旭川低地帶
(ロ)　千島火山帶
(ハ)　北見淺茅野帶(丘陵地)
(ニ)　東部陸羽地帶(十勝・釧路・根室平野)
(ホ)　水　系
(1)河川　(A)オホーツク港　(B)天塩井新面　(C)日本海新面
(2)湖沼　(3)港湾
(四)海流……(六〇)
第四章　氣　候

(一)概　觀……(六一)
(二)氣　溫……(六一)
(三)氣壓及び風……(六三)
(四)降水量……(六五)
(五)積雪量……(六六)
(六)海　霧……(六六)
(七)霜・流氷……(六七)

第五章　生物帶
(一)植物分布……(六七)
(二)動物分布……(六八)

第六章　産　業
(一)概　況……(六九)
(二)農　業……(七一)
(イ)概況　(ロ)耕地面積　(ハ)農家戸數　(ニ)農産物　(ホ)副業
(三)畜産業……(七八)
(イ)概況　(ロ)飼養頭數　(ハ)畜産生産品



(四)水産業……(八一)
(イ)概況　(ロ)漁船及従業者數　(ハ)漁獲及製造高
(ニ)北千島並に北洋漁業
(五)林　業……(九一)
(イ)概況　(ロ)林野面積及林相　(ハ)林産物
(六)工　業……(九四)
(イ)概況　(ロ)工場及職工數
(ハ)各種工業概況
(1)紡織工業　(2)機械工業　(3)窯業　(4)化學工業
(5)製材及木製品工業　(6)印刷製本業　(7)食料品工業　(8)電氣及瓦斯工業
(七)鑛　業……(一〇一)
(イ)概　況
(ロ)鑛産物
(1)石炭　(2)硫黄　(3)石油　(4)金・銀　(5)銅　(6)鉛
(7)燐鉱　(8)亜鉛鑛　(9)砂金・砂鉄
(八)商　業……(一〇五)

(イ)概況　(ロ)內國取引　(ハ)外國貿易

第七章　交　通

(一)概　觀……(一三三)

(二)鐵　道……(一三三)

(三)道　路……(一三三)

(四)驛遞及渡船……(一三四)

(五)港灣と航路……(一三四)

(六)航空路……(一三六)

(七)通　信……(一三六)

第八章　人　口

(一)人口數……(一三七)

(二)人口密度……(一三九)

(三)移民來往住者……(一四〇)

(四)移民世話……(一四五)

(五)土　人……(一四六)

(イ)概觀　(ロ)起原に關する諸說　(ハ)衣服　(ニ)食物



(ホ)住居　(ヘ)熊祭

第九章　教育・神社・宗教

(一)教　育……(一四〇)

(イ)概觀　(ロ)初等教育

(ハ)中等教育

(1)中學校、高等女學校教育　(2)師範教育　(3)實業教育

(ニ)特殊教育

(1)落土人教育　(2)補習教育　(3)社會教育及青年團、青年訓練所

(ホ)高等專門教育

(二)神社及宗教……(一四七)

(イ)神社及神職　(ロ)寺院及住職　(ハ)神道教會配教所

(ニ)佛道教會配教所　(ホ)基督教會講義所

第十章　政治・財政

(一)政　治……(一五〇)

(イ)北海道廳　(ロ)歷代長官　(ハ)道廳以外の諸官廳

(二)地方自治……(一五五)

(イ)道會　(ロ)市町村制
(三)財　政……(一五七)
(イ)概觀
(ロ)國庫歳出入
(1)歳入　(2)租稅外收入　(3)歳出
(ハ)地方財政
(1)歳入　(2)歳出
(ニ)諸稅負擔額
第十一章　都　邑
(一)都邑及名所……(一六八)
(イ)函館市及其の附近
(1)函館市　(2)五陵郭公園　(3)湯の川溫泉　(4)トラピスト修道院
(5)大沼公園　(6)福山町　(7)江差町　(8)八雲町
(ロ)小樽市及其の附近
(1)小樽市　(2)岩内町　(3)余市町　(4)蝦夷富士
(ハ)札幌市及其の附近





(1)札幌市　(2)眞駒內道廳種畜場　(3)定山溪溫泉
(4)野幌原生林　(5)江別町　(6)岩見澤町
(ニ)旭川市及其の附近
(1)旭川市　(2)大雪山　(3)神居古潭
(4)滝川町　(5)深川町　(6)砂川町
(ホ)室蘭市及其の附近
(1)室蘭市　(2)登別溫泉　(3)洞爺湖　(4)白老土人部落
(5)苫小牧町　(6)支笏湖　(7)夕張町
(ヘ)釧路市及其の附近
(1)釧路市　(2)阿寒　(3)厚岸湖　(4)根室町
(ト)帶廣市及其の附近
(1)帶廣市　(2)狩勝峠　(3)然別沼
(チ)網走町及其の附近
(1)網走町　(2)野付牛町　(3)藍戸の大森林
(リ)稚內町及其の附近
(1)稚內町　(2)利尻山
(ヌ)留萌町及其の附近

(1)留萌町　(2)羽幌町
(ル)浦河町及其の附近
(1)浦河町　(2)義經神社　(3)新冠御料牧場
(二)都市計畫……(一六一)
(イ)概觀
(ロ)都市の現狀
(ハ)都市計畫現況
(1)都市計畫區域
(A)函館市　(B)札幌市　(C)小樽市　(D)旭川市
(E)室蘭市　(F)釧路市　(G)帶廣市
(ニ)都市計畫街路
(1)函館市　(2)札幌、小樽市及旭川市
(ホ)都市計畫地域
(1)函館市　(2)小樽市　(3)札幌市、旭川市
第十二章　拓殖事業
(一)概　說……(一六八)
(二)拓殖事業……(二〇一)
(イ)移民招來と土地の給與　(ロ)處女地開墾の助成
(ハ)交通機關の施設と助成　(ニ)港灣事業　(ホ)河川事業
(ヘ)國有林の整理並に經營其の他　(ト)泥炭地及濕地の改良　(チ)水田の造成
(リ)農事試驗　(ヌ)水産試驗　(ル)工業試驗
(ヲ)産業奬勵補
第十三章　沿　革
(一)幕府時代……(二〇八)
(二)開拓使及三縣時代……(二〇九)
(三)道廳時代……(二一〇)

尋常科
高等科

# 北海道鄉土地理教授細目

## （一）教材配當表

| 尋五 | | 尋六 | | 高二 | |
|---|---|---|---|---|---|
| 題目 | 時 | 題目 | 時 | 題目 | 時 |
| 鄉土としての北海道 | | 北海道地方 | | 地球 | |
| 區域・位置・面積・戶口・地勢 | 一 | 區劃・位置・面積・戶口 | 一 | 地球 | 一 |
| 氣候・產業 | 三 | 地勢・氣候 | 二 | 地球の表面 | 二 |
| 交通 | 一 | 地方誌 | 五 | | |
| 都邑・北海道廳 | 一 | 產業・交通・都邑・政治 | 三 | | |

**日本**

- 我が國の領土四周・面積 一
- 地勢・氣候・産業・交通 一
- 國民・行政區劃地方區劃 一

**關東地方**

- 區域・地勢 二
- 産業 三
- 交通 二
- 都邑 二
- 伊豆七島・小笠原諸島 一

**奥羽地方**

- 區域・地勢 三
- 産業 三
- 交通 二
- 都邑 一
- 以上復習 二

本道沿革 一

**樺太地方**

- 區域・地勢 一
- 住民・産業 一
- 都邑・交通 一

**台灣地方**

- 區域・地勢 一
- 産業 一
- 交通・住民・都邑 二

**朝鮮地方**

- 區域・地勢 二
- 産業 二
- 交通 一
- 住民・都邑 一
- 關東州 二
- 我が南洋委任統治 一
- 以上復習 二

**陸地**

- 山脈 一
- 火山・温泉 二
- 河川 一
- 湖沼 一
- 平野 二
- 地殼の變動 四

**海洋**

- 海水・海底 一
- 海流 二
- 潮汐 一
- 波浪 一

**大氣**

- 氣温 二
- 雨 二
- 氣候 一
- 生物の分布 三
- 復習 二





**中部地方**

- 區分・地勢 五
- 産業 五
- 交通 二
- 都邑 二

**近畿地方**

- 區域・地勢 四
- 産業 三
- 交通 一
- 都邑 三

**中國地方**

- 區分・地勢 二
- 産業 二

**日本の總說**

- 山・川・平野 三
- 農業 一
- 養蠶・林業・牧畜業 一
- 水産業 一
- 鑛業 一
- 工業 一
- 貿易 一
- 交通・鐵道・航路・通信 一
- 總論 二

**アジヤ洲**

- 滿洲 四
- 支那 四
- シベリヤ 一
- 印度 一
- 東南アジヤ 一

**人類**

- 國家 四
- 政治 五
- 教育・神社・宗教 三
- 産業 一四
- 復習 二

| | |
|---|---|
| 交通 | 二 |
| 都邑 | 一 |
| 復習 | 二 |

| | |
|---|---|
| **ヨーロッパ洲** | |
| 區域・地勢 | 一 |
| 産業・交通・貿易 | 一 |
| ロシヤ | 一 |
| ドイツ | 一 |
| フランス | 一 |
| イギリス | 一 |
| イタリヤ・我國との關係 | 一 |
| **アフリカ洲** | |
| 區域・地勢 | 一 |
| エヂプト・南阿・交通 | 一 |
| 復習 | 二 |
| **北アメリカ洲** | |
| 區域・地勢 | 一 |
| 産業 | 二 |





| | |
|---|---|
| **四國地方** | |
| 區域・地勢 | 一 |
| 産業 | 二 |
| 交通・都邑 | 二 |
| **九州地方** | |
| 區域・地勢 | 三 |
| 産業 | 三 |
| 交通 | 二 |
| 都邑 | 一 |
| 薩南諸島 | 一 |
| 琉球列島 | 一 |
| 復習 | 一 |
| **五年總復習** | 二 |

| | |
|---|---|
| 交通・我が國との關係 | 一 |
| **南アメリカ洲** | |
| 區域・地勢 | 一 |
| 氣候・産業 | 一 |
| 交通・我が國との關係 | 一 |
| **大洋洲** | |
| 區域・オーストラリヤ | 一 |
| 諸島 | 一 |
| 世界と日本 | 二 |
| 地球の表面 | 三 |
| 道民・市民としてのかくご | 二 |
| **總復習** | |
| 産業 | 三 |
| 交通 | 七 |
| 都會 | 三 |
| 復習 | 一 |
| (北海道の將來と道民の覺悟) | 四 |

# （二）尋五地理教授細目

（北海道鄉土地理に關係あるものにとゞむ）

## 第一學期

| 週 | 題目及び時數 | 教材 | 教授要項 | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 一 | 鄉土としての北海道 六時間 | 一、區域<br>二、位置<br>三、面積及戸口<br>四、地勢<br>（一時間） | **要旨**<br>鄉土としての北海道の位置・區域・面積・戸口・地勢の大要を知らしめ地理學習上の基礎觀念を確立せしめる。<br>**要項**<br>一、區域<br>1. 概觀<br>2. 北海道本島及び屬島千島列島<br>二、位置 | **一、準備**<br>1. 大日本全圖及地質圖<br>2. 北海道地方全圖<br>3. 繪葉書<br>**二、注意事項**<br>1. 特に地理上の新語については一々既知の事例を引用して理解させる。<br>2. 國名が川や平野や支廳の名になつて出てゐるから一應國名を授けるがよい。<br>3. 地圖によつて自學的に觀察させるがよい。<br>4. 本島地勢斷面圖は十分に理解させる必要がある。<br>5. 本島は經濟上・軍事上にも極めて必要な地域であることを補說する。<br>**三、參考資料**<br>明治維新の頃まで蝦夷と稱せられてゐた此の地方のアイヌは自ら稱して、カイナと呼んでゐる。カイは土地の意味、ナは尊稱で、カイナは卽ちこの國の土着民の義である。古くはこのカイに加伊の字を充て、また蝦夷と書いてエゾと訓んで來た。久しく松前氏が管轄してゐたが明治二年七月始めて開拓使をおき、國名を選定するに當り時の開拓判官松浦竹四郎はこの「カイ」の語に海の字を充て、地勢の北方に偏してゐるので內地の八道に因んでこれを北海道と命名した |





1. 日本列島に於ける位置
2. 本道の四周

三、面積・戸口

1. 本道總面積
2. 本島面積・屬島面積・千島列島面積
3. 本道の戸口
4. 人口收容力と移民の招來

四、地勢

1. 全體の形狀
2. 菱形部の地勢概觀
   (イ)蝦夷山脈と千島火山脈
   (ロ)石狩川と沿岸平野
   (ハ)名寄・上川・富良野の盆地
3. 半島部の地勢概觀
4. 海岸

一　五、氣候概觀

二　六、產　業（三時間）

**要　旨**

本道住民の大略、氣候と農業との關係、各種の產業の近時の發達及び移住殖民地としての價値の大なることなどを知らせる。

**要　項**

一、氣候概觀

二、產　業

1. 概　觀
2. 水產業
   (イ)鰊・鮭・昆布等の主要產物
   (ロ)世界三大漁場の一
3. 農業・牧畜
   (イ)石狩川沿岸平野
   (ロ)上川其の他の盆地
   (ハ)十勝平野

のである。

一、準　備

1. 北海道全圖
2. 日本產業圖
3. 繪　葉　書

二、注意事項

1. 本島が特に水產物に富んでゐるのは主として海流の關係によることを知らせる。
2. 本道の夏は內地に比べて溫度低く且つ短いこと。したがつて農產物は內地のそれと異ることに注意させる。
3. 農場の面積並びに耕種の方法が大農式で內地のそれと趣を異にしてゐることを授ける。
4. 廣大な原野と、飼料（牧草・玉蜀黍・馬鈴薯等）に富んでゐるので、牧畜が盛に行はれることを知らせる。





三　七、交　通（一時間）

**要　旨**

北海道に於ける交通の現狀、發達の理由、並びに產業との關係を授ける。

**要　項**

交　通

1. 主要鐵道
2. 主要航路

三　八、都　邑

九、北海道廳

**要　旨**

北海道の市街が何れも市區井然たる

(ニ)北見海岸平野
4. 鑛　業
   石狩炭田地方
5. 林　業
   豐富なる林產
6. 工　業
   各地主要工業

5. 附圖第十四圖の利用を忘れてはならない。
6. 本島の農業・工業が盛大となつた理由を探究させる。

一、準　備

1. 北海道全圖
2. 旅行案內

二、注意事項

1. 鐵道の幹線は兒童に發見させたい。
2. 鐵道の發達が產業の開發を促した理由を考へさせる。

一、準　備

1. 北海道全圖

（一時間）

ること、並びにその理由と各都邑の特色、及び發達の理由を研究させる。最後にこれが行政機關としての北海道廳・北海道長官・十四支廳などについて授ける。

要項

一、都邑

1. 概觀

2. 主なる都邑、七市其の他

二、北海道廳

2. 札幌市街圖及附近地勢の模型

3. 各市街の繪葉書

二、注意事項

1. 都市の特色はその位置・環境によつて定まること。いづれも尙發展の餘地あつて將來有望なことを力說し以て移民招來に及ぶがよい。

2. 貿易港の輸出入の狀態を知らせたい。（極めて概略に）



# （三）尋六地理教授細目

（北海道鄉土地理に關係あるものにとゞむ）

| 第一學期 | | | |
|---|---|---|---|
| 週 | 題目及び時數 | 教材 | 教授要項 | 備考 |
| 北海道地方 一二 | | | |

要旨

惟ふに本道は本邦の東北端に位し地理上特殊の形體を有し、廣袤實に九萬方粁、國運の興隆に寄與すべき重大の地位を占むるに拘らず開拓未だ其の半に過ぎずして、前途頗る多事多端なるもあつて之が開發は一に道民の自奮自勵に俟つこと大なるものがある。此の重任を繼承して拓殖完成の責に任ずる者は實に現に小學教育を受くる兒童に外ならざるが故に宜しく本道の實勢を正解せしめ、其の特異性を明確にし、本道民としての重大なる使命を自覺せしむると共に、使命遂行に對する確固不拔の信念を養成せんことを期さなければな

一、準備（北海道全部に對して）

1. 地圖
   - （イ）北海道地方
     - 地勢交通圖
     - 產業圖
     - 氣候圖
   - （ロ）大日本帝國地圖
2. 模型
3. 繪葉書
4. 標本
   - （イ）產業標本
   - （ロ）動植物標本

二、道廳注意事項

1. 本學年に於ける本道地理教授に當りては尋常五年に於て授けたる事項を復習し、之を基礎として取扱ひを進むること。

2. 本要項は其の大體を示したるものなるを以て、實際取扱ひに當りては精粗宜しき

| | |
|---|---|
| 區域・位置 | |
| 面積・戸口 | |
| （一時間） | |

らぬ。

**要旨**

北海道の區域・位置・面積・戸口の大要を研究させる。

**要項**

一、區域

1. 北海道本島と主要屬島
2. 千島列島

二、位置

1. 關係的位置・四周及海岸
2. 數理的位置

本道經緯度の極點と本邦經緯度の極點との關係

三、面積・戸口

1. 本道總面積に對する本島及千島の面積の割合
2. 本道總面積と本邦各地方面積との比較
3. 帝國全版圖面積との比較
4. 人口分布狀態と密度
5. 府縣各地との人口密度との比較
6. 現在密度と可住人口との關係
7. 移民招來策
8. アイヌ人の人口と分布



を得ると共に、取扱順序の如きは適當に工夫排列し、且つ地理的事項相互の連關に意を用ふべきこと。

**注意事項**

1. 國際的に重要になりつゝあることに注意する。
2. 本道經緯度の極點は、

東經 139°21′—156°31′

北緯 41°21′—50°55′

千島列島北端は本邦最北端

3. 總面積 八、七七五・〇三六方粁割合 1

| | | |
|---|---|---|
| 本島 | 〃 | 7/8 |
| 千島 | 一〇、二八二方粁 | 〃 1/8 |

4. 本島人口分布は

| | | |
|---|---|---|
| 一方粁 | 約三二人 | （昭和五年） |
| 關東地方 | 四二七人 | 〃 |
| 近畿 〃 | 三六二人 | 〃 |
| 奥羽 〃 | 九八人 | 〃 |

4. 可住人口 六〇〇萬 現在の約二倍强
6. 移民法

一、國有未開地の貸付又は賣拂によりて成功後若くは企業着手したるものに其の土地を附與する方法を講じ、

一、移住民には汽車・汽船の半額を割引する。

一、入地後は適當な開墾又は經營の方法を授ける。

一、產婆を置き、拓殖醫を配置する。

一、教育費を補助す。

一、農業自作移民に對して三百五十圓の奬勵金を附與する。

7. アイヌ人の人口は逐年減少しつゝある。

一五、六八二人（昭和二年末）

太平洋岸に多い。

一　地勢

二　氣候

（二時間）

要旨

本島の氣候・地勢を知らしめる

要項

一、地勢

1. 概觀

2. 半島部

（イ）那須火山脈と山地

（ロ）火山と湖沼の分布

駒ヶ岳と大沼

羊蹄山（蝦夷富士）

有珠山と洞爺湖

樽前山と支笏湖

浦河　五四〇〇人　石狩　五八〇人

膽振　三六〇〇人　網走　五六〇人

河西　一六〇〇人　室蘭市　四九九人

釧路　九六三人　旭川市　二九二人

根室　六〇〇人　他支廳　一五〇人以下

注意事項

1. 本地方が那須火山脈によつて山勝となり火山・湖沼・温泉に富み、從つて景勝の地なることを注意し、又人生との關係に留意させる。





登別温泉　發電所

3. 菱形部

（イ）蝦夷山系

北見・日高山脈と石狩岳・天鹽岳・夕張山脈と天鹽山脈

（ロ）千島火山脈

旭岳を主峯とする大雪山火山群・層雲峡、（國立公園）

十勝岳と然別沼

雌阿寒岳・雌阿寒岳と阿寒湖屈斜路湖及摩周湖（國立公園）

（ハ）河川と平野

石狩川と石狩平野の廣袤

名寄・上川・富良野の盆地

2. 本山系は平行せる南北の方向をとり高度は大體北に低く南に高い。

（横斷鐵道に注意せよ）

3. 本平野は日本屈指の大平野で低平なるため石狩川は蛇行をなし、沼多く水害も亦

十勝川と十勝平野、釧路・根室平野、北見海岸平野、天鹽川とその流域

4. 海　岸

5. 地勢の總括

二、氣　候

1. 氣　温

(イ)氣温と緯度海流との關係

(ロ)本道四季の氣温と農業との關係。

(ハ)主要各地の氣温

(ニ)本邦各地氣温との比較

2. 雨量

(イ)雨量と海流・地勢・風向等との關係。

(ロ)本道各地降雪量と本邦各地降雪量との比較

ひどい。

4. 宗谷・天鹽兩山脈間の盆地列で通谷狀をなしてゐることに注意(鐵道に留意)。

5. 十勝平野は十勝川に浸蝕されて台地が多い。

6. 釧路・根室平野は台地の連續である。

7. 北見海岸平野は波狀地の平野である。

8. 本道を分ちて左の八區分とすべし。

一、半島部　五、十勝平野

二、石狩凹地帶　六、釧路・根室平野

三、盆地列　七、千島列島

四、天鹽海岸　八、北見平野

9. 氣候は低涼なため寒冷農産物を產す。

10. 日本海方面は降雪多く、太平洋方面は少い。





(ハ)海霧

(ニ)本道各地雨量と農林業との關係。

(ホ)主要地方降霜と農業との關係。

3. 風

風向・暴風等

4. 本道氣候の特質

5. 本道氣候と文化との關係

11. 寒暖二海流により太平洋・オホーツク海方面にガス發生し、農業及交通に害を與へる。

12.

| | | |
|---|---|---|
| 帶廣地方 | 九月二十六日 | 五月　終霜七日 |
| 旭川地方 | 十月　二日 | 五月　六日 |
| 札幌地方 | 十月　二日 | 五月十　三日 |
| 網走地方 | 十月　八日 | 五月二十一日 |
| 根室地方 | 十月　九日 | 五月　九日 |
| 函館地方 | 十月十　二日 | 五月　三日 |

13. 冬季北西風多く、夏季は南東風が多い。暴風は內地方面に比して弱い。

14. 本道氣候の特質は低温で概して雨量が少い。降雪多く梅雨の現象は殆どない。

15. 寒冷なる氣候のため開拓が遲れて居たが內地人多數の移住を見て大いに文化進みたるも、氣候が產業に多大の制約をなせるため、未だ內地諸地方に比して劣る。

二
三
四

## 地誌（五時間）

**要旨**

本島の地誌を地人相關的に考察せしめる。

**要項**

一、半島部

1. 渡島半島の烏賊及鰮漁
2. 江差・岩内方面の鱈
3. 余市附近の鰊漁及び林檎
4. 國富鑛山と銅・銀
5. 倶知安
6. 羅山
7. 函館市
   (イ)府縣との連絡港
   (ロ)貿易港と港灣設備
   (ハ)造船業
   (ニ)製罐工業
   (ホ)北洋漁業の根據地

**注意事項**

1. 産業總括中の「拓殖計畫」と「産業施設」は地誌教授の際土地々々に織りこんで取扱つてゆく、故に地誌教授前に産業總括要項を見ておく必要がある。
2. 烏賊・鰮　二〇〇〇萬貫（五六〇萬圓）（昭和五年）
   大部分は支那へ輸出。
3. 菜果　二九八萬貫（八四、四九八圓）
4. 本道最古の貿易港
   移出一六、四四五、六〇〇圓
   移入二六、七五三、八〇〇圓
   輸出二一、七〇〇、〇〇〇圓
   輸入一九、〇〇〇、〇〇〇圓
   昭和五年





(ヘ)軍事上の要地・要塞
(ト)五稜郭
(チ)函館放送局
(リ)市勢概況
(付)温川・根崎温泉
(ヌ)上磯のセメント工業
8. 小樽市
   (イ)港灣施設
   (ロ)貿易港と貿易概況
   (ハ)樺太及本島四海岸地方との連絡港
   (ニ)本道奥地との關係
   (ホ)製罐工業
   (ヘ)市勢概況
9. 室蘭市
   (イ)石炭及紙の輸出港
   (ロ)製鐵・製鋼業地
   設備　防波堤・岸壁・ドック等よく完備す
5. 潜海州・カムサツカ方面への漁具、食糧の仕入地、漁夫の乘船・下船地。
6. 防波堤・岸壁・石炭棧橋がある。

(ヘ)市勢概況

二、中央部

1. 石狩凹地帶
2. 石狩川の特徴
(イ)利用・治水工事等
3. 石狩平野の地味
4. 農　業
(イ)米・燕麥・じやがいも
豆類・亞麻
(ロ)札幌附近の玉葱・苹果
5. 石狩平野の牛
(イ)札幌市附近の乳製工業
6. 石狩川の鮭漁
7. 石狩町附近の石油
8. 石狩炭田
(イ)夕張町及主要採炭地
9. 札幌市

7. 石狩平野が低平なるため、石狩川は舟運の便あり、蛇行して三月湖・濕地を作る。爲に水害多く治水工事が行はれる。





(イ)行政の中心地
(ロ)學術の中心地
(ハ)工業の都市
ビール釀造及び製麻工業・
釀造・製材
(ニ)札幌神社
(ホ)市勢概況
(附)月寒歩兵二十五聯隊・
月寒札幌放送局・札幌
飛行場
(ヘ)定山溪
10. 江別の製紙工業
11. 苫小牧の製紙工業
12. 岩見澤
13. 瀧　川
三、胴體部
1. 上川盆地

8. 大學一校
中等校十一校
小學校十九校

(イ)上川盆地の農業(米)

2.旭川市

(イ)農産物の集散地

(ロ)醸造・製粉

(ハ)交通の衝所

(ニ)第七師團司令部

(ホ)旭川放送局

3.富良野盆地

(イ)農業

4.名寄盆地

(イ)農業　(ロ)除蟲菊

5.天塩海岸

6.留萌鯡漁

天鹽海岸のこんぶ・帆立漁と鱈・蟹

7.其の他

(イ)稚内





(ロ)浦河

(ハ)新冠御料牧場

8.蝦夷山系東部

(イ)南部　(ロ)十勝平野

(ハ)十勝平野の農牧業

じやがいも・豆類・燕麥

9.帶廣附近の甜菜

10.帶廣市

(イ)農産物の集散地

(ロ)交通要衝

(ハ)製糖會社

(ニ)市勢概況

11.釧路・根室

(イ)釧路・根室原野とその拓殖狀況

(ロ)殖民軌道

(ハ)釧路・根室海岸地方のこ

んぶ・鰯
(ニ)西別川の鮭
(ホ)釧路炭田
(ヘ)釧路附近の馬市
12. 釧路市
(イ)背後の炭山との關係
(ロ)山地・農林業との關係
(ハ)市勢概況
13. 根室町
(イ)水産製造
(ロ)水産物集散
(ハ)落石の無線電信局
14. 北見地方
(イ)帆立・鱒・蟹・鰈
(ロ)野付牛地方の薄荷
除虫菊
(ハ)鴻の台の金

11. 薄荷
全道　一三、〇〇〇町歩　一三八萬貫
本邦の七割　世界的産地





五　産業總括
六　交通・都邑
政治・沿革
(四時間)

(ニ)製粉(じやがいも・燕麥)
(ホ)網走
農産・林産物の集散地
15. 千島列島
(イ)地勢と水産業(のり)
(ロ)(附)幌筵の無線電信局
16. 將來に於ける千島の開發

**要旨**
地誌に織り込んでしらべた産業を總括して系統づけ、交通・都邑・政治・沿革について知らせる。

**要項**

12. 國家の經濟の諸題も、今や漸時北方に進み、北洋漁業擁護上特に樞要の地で、又航空科學の發達は此の列島の持殊的存在を世界に明示せんとし、軍事上重要の地位を占めんとしつゝあり。
産業上では水産業を主とし、南北千島を通し近時大資本に向ひ進展し、貴重海獸の保護繁殖と、中部千島の狐は世界の市場に聲名を上げつゝある。

**注意事項**

一、産業總括

1. 産業發達の狀況

2. 産業發達の現況

(イ)水産業

A. 北洋漁業の概觀

B. 本邦に於ける本道水産業の地位

(ロ)農　業

A. 本道農業の特色

(ハ)牧畜業

(ニ)鑛　業

A. 鑛山の分布

B. 火山地方の硫黄採炭量及全國的販路及地位

(ホ)林　業

A. 森林の分布

1. ポーツマス條約にて得たる權益として、露領沿海州及カムサツカ半島方面に漁業權を得たるに始まる。

漁獲物は鮭・蟹を主として陸上漁業たりしも、近年漁場入札は露國のものとなること多く、本邦人の借入は少い。隨つて漁業方法は沖合漁業となし得るやうに變りつゝある。

2. 石炭の採炭量＝本邦に於ける三割五分、販路は名古屋・金澤以東北を主とす。

地位＝本邦第二位

3. えぞ・とゞ松＝製紙原料（そして内地へ）

オンコ　＝鉛筆の芯（地へ）





B. 森林鐵道

C. 主要林産物販路

えぞ松・とゞ松・なら・せん・かつら・榉・落葉松

(ヘ)工　業

A. 工業の總觀

B. 本道各地の釀造・製造・製粉

(ト)商　業

A. 本道の移出入

B. 外國貿易と著名貿易港

なら　＝（西洋家具用として輸出さる）

せん・かつら・榉　軸木・箱材・安下駄・器具材として内地へ移出

落葉松

4. 移輸出入

移出＝農産品＝豆類・えん麥・そば・玉葱・薄荷・除虫菊

海産物＝昆布・鹽鮭・鱈・鰯・身欠鯨・乾鱈等

林産物＝丸太・角材・ベニア板・木炭

鑛産物＝石炭・硫黄

工産物＝新聞紙・セメント・澱粉・

ビール・パルプ・煉乳・バター

移入＝米・酒・味噌・醤油・酒類・密柑・煙草

衣類

（昭和四年）

輸出　四、九二〇萬圓

昆布・鰯・干鱈・豆・玉葱・枕木・木材・

石炭

輸入　三、六六九萬圓

米・豆粕・小麥・食鹽・砂糖・油・鐵・木

材

小樽　輸出入　三、〇二〇萬圓

函館　〃　二、五七二萬圓

室蘭　〃　四七五萬圓

釧路　〃　一五九萬圓

根室　〃　九二萬圓

支那　九五四萬圓　英國　七七八萬圓



米國　七一五萬圓　ソ國　七〇〇萬圓

關東州　一八八萬圓　比島　一五四萬圓

太洋洲　一六六萬圓

5. 第二期拓殖計畫

昭和二年度以降二十箇年に亘り　總額九六、三三〇萬圓を支出し、完成の曉は

人口六百萬人　耕地一五八萬町歩

牛馬一〇〇萬頭　米七〇〇萬石

雜穀二〇〇〇萬石　砂糖二億萬斤

を目標としてゐり。

6. 農事試驗場

東部　四　西部　十二

水產試驗場　五　八隻の汽船あり

北海道臨種畜場—眞駒內

分場—北見國訓子府

7. 客工事業は

3. 拓殖計畫と產業施設の概觀

（イ）農事・工業・水產試驗場

（ロ）種畜場

（ハ）治水事業

（ニ）客土事業

(ホ)養殖事業
(ヘ)殖林事業
(ト)港灣修築
4. 本道產業の將來
(イ)水產業の將來



琴似泥炭地試驗場—札幌郡琴似村
美唄　同　　—空知郡美唄村
早來火山灰地試驗場—勇拂郡安平村
高丘地試驗場—河西郡大正村
で行ひつゝある。

8. 拓殖計畫は地誌教授の時取扱ひ、本時はそれを全體的にまとめるだけにとゞめたい。

9. 本道產業の將來

(イ)水產業

本邦水產額の二分の一を占める本道は食料政策上重要な役割を負つてゐる。沿岸漁業へと進展するに伴ひ、漁港の設備と水產製造の方面に於て時代の要求に應じ進步の狀は見る可きも、尙今後の發達に俟つべきもの極めて多い。



(ロ)農業の將來
(ハ)牧畜業の將來
(ニ)鑛業の將來
(ホ)林業の將來

(ロ)農業

第二期拓計の樹立あり、將來成就の曉に於て現在の人口の倍餘を擁して猶余裕綽々として、道外に對する農食料品の一大供給地となり、其の前途眞に洋々たるものあり。

(ハ)牧畜業

本道には放牧適地九七萬町步を有し、飼料豐富・氣候適順・天惠豐かな上、第二期拓計に伴ひて今後優に牛五〇萬頭、馬四〇萬頭を容るゝ余地がある。

(ニ)鑛業

本道の鑛產は其の種類極めて多く、現在は石炭のみ多きも、今後充分なる調査と相俟つて將來を囑望されてゐる。

(ホ)林業

大體に於て堅實なる發達を遂げて居り

(ハ)工業の將來

5. 本道産業の使命

二、交通

1. 本道開發と交通との關係

2. 陸上の交通

(イ)鐵道網

函館・稚内及函館根室間の將來造林事業の進捗と共に國内に於ける主要なる供給地として聲價を保持するであらう。

(ハ)工業

原料たる海陸産物の豊富と石炭及水力電氣等の原動力の供給の潤澤は、相寄り相伴ひ、累次發展しつゝあるも、資本、技術の招來は刻下の急務であるが之れ等が滿さるゝ曉第二次拓計之れに伴へるありて、將來は充分期し得るのである。





幹線

主要支線

(ロ)將來の計畫

(ハ)道路網

(ニ)海陸連絡

A. 青函連絡

B. 稚泊連絡

3. 海上の交通

(イ)沿岸航路

(ロ)海外航路

4. 空中交通概要

5. 通信施設

(イ)郵便・電信・電話

(ロ)札幌・旭川・函館の放送局

(ハ)落石無線電信局

(ニ)幌筵無線電信局

6. 將來の交通

10. 青函連絡船は一日三回
稚泊連絡船は隔日一回

11. ラヂオ加入者　一六三〇〇人(昭和五年)

三、都邑
1. 産業發達狀況と都邑の關係
2. 都邑分布狀況
四、政治
1. 北海道廳
2. 支　廳
3. 市町村

一、本道の沿革
（一時間）

一、沿革
1. 昔の北海道
（イ）住民
（ロ）産業と交通
（附、探險家）
（ハ）松前藩時代
（ニ）幕府直轄時代
2. 明治以後に於ける本道の開發
（イ）開拓使時代
A. 島判官の事蹟
B. 黒田清隆の事蹟
C. 永山武四郎の事蹟
（ロ）北海道廳時代
A. 園田長官の十ヶ年計畫
B. 第一期拓殖計畫
C. 第二期拓殖計畫

12. 町村

二六四一級
二一五二級
一一二



## （四）高二地理教授細目

（北海道郷土地理に關係あるものにとゞむ）

| 週 | 題目及び時數 | 教材 | 教授要項 | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 學年末 | 北海道の將來と道民の | 第一、二時<br>一、北海道の開 | 要旨<br>本道開發の大要を授けて、本邦に | 注意事項<br>一、本道沿革を授くるに當り、明治天皇の |

覺悟（四時間）

發の遲れたる理由

二、本道沿革大要

第三時

三、第二期拓殖計畫の大要

第四時

四、北海道の將來

五、道民の覺悟

於ける地位を明かにし、本道の拓殖及文化發展の爲に專心努力せんとする精神を養ふにある。

要項

一、北海道の開發の遲れたる理由

イ、地理的位置上

ロ、氣候上

ハ、政治、經濟上

二、本道沿革大要

イ、維新前

ロ、箱館裁判所及箱館府時代

ハ、開拓使時代

ニ、三縣一局時代

ホ、北海道廳時代

三、第二期拓殖計畫の大要

イ、計畫樹立

昭和二年度以降二十ヶ年

「蝦夷地開拓に關する御優諚及本道御巡幸に就て附說する。

二、第二期拓殖計畫を授くるには尋常六年に定められた要項と連絡するを要す。

三、本課教授に當つては專門的に亘ることなく、鄉土開發の精神を養成するを目的とすること。





ロ、總費用

移植民、土木施設

九億六千萬圓

拓殖財源

ハ、計畫目標

人口六百萬の收容

百五十八萬町歩の耕地の墾成

米七百萬石の生產

雜穀二千萬石の收納

甜菜糖二億萬斤の精成

牛馬百萬頭の充實

四、北海道の將來

イ、未完成としての北海道

ロ、經濟文化の建設

ハ、本邦に於ける將來の地位

五、道民の覺悟

イ、道民の努力

# 北海道郷土地理教授資料

## 第一章　皇室と本道

### (一)本道開拓に關する優諚

尊王攘夷にやかましき世を送り、明治の新政を仰ぐや、明治大帝には政務多端の折なるにもかゝはらず、明治元年三月九日親しく總裁、議定、參與を召させ、

兵革草卒ニ不可言之勢ニ至リ内外御多難之砌三職百定ノ輩奮發勉勵之力ニヨリ即方略方向相立候段深ク御滿足ニ思召サル

との勅旨を賜はつた。翌二年六月四日鍋島督務にも左の勅語を賜はつた。

蝦夷開拓ハ　皇威隆替ノ關スル所一日モ忽ニスヘカラス汝直正深ク國家ノ重ヲ荷ヒ身ヲ以テ之ニ任センコトヲ請フ

其憂國濟民ノ至情朕嘉納ニ堪ヘス獨恐ル汝高年遽ニ殊方ニ赴クコトヲ然レトモ朕之ニ委ス始テ北顧ノ憂無カラン仍テ督務ヲ命ス他日　皇威ヲ北彊ニ宣ル　汝方寸ノ間ニ在ルノミ汝直正懋哉

**明治二巳巳六月四日**

次いで同年八月二十五日更に東久世通禧を開拓長官に任じ給ふや次の如き御沙汰を賜はる。

北海道開拓ハ　皇威隆替ノ所係方今至重ノ急務ニ候今般彼地ヘ出張數百里外殊方ノ寒彊ニ其事務ヲ管督候事不容易艱難一入苦勞　思食候就テハ向後土地墾闢人民蕃殖北門ノ鎖鑰嚴ニ樹立シ　皇威御更張ノ基ト可相成樣勉勵盡力可有之旨御沙汰候事

**明治二年八月二十五日**

すべて之拓殖行政不易の信條である。

## (二)明治天皇の御巡幸

### 一、明治九年の御巡幸

大帝には七月十六日午後一時三十分函館港に入らせ給ふ。供奉員は右大臣岩倉具視、內閣顧問木戸孝允、內務卿大久保利通、參議大隈重信、宮內卿德大寺實則、侍從長東久世通禧以下總員二百三十名である。

七月十六日　快晴　午前六時青森を御召艦明治丸に御搭乘御出發、午後一時三十分函館御入港

午後三時行在所東本願寺御到着、英國領事に謁見を賜ふ。

午後三時四十分行在所御發輦、開拓使函館支廳、函館病院、松蔭學校、會所學校御視察、午後六時十分行在所へ御還幸。

七月十七日　晴　午前六時三十分、行在所御發輦、函館裁判所、七重村勸業試驗場、五陵郭御視察、午後八時行在所へ御還幸。

七月十八日、晴　午前六時三十分行在所御發輦、函館砲臺、函館稅關御視察、午前八時函館御發輦。

### 二、明治十四年の御巡幸

明治九年の御巡幸は僅かに函館附近に止まつたので、大帝には更に機を俟ち御巡幸の御思召あらせらるゝ旨洩れ承つた。然るに開拓使は其の十年計畫が明治十五年一月を以て終了することになつてゐるので、其の以前に拓殖の實況を天覽に入れ奉らんことを切に希望し、開拓長官黑田清隆より內請する所があつた。玆に於て明治十四年北海道へ御巡幸の旨仰出され、扈從二品北白川宮能久親王、左臣有栖川宮熾仁親王、參議大隈重信、同大木喬任、宮內卿德大寺實則、宮內大輔杉孫七郎以下數十名であつて、其他參議兼開拓長官黑田清隆、內務卿松方正義等は先發の任に當つた。

八月三十日　曇　午後五時小樽港着、汽車(義經號)にて午後九時札幌着、行在所豊平館。

八月三十一日　晴　午前九時二十五分御出門、開拓使本廳、工業場、紡織所、麥酒製造所、葡萄園、札幌農學校、農園、勸業試驗場を御視察遊ばされた。

九月一日　半晴　午前十時御出門眞駒內牧場、山鼻村屯田、山鼻學校、札幌農學校、博物館、偕樂園內清華亭に臨

御あらせらる。

九月二日　晴　午前七時御發輦、月寒、野幌、島松、漁村に御小憩の上、千歲驛新保鐵藏宅へ御着輦遊ばされた。

九月三日　晴　午前七時御發輦、勇拂郡植苗村、同郡沼の端、苫小牧村、錦多峰村、白老郡、社台村に御小憩の後白老驛御泊行在所大澤周次郎宅御着輦になつた。

九月四日　晴　午前七時御發輦、白老郡敷生村、阿與呂に御小憩、御晝行在所幌別村、午後、鷲別村、ペシホッケ、母戀にて御小憩、午後五時五十五分、室蘭山中萬次郎宅へ御着輦あらせらる。

九月五日　晴夜雷雨　午前七時御發輦、短艇にて迅鯨艦に乘御、十一時三十分森村に御着艦、阿部重吉宅に御着輦あらせられた。

九月六日　曇後晴　午前七時森村御發輦、燒山、蕗菜沼、峠の上にて御小憩、後御晝行在所函館師範學校附屬舍に御到着後、七重勸業試驗場、桔梗野に御小憩、午後四時四十七分函館の行在所天神町醫學所に御着御になつた。

九月七日　晴　御退道の日。午前八時二十分御發輦、八時三十分御召艦迅鯨に移御あらせられ、拔錨青森に向はせられた。

## (三)皇太子殿下行啓(大正天皇)

大正天皇亦先帝の御聖旨に基き、夙に本道の開拓に御軫念あらせられ、明治四十四年當時東宮殿下におはします頃、本道に行啓遊ばされ、八月二十日より二十有四日の永きに亙り、津々浦々に至る迄具さに御視察を辱ふし、北門開發の一層緊要なる旨の御諚をさへ賜はつた。左に御日程の概要を謹記し奉る。

第一日(八月二十日　小雨)

一、函館御入港、御旅館公會堂

二、函館商船學校、函館高等女學校、函館商業學校、函館控訴院御視察。」

第二日(八月二十一日　雨)

一、函館公園、函館要塞、園田牧場、大沼公園御見學。

第三日(八月二十二日　雨)

一、函館重砲兵大隊、五陵郭、函館中學校、湯ノ川競馬場御視察。

第四日(八月二十三日　曇)

一、函館御發駕。

二、森、八雲を御通過。

三、小樽着御、御旅館公會堂

第五日(八月二十四日　晴)

一、小樽公園(全區小學校の體操・遊戲台覽)小樽高等女學校、小樽中學校、小樽高等商業學校、外國武官謁見、築港